

田辺市のひきこもり支援

(窓口開設 20 年目の報告)

ひきこもり相談窓口

ひとのわ



令和2年4月～令和3年3月

和歌山県田辺市

目 次

I . 田辺市におけるひきこもり支援	
1. 田辺市ひきこもり支援	 1
2. 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ	 4
II . 田辺市ひきこもり検討委員感想	 5
III . 令和2年度 支援の実際	
1. 相談実績	 10
2. 支援の報告	
(1) 家族会(ほっこり会)	 14
(2) 青年自助会実績	
(3) 啓発活動・視察・問い合わせ	
(4) ひきこもり支援啓発講演会	 15
(5) 田辺市ひきこもり検討委員会 議題／活動	 19
(6) ひきこもり検討委員会 講義	 20
IV . 参考資料	
1. ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ビラ	 57
2. 認定NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ	 58
3. NPO法人 かたつむりの会 紹介ビラ	 62
4. NPO法人 共生舎 紹介ビラ	 63
5. 田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱／委員構成	 64

I. 田辺市におけるひきこもり支援

＝自粛生活を経験し、ひきこもり支援について考える＝

田辺市では、平成 13 年にひきこもり相談窓口を開設するとともに、保健、医療、福祉、教育、雇用などの関係者からなる「田辺市ひきこもり検討委員会」を組織し、相互の連携を図り、協力しながら課題の解決に取り組み、20 年目を迎えました。

そして、相談窓口を市民の方々により身近に感じていただけるよう、愛称を募集したところ、全国からたくさんの応募があり、その中から「ひとのわ」に決定致しました。

ひきこもり支援の取り組みを始めた当時に比べると、ひきこもり相談窓口は地域の中で、身近になってきたと感じています。

また、若者に対しては、相談窓口以外にも相談できる機関が増え、ひきこもり支援に関わる関係機関の活動も盛んになり、社会資源も充実してきました。

しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の出現により、日本中、世界中の人々が今までの生活様式とは異なったものとなり、自粛生活において、初めて「こもる生活」というのを余儀なくされ、不自由を感じ、生きづらさや寂しさ、1 人でのいることの不安を感じたのではないかと思います。

そう思うと、ひきこもり状態にある方を含む生きづらさを抱えている方々が、希望や自分自身に対する肯定的な感覚、地域社会とつながっている感覚などを、再び見出していく過程を取り戻していくことは、とても困難であると考えます。

そのため、自宅以外に安心できる自分の居場所や人との交流の場、学ぶ場、働く場、社会に貢献する場を、少しずつ見出していくことが必要です。

さらに、相談機関の啓発を続けていき、8050問題も含めつつ、より相談しやすい体制を整備すると共に、地域住民が安心して過ごせる街づくりをどうしていくかを考えていくことが、これからの課題ではないかと思っています。

今後も引き続き、ひきこもり検討委員の皆様と共に、ひきこもり相談窓口「ひとのわ」の周知や気軽に相談していただけるような体制づくりに努めながら、切れ目のない支援を構築していけるように、ひきこもり検討委員会を中心としたネットワークを活かし、中学校や高等学校等の教育機関や支援機関とも連携を図り、人の輪を大事にしながら支援できるように取り組んでまいりたいと思います。

ひきこもり支援の経過

平成 9 年 6 月	議員一般質問。
平成 13 年 1 月	田辺市ひきこもり検討委員会を設置。
平成 13 年 3 月	ひきこもり相談窓口の開設(保健師 1 名専任)。
平成 13 年 4 月	田辺市ひきこもり検討小委員会の設置。
平成 14 年 5 月	HAPPYが、ハートツリーハウス開所。 社会的ひきこもり青年の居場所活動開始(国・県より補助金)。
平成 14 年 6 月	田辺市ひきこもり家族会の設置。
平成 16 年 1 月	田辺市ひきこもり青年自助グループの育成(月2回)。
平成 16 年 3 月	ひきこもり相談窓口担当者1名増員。 2名(保健師・相談員)体制に。
平成 16 年 4 月	田辺市ひきこもり家族会が自主運営。
平成 17 年 4 月	ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)が開始(週 1 回)。
	ハートツリーハウスが、「ひきこもり者社会参加支援センター」 運営事業補助金を受けて運営(県・市の補助金)。
平成 18 年 10 月	ハートツリーハウスがNPO法人認可 ハートツリーに名称変更。
平成 20 年 8 月	NPO法人ハートツリーが南紀若者サポートステーション開設。
平成 21 年 4 月	ひきこもり青年自助会(知音CHI-IN)が休会。
平成 26 年 4 月	南紀若者サポートステーションが、若者サポートステーション With You 南紀に名称変更。 (県より若者総合相談窓口 With You 事業が委託されたため)
平成 27 年 4 月	ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリーが、 ひなたの森に名称変更。
平成 29 年 12 月	NPO法人ハートツリーが認定NPO法人に正式認定。
平成 31 年 4 月	認定NPO法人ハートツリー ひなたの森の 和歌山県「ひきこもり者社会参加支援センター」事業が 国の「ひきこもりサポート」事業に移行。
令和 2 年 4 月	若者サポートステーション With You 南紀で、 サポステ・プラス 就職氷河期世代の就労支援がスタート。
令和 2 年 10 月	ひきこもり相談窓口の愛称が「ひとのわ」に決定。

田辺市ひきこもり支援ネットワーク

- ◆ 官民を超えたひきこもり支援対策の構築
- ◆ 事業報告・計画への意見
- ◆ 視察・講演会等への協力
- ◆ 対応が困難な事例の相談
- ◆ 委員の学習会

ひきこもり検討委員会 (年2回)

市担当課（商工・福祉）
紀南児童相談所
田辺市教育研究所
田辺市養護教諭研究会
和歌山県教育庁
紀南教育事務所
高等学校
紀南こころの医療センター

ほっこり会（家族会）
知音 CHI-IN（自助会）
学識経験者
精神科医師
臨床心理士・公認心理師
NPO法人 かたつむりの会
NPO法人 共生舎
（公社）白浜・田辺青年会議所

ひきこもり検討小委員会 (月1回)

市担当課（保健・福祉・教育）
田辺保健所
田辺市障害児・者相談支援センター
ゆめふる

やおき福祉会
ふたば福祉会
認定NPO法人 ハートツリー
ひなたの森
若者サポートステーション
With You 南紀
学識経験者
臨床心理士・公認心理師

※  公的機関  は民間機関

ひとのわ

ご家族・ご本人さんだけで悩んでいませんか？

不登校のまま卒業・・・

中退後自宅中心の生活をしている・・・

進学、あるいは、就職したけれど途中で社会参加をしていない、

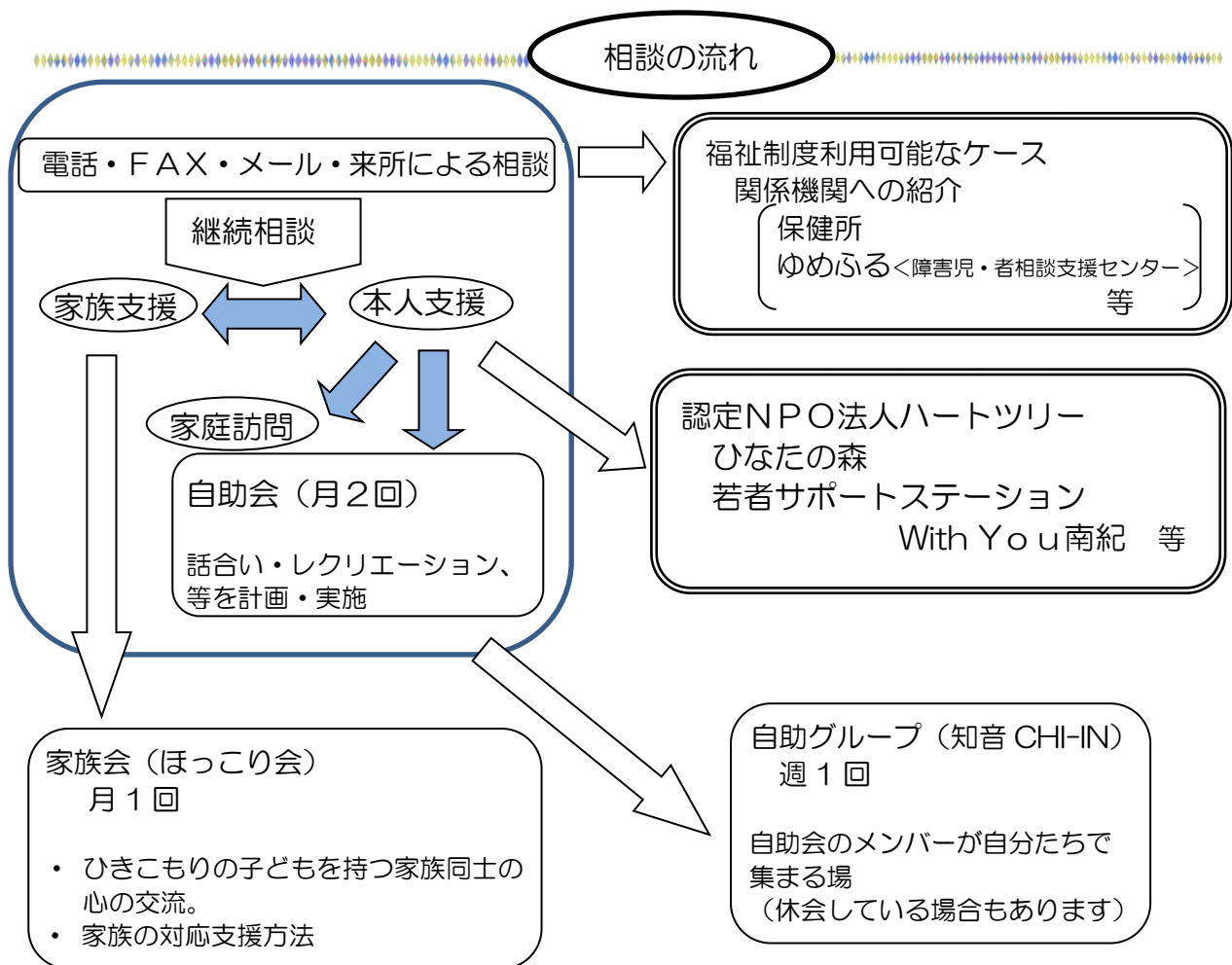


まずは、電話・メールをいただけませんか？

相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していきます。

自助会、家族会（ほっこり会）があります。

会への参加は、相談窓口担当者がお会いした後紹介させていただきます。



問い合わせ先

田辺市健康増進課

TEL : 0739-26-4901(平日8:30~17:15)

TEL・Fax : 0739-26-4933(ひきこもり相談窓口専用)

E-Mail : shc@city.tanabe.lg.jp

Hp : <http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>

※ 保健所にも「ひきこもり」相談窓口があります。

田辺保健所 TEL 0739-22-1200(代表) (平日9:00~17:45)



Ⅱ. 田辺市ひきこもり検討委員感想

『 ひきこもり検討委員会を振り返って 』

田辺市ひきこもり検討委員会 委員長

社会福祉法人やおき福祉会 西脇 潤

まずはコロナ禍の中、感染予防とひきこもり支援の両立を行い支援の現場を担っている関係各位のみなさまに感謝申し上げます。

コロナ禍では、国民一人一人が人との接触を避けつつ、情報共有や連帯感をもって社会生活を営むための、新しいコミュニケーションの在り方がたくさん提示されました。ひきこもり検討委員会においても、後援会等の啓発活動などもリモートで行うなど、新しい取り組みとなりました。ある意味、新しいことへのチャレンジが出来たのかなと思っております。こうした手法の発達で、孤独になりがちな「ひきこもり支援を必要する方」への支援手段として確立され、効果を発揮してくれればと期待しています。

また、田辺・西牟婁の具体的な事例などに目を向けますと、全国的な傾向と同様に 8050 問題といった、高齢化するひきこもりとその親御さんからの SOS に対処するケースが増えてきています。高齢化に伴い精神疾患や成人病といった「ひきこもり状態」以外の要素も複合的に加わり「生きづらさ」を抱えながら暮らしている方も増えてきているように感じます。

地域社会全体に閉塞感の漂う昨今ですが、こんな時代だからこそ、小さな努力や行動の積み重ねが、未来を明るくしてくれることを信じて今後もこういった問題に関わって行ければと思っています。

『 ひきこもり検討委員会を振り返って 』

田辺市ひきこもり検討委員会 副委員長

学識経験者 浅井 育子

ひきこもり検討委員会にかかわらせていただくようになって 12 年になります。私事ですが昨年独立し、心理相談室を開設しました。今年は世界中が未曾有の状況に陥り、誰もが手探りで今後の生き方を考えざるを得ない事態となっています。相談室にお越しくださる方の悩みは、以前より「孤独感」についてのものが増えているように感じます。ステイホームや自粛要請により、人と会うことや気分転換に出かけることが難しくなるなかで、本来ならば友人と食事をしながら話したり、趣味にうちこんだりすることで発散できていたストレスが蓄積されていってしまう。そのうえ先の見えない不安も重なる。誰にも相談できずひとりで思い詰めてしまう方がいるのも当然といえるかもしれません。

以前「ひきこもり状態の人は前からステイホームなんだから逆に良いのでは」という意見が書かれた記事を読みましたが、それは違うと思います。家族が仕事に行っているときは自由に家の中で過ごせていたのに、テレワークや自粛でずっと家族がいるために部屋から出られない。やっとの思いで趣味の場に出かけたり運動を始めたらしよと思っても、その機会ごとなくなってしまう。孤独を感じていた人がさらに孤独感を強めていく。新型コロナウイルスは私たちの身体だけではなく、心も確実にむしばんでいっています。

私たち支援者ができることは、つながりを保つ方法をひとつでも多く探すこと、あなたはひとりではない、味方がここにいるということを何度でも発信し続けること、そして支援者自身も孤独感や無力感にのみこまれないよう、ともに支えあうことが大切だと思います。

会議を開くことも難しい状況のなか、感染対策を徹底したうえで毎月小委員会を開き、皆で顔を合わせる機会をなんとか作り続けてくださった健康増進課の皆様に感謝します。啓

発講演会も何度も検討を重ね開催することができました。この数年があったからできるようになったこともあったね、と後に皆で言えるよう、一緒に乗り越えていきましょう。

『 ひきこもり検討委員を振り返り 』

田辺市ひきこもり検討委員会 副委員長

若者サポートステーションWith You 南紀 南 芳樹

2 年におけるひきこもり検討委員としての振り返りを考えましたが、今期はなんといっても新型コロナウイルスという問題に大きく振り回される年であったことは言うまでもありません。

私が生まれてから、知る限り初めてのパンデミック(世界的大流行)であり、映画や小説の中での世界が現実的に起こり、そして自分の日常をも脅かす事態となってしまいました。

自分の好きな時間に出かけ、好きな場所にいき、好きなように時間を過ごす。

これまでは当たり前でできていた「日常」が一気に崩れ去り、生活のほとんどすべての場面において制限がかかってしまい、ごく当たり前に感じていた「日常」というものを奪い去られてしまう事態になりました。

そして、それがこんなにも苦痛やストレスに感じてしまうものなんだなって初めて痛感する。そういう期間でした。(今現在もそうですが)

要因・原因や考え方は違っても、外に出る事や他者との関りに不安を感じたり、生きにくさを感じる若者も、もしかしたらこれまでずっとこのような苦しさやしんどさを感じていたのかと思うと本当に毎日毎日を一所懸命に生きているんだということを同時に感じます。

来所相談・訪問相談など支援の中心となるものが自粛せざる得ない状況になったが、多くの方から(本人さんからも)「出来るなら来てほしい」「訪問してほしい」という声もあり、人との繋がりを求めていること、その繋がりの中に自分も入れているということが私自信にとっても大きな励みになりました。

まだまだ世界中で、先の見えない不安、この先どうなっていくか分からない状況が続いております。しかし、たとえミリずつでも前に進んでいくことが大事なことだと思います。

僅かな歩幅であっても、いつか振り返った時に細々と続く道を見ながら、確かに歩いて来たんだなと思えるように皆さんと一緒に歩きたいと思っています。

検討委員の振り返りというより、自分自身の振り返りになってしまいましたが、2 年間、委員を務めさせていただき、ありがとうございました。

『 作業所運動の担い手たちの支えは大きい 』

学識経験者 布袋 太三

昨秋、ひょんなことから「ひきこもり検討委員会」で小一時間ほどの話をさせてもらった。私が最もロートルだからということだったと思う。

その中で私はこれはどうしても言っておきたいことがあったのだが、話の流れの中でどうも薄まってしまったような気分がして気持ちが落ち着かない。そこで、この場を借りてそのことに触れておきたいと思う。

それは田辺のひきこもり支援草創の頃からの作業所運動の担い手たちの支えについてである。

彼らはひきこもる青年の疲弊した心性に工まずして思いを接近しえていた。

思い起こせば、米川氏や寺沢氏だけでなく何人もの方々が本当に労を惜しまず支えを続けられていた。

私は彼らの献身をつき動かす静かなパトスのようなものの本源は何かといつも思っていた。

その後いろいろな場所で彼らの人となりに触れるうちに、私はふと何かの拍子に「あっ、これか」と思わせられる彼らの言葉や所作に出くわすことがあった。そして、それは次第に頻回となっていく。

要するに、彼らはいわば、自然体だった。何の計算も、気負いもなく、そして意味付与もなく、ふつうに、それらは生得的にインプットされていたかのように、そこに困難を抱え迷える青年がいれば、できる限りサラリとした手伝いをするのが習性のような人たちなのだ。そこに大仰な言葉や理屈はまったく必要なかった。

あえて言うなら、どんな困難を抱える対象であっても“排除なき共生”への思いがもはや肉体化されていると言っている。

まさに多様な心と身体で人々は其処存在するわけだが、人としての価値の絶対性だけはどんなことがあってもふつうに認め信頼を寄せるという実に夾雑物のないシンプルな潔さが原点なのだろう。

私はずっと昔からのあの米川氏の飄々とした立ち居振る舞いと折にふれて意外と繊細な物言いを選ぼうとする心遣いは掛け値なくなるとも魅力的だと思ってきた。

また、西脇氏はきわめて理知に富み、どんな複雑な状況でもその的確な言語で見事に解析してしまうという希有な能力の持ち主だと思ってきた。

こうして今も昔も「ひきこもり検討委員会」は作業所運動の担い手たちによってまぎれもなく深い所で支えられていることに改めて思いを致したい。

私自身は諸事情もあって、もはや残された道はフェードアウト以外ないと思っているが、田辺のひきこもり支援はいかにも多彩でまじめな人材に支えられているので、もうここまでくれば大過なく日々の課題に向かうことができるに違いないと私は確信している。

『 ひきこもり検討委員として、そして居場所のスタッフとして 』

認定NPO法人 ハートツリー ひなたの森 向井 美佳

早いもので、ひきこもり検討委員をお引き受けして4年が経ちます。この間、様々なケースや他機関の方々に会うことで、大きな力を頂いたこと、感謝しております（とはいえ、まだまだ足りないところばかりの私ですが…）。

今、「ひきこもり検討委員として」と考えると、皆様から知識や情報を頂くばかりで私の方からは現状をお伝えすることが精一杯という程度。今期も何もできなかったなあと反省するばかりです。次の機会にはもう少し、ひきこもりで悩んでおられる方やこの会にお返しができるよう、お役に立てるようまだまだ努力しなければと考えております。

さて、居場所「ひなたの森」のスタッフをさせていただいている私にとって、平成 31 年度の県の「ひきこもり者社会参加支援センター」補助金制度から国・市町村の委託事業「ひきこもりサポート事業」への移行、昨年度からのコロナ禍のなかでの対応などは大きな不安もありました。しかし、どのような状況下でも、「ひなたの森」にできることは、利用者の方々に安心して過ごしてもらうことを第一に、「それぞれ（状態・思い・ペース etc.）に添った、その時々での支援」を大事にしながら、利用者に寄り添い、応援、伴走するということに変わります。今後も微力ではありますが、私たちに出来ることにしっかり取り組んでいきたいと考えております。

今後もこの会でいただいたご縁を大切にしながら、自己研鑽に努めます。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

『 全ての時間を狂わせるコロナの中で 』

社会福祉法人ふたば福祉会 米川 徳昭

恐らくこれ程、自分たちの活動や人との接触を制限されたことは今まで経験がない。人類の敵として現れたコロナに対し、未熟で完璧ではない、防衛策でしか対応できず、人類が誕生して以来続いている、ウイルスとの戦いの歴史に新たな章が加えられた。

多くの人が、初めて「ひきこもり状態」を体験したに違いないが、気付いたのだろうか、例えば、短い時間であっても、他人と向き合えないことで失うものがあることを。

長い時間、ひきこもっている人たちは、時間を追うごとに何かを無くし、そして、僅かに残ったプライドや希望で今を生きている。改めて、その境遇にいる人たちの心情に共鳴しながら、田辺市が行っているひきこもり支援が重要で貴重であることを思う。

『 ひきこもり検討委員会を振り返って 』

田辺市障害児・者相談支援センター ゆめふる 石神 慎太郎

田辺市障害児・者相談支援センターゆめふるの担当として2年間委員会に参加させていただきました。

委員会ではケース検討から啓発講演会の協議、愛称の募集について検討を行いました。日々の業務と関連することも多く、普段はあまり関りのない機関の方のご意見や情報を聞くことができ、参考になったと感じています。

さまざまな事情があり、難しい問題もありますが今後も継続して関係機関が膝を突き合わせて協議していくことが大切であり、それができるのがこの田辺市ひきこもり検討委員会だと思います。

『 ひきこもり検討委員会の委員としての所感 』

田辺保健所 亀井 孝太郎

平成31年4月より拝命いただき、委員の一人として参加させていただきました。

ひきこもり者援護対策については、全国に先駆けて田辺市が様々な取り組みを行い、それに引っ張られるように県も同調して平成16年には居場所作りに必要な事業を立ち上げました。そして現在では国がその重要性を理解し「ひきこもりサポート事業」として予算措置をするにまで至りました。その活動の根源にはひきこもり検討委員会があり、その血脈は隆々と今日まで受け継がれていると感じています。

そんな歴史ある委員会には様々な知見を持った関係者が揃い、多様な視点からの意見を聞かせていただくことができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

さて、アフターコロナの社会では、人と人との距離を取ることが当たり前になることで孤立する人が増えるのではないかと懸念もあります。安心・安全に暮らしていける社会をどのように作っていくか、まさに地域共生社会の実現に向け、委員会の役割もますます重要になるかと思っています。今後も各関係機関の皆さまとのお縁を大切にしながら、ひきこもり者援護対策の更なる充実を目指して参りたいと考えております。

『 学校教育課の担当として 』

田辺市教育委員会 学校教育課 上木原 浩之

令和2年4月より、学校教育課の担当としてお世話になりました。

全国的にも田辺市の小中学校においても、「不登校」などの長期欠席が大きな課題の一つとなっています。児童生徒にとって、社会とのつながりとして学校が大きな部分と占めています。一概には言えませんが、不登校が長引くことで、将来、ひきこもりにつながる可能性が大いにあると思いました。

ひきこもり検討委員会に参加させていただくことで、当事者の考え方などがわかり、今後の不登校対策を考える新しい視点として参考になりました。

今後、多様な児童生徒の理解、個別最適化を目指した教育をすすめていくため、様々な視点を持って、各関係機関とのつながりを大切にしていき、子どもたちが実社会とのつながりを絶たない環境づくりを展開していかなければならないと考えます。

『 ひきこもり検討委員としての2年間 』

田辺市教育委員会 生涯学習課 遠山 圭

この2年間、生涯学習課の担当者としてひきこもり検討小委員会の委員を務めさせていただきました。とは言いましても、何もわからない状態での参加となり、毎回勉強の日々でした。一言で「ひきこもり」と言っても、一概に言い表せられるものではなく、人それぞれに背景があり、その度合いも様々であることから支援もそれに応じたものでありそれぞれであり当たり前のことですが、一人ひとりに寄り添った支援を継続していくことが大切であることを学ばせていただきました。

今後につきましても、生涯学習の観点からどのような支援を行えるかを考えていきたいと思っています。お世話になりました。ありがとうございました。

『 1年間を振り返って 』

やすらぎ対策課 障害福祉室 永井 賢太

去年の4月に田辺市へ入社し、障害福祉室へ配属となった事がきっかけで、ひきこもり検討員に選出して頂きました。これまで約1年間、委員としてケース検討会議や研修開催等の活動に参加させて頂き、ひきこもりの現状や支援の内容等、大変勉強になる事が多くありました。

私なりに1年を通して思う事は、ひきこもり支援のポイントとして、関わる最初のタイミング、支援に要する時間、本人以外の家族の支援、またゴールをどうするか？等であると思いました。環境や病状等も様々であり、望む暮らしも様々であります。学校へ行く、仕事をする、等が一般的な生活なのかもしれませんが、それが望んでいる生活ではなく、どうしてもその生活に合わない方もおられます。

今後も、それぞれのゴールやそれぞれの自立した生活を実現する為に、障害福祉室として、またひきこもり支援の委員として自分は何ができるかを考えて支援していきたいと思っています。1年間ありがとうございました。

Ⅲ－１．相談実績

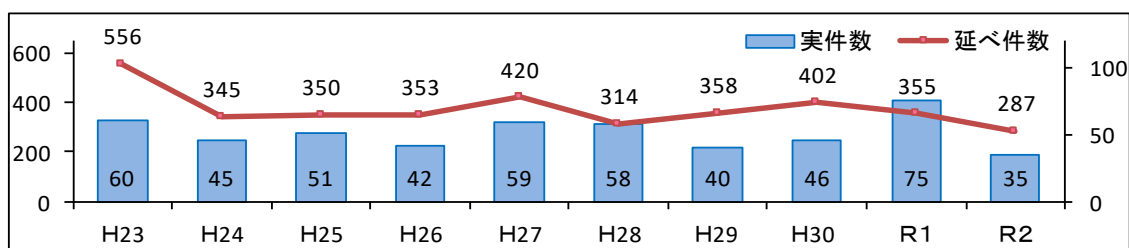
１．相談実績 令和2年度

相談窓口開設以降、令和3年3月末までに 681 家族 710 件の相談がありました。
(内、令和2年度は 14 家族 15 件)

(1) 年度別相談件数

平成 23 年度から令和2年度の 10 年間の相談実件数、延べ件数の推移を示しています。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実件数	60	45	51	42	59	58	40	46	75	35
延べ件数	556	345	350	353	420	314	358	402	355	287



(2) 令和2年4月～令和3年3月までの状況

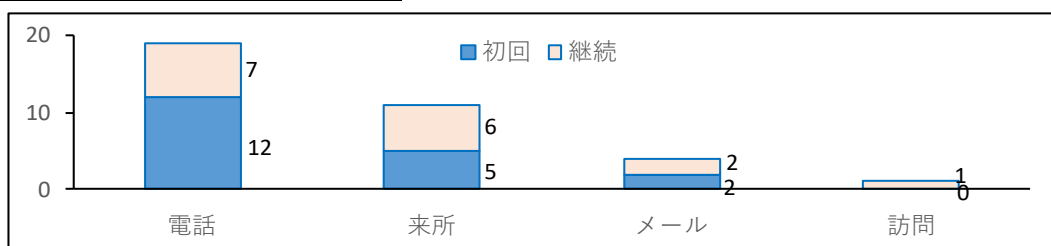
① 月別相談延べ件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期合計		
電話	10	7	11	9	9	3	49		
来所	7	6	7	6	11	17	54		
メール	1	2	2	2	2	3	12		
訪問	5	5	6	7	4	9	36		
合計	23	20	26	24	26	32	151		
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期合計	総合計	%
電話	2	5	10	7	8	6	38	87	30.3
来所	9	8	10	10	9	8	54	108	37.6
メール	2	2	5	1	1	2	13	25	8.7
訪問	5	6	4	6	7	3	31	67	23.3
合計	18	21	29	24	25	19	136	287	

※ まるめのために総計が100%にならない。

② 相談実件数

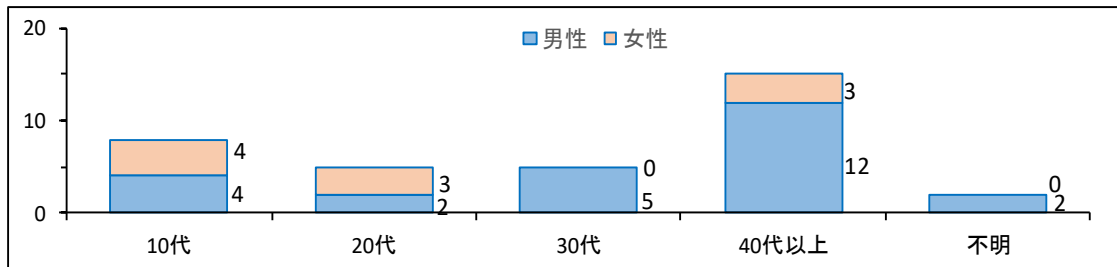
	初 回	継 続	合 計	%
電話	12	7	19	54.3
来所	5	6	11	31.4
メール	2	2	4	11.4
訪問	0	1	1	2.9
合 計	19	16	35	



③ 年代別男女別件数(35 件中)

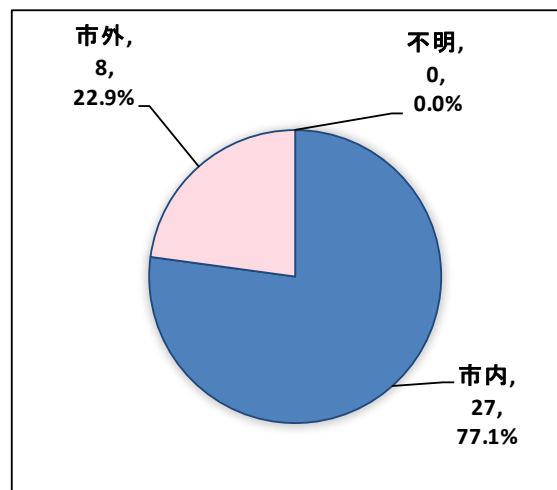
	10 代	20 代	30 代	40 代以上	不 明	合 計	%
男 性	4	2	5	12	2	25	71.4
女 性	4	3	0	3	0	10	28.6
合 計	8	5	5	15	2	35	
%	22.9	14.3	14.3	42.9	5.7		

※ まるめのために総計が100%にならない。



④ 居住別(35 件中)

	人	%
市 内	27	77.1
市 外	8	22.9
不 明	0	0.0
合 計	35	



⑤ 相談結果(35 件中)

	人	%
継 続	15	42.9
終 了	1	2.9
紹 介	1	2.9
そ の 他	18	51.4
合 計	35	

※ まるめのために総計が100%にならない。

紹介

- ・田辺市障害児・者相談支援センター ゆめふる(1)

終了

- ・進学(1)

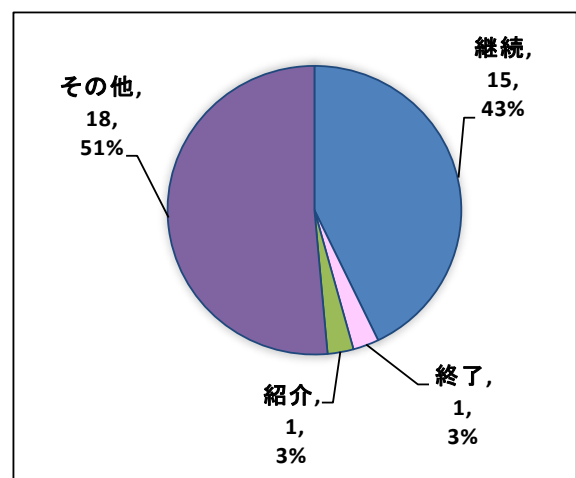
その他

3カ月未満の継続

- ・家族からの相談(3)

1回のみ相談

- ・本人からの相談(5)
- ・家族からの相談(8)
- ・親戚からの相談(1)
- ・関係者からの相談(1)

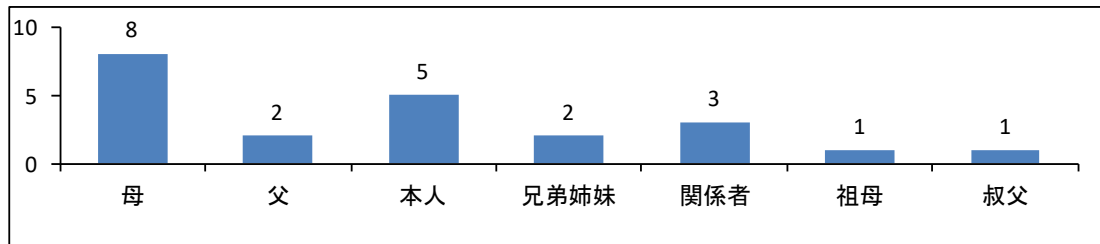


⑥ 初回相談者

	母	父	本人	兄弟姉妹	関係者	祖母	叔父	合計
初回	8	2	5	2	3	1	1	22

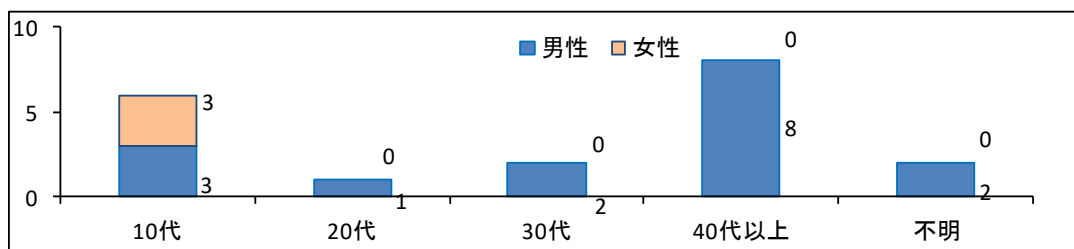
※ 初回は、2件が重複

内訳 本人・父・関係者(1) 母・関係者(1)



⑦ 年代別男女別件数(19件中)

	10代	20代	30代	40代以上	不明	合 計	%
男 性	3	1	2	8	2	16	84.2
女 性	3	0	0	0	0	3	15.8
合 計	6	1	2	8	2	19	
%	31.6	5.3	10.5	42.1	10.5		



(3) 継続相談について

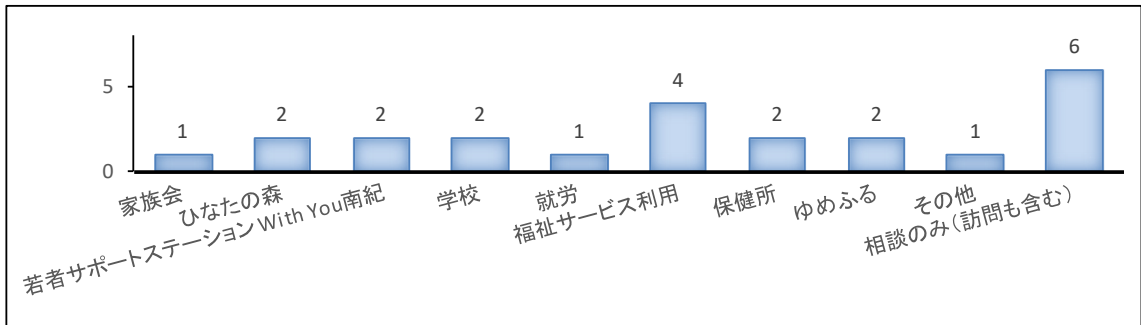
① 相談状況(重複あり)

家族会	1
ひなたの森	2
若者サポートステーション With You 南紀	2
学校	2
就労	1
福祉サービス利用	4
保健所	2
ゆめふる	2
その他	1
相談のみ(訪問も含む)	6

※ 相談のみ(訪問も含む)は、
ひきこもり相談窓口の相談のみで
自助会や他の支援を利用していない方。

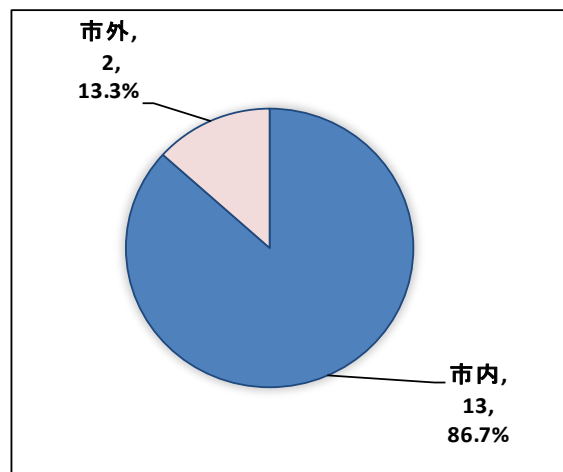
※ その他の内訳は、
ポラリス(1)

※ 医療機関を定期的に受診されている方は、
10件。



② 継続居住別(15 件中)

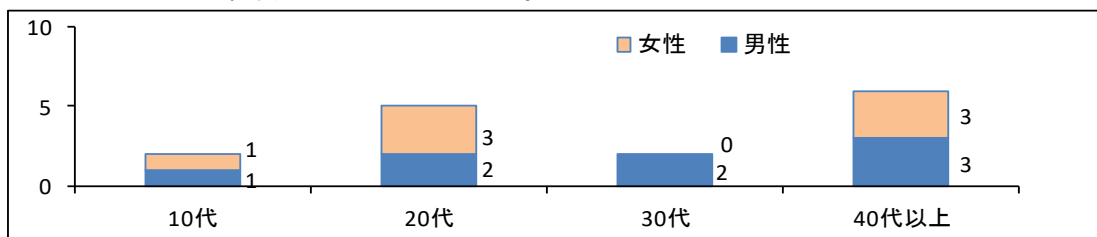
	人	%
市内	13	86.7
市外	2	13.3
合計	15	



③ 継続年代別男女別件数(15 件中)

	10 代	20 代	30 代	40 代以上	合計	%
男性	1	2	2	3	8	53.3
女性	1	3	0	3	7	46.7
合計	2	5	2	6	15	
%	13.3	33.3	13.3	40.0		

※ まるめのために総計が100%にならない。



Ⅲ－2. 支援の報告

(1) 家族会(原則月1回)

ほっこり会(紀南地方ひきこもり家族の会)実績

(平成16年4月より自主運営)

実施日	内容	出席者				実数	参加家族数	対象家族数
		父	母	その他関係者	窓口			
R2.4.14	中止							4
R2.5.12	中止							
R2.6.9	話し合い	0	0	1	2	3	0	
R2.7.14	話し合い	0	2	0	2	4	2	
R2.9.8	話し合い	0	0	1	2	3	0	
R2.10.13	話し合い	0	1	0	2	3	1	
R2.11.10	話し合い	0	0	1	2	3	0	
R2.12.8	話し合い	0	0	0	0	0	0	
R3.1.12	話し合い	0	0	0	0	0	0	
R3.2.9	話し合い	0	1	2	1	4	1	
R3.3.9	話し合い	0	0	0	0	0	0	

(2) 青年自助会実績(原則月2回)

※ 参加者なし

(3) 啓発活動・視察・問い合わせ

○ 啓発活動

講演会案内チラシ配布	
紀南六高校3年生、関係機関他	
相談機関紹介チラシ配布	
市内中学3年生、紀南六高校3年生	
ひきこもり相談窓口愛称募集	
令和2年4月から6月募集、9月「ひとのわ」に決定	

○ 視察

R2.11.17	厚生労働省	2名
----------	-------	----

○ 問い合わせ

紀伊民報
神奈川県 大和市役所
沖縄県 石垣市青少年研修センター
田辺市市民

(4) ひきこもり支援啓発講演会

主 催 : 田辺市ひきこもり検討委員会/田辺市/和歌山県子ども・若者支援地域協議会
共 催 : 若者サポートステーション With You 南紀
後 援 : 認定 NPO 法人ハートツリー/田辺市教育委員会
田辺市社会福祉協議会/田辺保健所/(公社)白浜・田辺青年会議所
紀伊民報社/(株)和歌山放送/FM TANABE
日 時 : 令和2年9月26日(土) 13:30~15:30
場 所 : 田辺市文化交流センター たなべる 2階 大会議室
演 題 : 「ひきこもり」経験から伝えられること
～地域とつながりを考える～
講 師 : NPO法人ウィークタイ代表理事
泉 翔 氏
参加者 : 71 名(ひきこもり検討委員・関係者・事務局含む)



【講演内容】

今年度の講演は、コロナウイルス感染症予防のため、定員を例年の半分としました。そのため、1 人でも多くの方にお話を聞いていただきたく、田辺市健康増進課のホームページにおいて、講演の動画配信をしています。

講演内容については、ぜひ、動画をご覧ください。

ここでは、泉さんが代表理事をされているウィークタイのことを講演から抜粋したものと講演資料の掲載をさせていただきます。

<NPO法人 ウィークタイについて 講演より>

僕を救ってくれた団体。支援団体でもなんでもなくて似たような人が集まっている当事者団体。当初はNPO法人でもなんでもなくて、趣味が似た人達が集まってくる任意団体。その仲間たちに出会ってなんとか外に出て、普通にこう、普通って言い方も語弊があるんですけど、なんとかポチポチやっていけるようになりました。その代表をやっていますという感じです。

講演の中で、事業の内容を話していただいています。

ひきこもり経験をされたからできることもたくさんあり、日々、ひきこもりに悩む方々と活動を続けておられます。興味のある方は、ウィークタイのホームページをご覧ください。

【資料】

1

**「ひきこもり」経験から伝えられること
～地域とつながりを考える～**

2020年9月26日 田辺市ひきこもり支援啓発講演会
和歌山県地域若者支援公開セミナー
(主催:田辺市ひきこもり検討委員会・田辺市・和歌山県子ども若者支援地域協議会)


Weaktie
NPO法人ウィークタイ

2

自己紹介

- ▶ 泉翔
- ▶ 1987年生(33歳)
- ▶ 大阪府吹田市出身、豊中市在住
- ▶ 中学校のほぼ3年間を不登校
- ▶ 大学在学時に断続的に3年程ひきこもり状態を経験、大学院と合わせ12年間在学した後に退学
- ▶ この間、各種依存症等の問題を併発
- ▶ 2014年よりNPO法人ウィークタイ代表理事
- ▶ 現在の主な仕事は主夫



NPO法人ウィークタイについて

・ひきこもり経験者を中心に、孤独・生きづらさを抱えながら生活している若者の**当事者団体**です。

・居場所や対話プログラム等の自助活動や、訪問・相談等の家族支援、また「ひきこもり」等の当事者の人権啓発・教育研修事業などを行っています。

・ <http://weaktie.org>



「ひきこもり」の定義

- ▶ 「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し，原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている**状態**（他者と交わらない形での外出をしていてもよい）を指す**現象概念**である。なお，ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とする（後略）。」

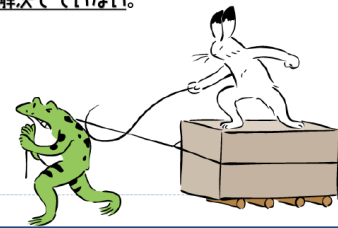
『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』（厚生労働省）
http://www.znhvc.jp/pdf/report/gui_debook.pdf

かつての定義

- ▶ **ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン、2003年**
「ひきこもり」はさまざまな要因によって社会的な参加の場がせばまり、就労や就学などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のこと。
- ▶ **斎藤環、1998年**
6ヵ月以上、社会参加しない状態が持続しており、他の精神障害がその第一の原因とは考えにくいもの。

「ひきこもり」問題とは何か？

- ▶ …家にいることが問題。
- ▶ …働かないことが問題。
- ▶ 「ひきこもり」問題をこのように捉えて対策を講じてきた結果、**「ひきこもり」問題は解決していない。**

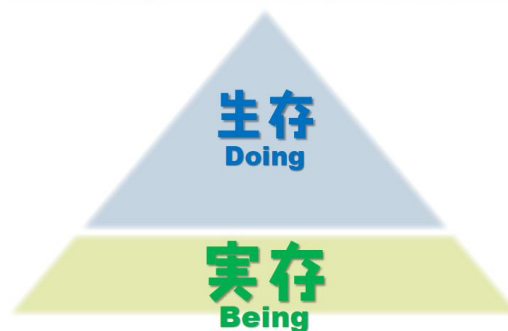


「ひきこもり」とは、
生存の問題ではなく、**実存**の問題。
Doing **Being**

「生きていく方法」よりもまず、
「生きていく意欲」が欠けていることをどうにかしないといけない。



生存(Doing)は**実存(Being)**の上に立つ



ふたつの支援

▶ **Doing（行動）：生きる方法**

課題を見つけ出して解決する、具体的な支援。

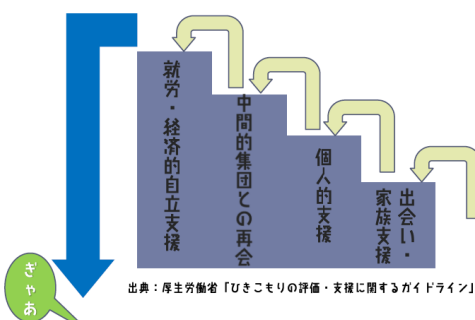
▶ **Being（存在）：生きる意欲**

共に居ることによって心を支える支援。
（話を聞き、苦しさやつらさに寄り添う。）

“存在”が受容されて、
初めて“行動”できるようになる

「ひきこもり」のその後

——ステップ的「支援」における現実



出典：厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」

ウィークタイの「居場所」認識

11

いわゆる「社会復帰」とされる状態

就労等の経済的
自立

回復のための
中間的居場所

就労支援

医療福祉
サービス

ひきこもり
状態

「生きる意欲」を得るために“つながる”場
(=居場所)

私たちの実践する「居場所」とは、
まさにその「**生きる意欲**」に直撃する実践です。



12

ウィークタイの「場づくり」ー例

13

- ▶ 「堺市ひきこもり当事者会」
- ▶ 「だうだら集會」
- ▶ 「だうだら音楽集會」
- ▶ 「ピアサポートミーティング」
- ▶ 「もぐもぐ集會」
- ▶ 「マンガ・タイアログ・プロジェクト」
- ▶ 「各棟次と同じ空間で「何もいらない」をいたりボーッと過ごしたりお喋りをする会」
- ▶ 「キミとボクの居場所のつくり方」
- ▶ 「ゆるゆる集會」
- ▶ 「ひきこもり経験者が運営するNPO法人ぶっちゃけトーク」
- ▶ 「ひきこもりコネクト」
- ▶ 「ナラティヴ・コミュニティを、つくる。」
- ▶ 「よなが」/「レーション/フェスタ」

ウィークタイの居場所の哲学

14

- ▶ 大切にしていること
 - ▶ 勝手に解決しようとしなない
 - ▶ 共感しようとしなない
 - ▶ トラブルを恐れない
 - ▶ 条件で人を縛らなない
 - ▶ 何かを目指さなない
 - ▶ ただ“つながる”
 - ▶ “共に居る”ことだけ考える

解決を目指さない時、**解決**に近づく

15

- ▶ 自助会におけるある参加者の語りから
 - ▶ 誰かが私を「生かそう」とする程、私は生きづらくなる。
 - ▶ 回復を目指した途端、回復が遠のく感じ。

豊中市における「ひきこもり」の現状

16

	豊中市	国
出現率	1.63%	1.57%
年齢 25～29歳	16.7%	8.2%
30～34歳	8.3%	4.1%
期間 5～7年	25.0%	12.2%
7年以上	45.8%	34.7%
相談意向有	54.2%	32.7%
相談したくない理由 最も多かった回答	相談に行っても 解決できない	相手にうまく 話せない

内閣府「若者の生活に関する調査報告書」（2016年9月）
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hi-ki-konori/h27/pdf-i-index.html>
 豊中市「若い世代の生活に関する調査」（2017年8月9日）
http://www.city-toyonaka.osaka.jp/kosodate/sei-shounen/kovaka_top/servey.html

“回復”とは“発見”である

17

熊谷晋一郎

(東京大学先端科学技術研究センター)



- ▶ 「彼らの究極的な目標はディスカバリー(発見)にあって、リカバリー(回復)は副産物ではない。」
- ▶ 「**リカバリーを狙うと、リカバリーしない。**」
- ▶ 「ディスカバリーを目的に設定したときに、リカバリーが最大化する。」

実践の中にある、**回復**のヒント

18

- ▶ 某市における協働実践のケース
 - 多くの当事者が、若者支援の職員よりも、公民館の職員の方が「信頼できる」と回答。

前若者支援担当主幹の印象的な台詞

「困ったことがあったら何でも言いなよ。あらゆる手を揃えて待ってるから。」

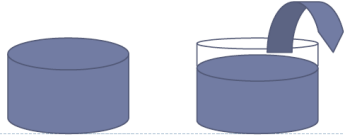
公民館館長の印象的な台詞

「全然わからんことばっかりやねんけど、知りたいと思ってる。何でも教えてくれへんかな。」

そこで何が起こったか？
—コップの水の例え (谷諒次さん)

19

- ▶ 満杯なので、他に入る余地が無い。もし無理に何か一つでも入ってくれば、たちまちに押え込んでいたものが溢れ出してしまう。
- ▶ 入れるために、まずは中の水を少し出す必要がある。



…でもある人は言う。
「生きる意欲？」
「実存？」
「甘えるなよ。」



「生き甲斐」や「生きる意味」なんて
無くても急に人が死ぬことはない。

が…

20

補足：自身のケアも大事に

21

- ▶ 例えば、支援者の心のケアのための「当事者研究」



「支援」の当事者研究会

—支援者も、当事者も、自分自身と共に。



日時：8/11 (日) 10:00-12:00
場所：大阪市西区「江戸堀アカデミー」
参加費：500円
主催：社会福祉のこもり・養育支援協議会

支援者の当事者研究よってかない？
@北浜
2019年6月19日(水)
18:30~
場所：株式会社ウイズ
参加費：無料
(入退室自由)

誰も「ひきこもり」に
人生を捧げなくていい。



(5) 田辺市ひきこもり検討委員会(令和2年度)議題

(出席者はひきこもり検討委員の人数)

第 1 回(R2. 5. 30)	第 2 回(R2. 10. 24) 出席者 20 名
- 新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止のため中止。 - 議事 - 令和2年度事業計画 (資料) - 令和2年度事業計画 ひきこもり検討委員名簿 田辺市のひきこもり支援 (窓口開設 19 年目の報告) ※ 議事は、書面決議で承認。	- 令和2年度上半期事業報告 - 令和2年度下半期事業計画 - 講義 『ひきこもりを考える』 認定 NPO 法人ハートツリー 事務局長 布袋 太三 氏 - 意見交換 

小委員会(令和2年度)議題(出席者はひきこもり検討小委員の人数)

第 1 回(R2. 4. 16) 出席者 9 名	第 6 回(R2. 11. 19) 出席者 8 名
- ひきこもり検討委員会について - ひきこもり支援啓発講演会について - 小委員会の計画について - ひきこもり検討委員について	ひきこもり支援啓発講演会について (今年度の振り返りと 来年度に向けて考える)
第 2 回(R2. 6. 18) 出席者 10 名	第 7 回(R2. 12. 17) 出席者 6 名
- 地域若者サポートステーション事業 について - 第1回ひきこもり検討委員会書面決議の 結果について - 小委員会の予定について - ひきこもり支援啓発講演会について	- 令和3年度 ひきこもり支援啓発講演会 について - 支援の報告
第 3 回(R2. 7. 16) 出席者 8 名	第 8 回(R3. 1. 21) 出席者 7 名
- 大委員会の講師について - 講演会について - 相談窓口の愛称決定	- 令和3年度ひきこもり支援啓発講演会 について - 支援の報告
第 4 回(R2. 8. 20) 出席者 8 名	第 9 回(R3. 2. 18) 出席者 6 名
- ひきこもり支援啓発講演会について - 大委員会の講演内容について - 支援の報告・	- ひきこもり検討委員について - 支援の報告
第 5 回(R2. 9. 17) 出席者 12 名	第 10 回(R3. 3. 18) 出席者 7 名
- ひきこもり支援啓発講演会について - ひきこもり検討委員会(大委員会) について - 高校報告	- 令和3年度 ひきこもり支援啓発講演会 について - 令和3年度 ひきこもり検討委員会 (大委員会)について - 令和3年度 事業計画について

(6) ひきこもり検討委員会 講義

『ひきこもりを考える』

講 師： 認定 NPO 法人ハートツリー 事務局長 布袋 太三 氏

日 時： 令和2年 10 月 24 日

参加者： 28 人(事務局含む)



<はじめに>

この 11 月に 77 歳になります。自分でもよく長生きしたなと思っています。本当は 40 年前に死んでいた。臨死体験みたいなので、1 回死んでいたはずなのに、よく生きたなと思っています。

誰かが「帰ってこい」と言ったのかなあ、嘘みたいな本当の話ですが、お医者さんが「良かったですね」僕に「あと 5 ミリの世界だったな」と。5 ミリの世界というのは、あと 5 ミリずれていたら完全に植物人間かあの世にいつているってことでした。悪運が強かったんですね。

それからは、もうとにかく普通に生きていけばいいというので、それまでもおとなしい生き方をしてたんですが、それからは倍くらい、仏さんのような感じでおとなしく生きてきたわけです。

今日は、「ひきこもりを考える」というタイトルです。10 年くらい前に東大で、内閣府の講演会があって、このタイトルは、何のひねりもなく、でも、いいなと思って今日、使うことにしました。

「子ども若者育成支援推進法」という法律ができた時で、ひきこもりについての新しいガイドラインができて、そのシンポジウムだったんです。とにかく、全国のひきこもりの関係者達がいっぱい集まって、人波っていうのはこのことを言うのかというくらい、演台近くまでアイドルを見るように、すごい人数でした。終わってから出る時にこんなにいっぱいだったのかと思ったのを覚えています。

宮本みち子っていう先生が、こりゃすごいねって 2 人で出てきて、その時ちょうど宮本先生が、田辺に講演会に来てくれた頃だったんで、僕も知ってたんですけど、この先生はいわゆる、若者問題のすごい論客で、最高の人です。だから、できれば、みなさんもこの人の本を読んでおいてください。

さて、初めに、僕自身の略歴と、それから附表 1・2 というのが、年度別少年殺人事件検挙者数と 60 年間の少年殺人・犯罪社会情勢を附表として載せています。

斎藤環先生が「よく少年犯罪が多発しているとか、多いとか、今の少年は・・・という言い方をするけれども、実は統計を取ってみるとものすごく今の少年はおとなしい」って、その通りだと思います。

昭和 26 年とか、昭和 29 年とか、それから僕らが中学から高校にかけては、本当に殺人とか多いし、何でもありだった。今の子はみんなええ子になっていますね。

話はとびますが、田辺の中学生はみんないい。何でそんなことを思うかというと、僕の教え子で大阪だとか、和歌山に赴任してしまった。教師は大変なことが多い。ある子は、生徒に目をつぶされそうになったとか、それからある子は精神を病んで今も休んでます。

だから、中学校の生徒さんを教えるというのは、これはもうすごい達人でないとできない。今日は、木下先生が来られてて、なんというのかな、胆力の座ったというか、そういう方っていうか且つ、生徒のことをすごくよく考えているっていうか、そういう人でないともちませんね。

やわい人は、もたへんというふうに僕は思っています。僕の教え子は最初に、この付近にいて、その後和歌山に赴任した時に、和歌山の教育委員会が、ここは一番、いわゆる評判のいい学校なんですって言ったんですよ。しかし、実はとんでもなかった。教室の 3 分の 1 近くの生徒が何も分かっていない。ちょっと分かっているのが 3 分の 1 くらいで、分かっていない 3 分の 1 の子達は何をするか分からないというふうな状況だったらしい。

それは7～8 年前の話ですよ。今は良くなっているかもしれませんが。

＜僕の小・中学校時代＞

僕は、昭和 26 年に小学校に入りました。中学・高校で、昭和 37 年に高校を卒業するんですけど、実は自分でも思うんですけどあまり昔の記憶がない。小学 2～3 年くらいの記憶から少しずつ出てくるんですが、だけどね。暗い少年だったんです。自分で言うのもおかしいけど、ほんとに暗い子供だったと思う。いつも放課後は家に帰らないで、砂場で 1 人遊びをしていた。僕がいつもだいたいそういう風になっているからね。今でも覚えているんだけど、米田っていう学生服を着た先生がいてね。「太三、一緒に帰ろう」と言ってくれてね、自分の自転車の後ろに乗せて帰って、途中でなぜか本屋に寄ってくれてね。「太三くん、野球好きやろ」って言って『野球少年』っていう雑誌を買ってくれたんです。それを持って、家まで送ってくれた。それが2～3 回あった。それは強烈な印象ですね。僕にとっては。小学校の先生や中学校の先生は、皆、敵みみたいなやつばかりやと思っていたんですけども、この人だけは、僕にすごいほんわかした小学校時代の思い出を作ってくれました。

僕はさっき 40 年前に死んでいたと言いましたが、入院した時に、実は、一番最初に訪ねて来たのがこの先生でした。20 年も30 年も、もっと会ってなかったんですけどね。「太三君、どうな生きてるか」って言って帰っていきました。

7～8 年前にこの先生が亡くなりました。

その時にあ～亡くなったなって、僕、思って頭の中で思ってた、ちょうどその時に東京の出版会社に勤めている息子さんから電話があって、息子さんの事はまったく知らないんですけど「うちのオヤジが亡くなりました。遺品を整理していると、布袋さんに書いた手紙だとかね。布袋さんからの返信がいっぱいあったんです」と言ってね。絵を書く先生だったので、「絵がいくつか残っていますので、ぜひもらってやってください」ってわざわざ電話くれたんです。

こんな話ばかりしているとなかなか、ひきこもりの話まで行かん。いつかそんな講師もおったな。

ところで、僕のオヤジは全盲だったんです。見えない。光もほとんどこない。僕が中学行くときにはほとんど見えていなかった。大学に入った時に、お袋がね、僕に、「お父さんを、東京のえらい目医者さんに見せて」と言って、僕は東京で最初にそれをしました。慶応病院と駒込病院とここには 1 番トップの眼科医がいるというので、連れて行ったけど全然見てくれない。診てはくれるんですけど、インターンの学生がいっぱい来てね。次から次へと親父の目を見てるんですけど、結局何もしてくれんのですよ。あ～こんなかんという感じでみんなで見てるんです。結局、慶応病院には3 日くらい入院したのかな。駒込病院には入院せずに、つれて帰ってきましたね。

実は、うちは白浜の新地というところにあって、芸者さんの町です。小さい頃から白粉の香りと三味線や太鼓の音と酔客がウロウロしている所で僕は育ったんです。掃きだめの鶴みたいなもんですね。

私は、全然そういうところに染まらないで、清く正しく生きました。

実は僕は、この商売がものすごく嫌いでした。同級生のかくれたいじめの対象だったんです。僕は、いじめられるようなタイプではないですからね。でも、ぼくの友達でね、同じ地区に住む芸者さんの同級生の息子さんがいて、お母さんがお妾さんで、それで食ってたんです。僕の友達もそのことをよく知っているんですけど、5・6 年の時にね、教師がね、みんなうち

の仕事の話をしましょうって言ってそういう授業をやったんです。僕はそれを聞いてなんて言ったらいいか困って、その時、その友達の前を見たら真っ青になっていた。でも、順番に当てていくわけで、なんて教師だと思いながら、自分の番になるのを必死になってこらえて、何て言ったかという父はサラリーマンですって。顔は固まっていたと思いますが、おかげで友達も、自分のお母さんがお妾さんやって食ってますってようなことは言わなかったですが、知っているんですよ、皆、子どもは残酷だから、そういう事を時々ネタにしていじめる。昔は、貧乏な子はものすごくいじめられた。僕は、そういう世界にいたので貧乏ということではなかったけれど、だけど本当に貧しい子がいてね。悪ガキが、いじめるんです。僕は尊い正義の人だったので「こいつらなんとかせなあかん」と思って、そんな卑怯な子をいつかは何とかせなあかんと思いつつ卒業しました。

小学校の時のもう一つの印象は、通信簿みたいなのがあって、分数が全然わかっていないようです。って担任が書いてあって、実際、分かっていなかったんですが、その担任のことばで、数学・算数がさらにすごく嫌いになりました。

中学校に入って数学の教師で嫌な先生がいて、その頃は、映画は学校の推薦映画になって、始めて見に行けたんですが、僕が生徒会の係をしていて「嵐を呼ぶ男」を推薦映画にしようと提案したんです。

その時、生徒指導をしていたその先生が怒って、「お前らは、勉強さえしていればいいんだ」って言ったんです。その時僕は、ちょっとキレましたね。僕は何もませんが、だけど僕と同じようにキレていたやつがいっぱいいた。嫌われていたな。その教師は。彼に、数学を教わっていなかったら、僕も数学できるようになっていたかな？

だけど、僕は本を読むのが好きでした。その時にはもういろんな社会科学関係に関する本を読んでいましたね。そして、この町から早く抜け出したいと、そのことばかり考えていました。

中 3 の終わり頃には、「東京の高校に行くわ」と親父に言って、東京の高校を受けに行きました。これは大失敗でした。Aレベルの高校ですから。僕ね、数学と理科がめちゃくちゃできないんです。英語と国語と社会だけはおそらくレベルが高かったんですけどね。東京の一流高校は無理だなと思って帰ってきてすぐに、次の日だったかな、県立高校の試験を受けて田高に行きました。

<高校時代から大学時代のこと>

高校へはいつてからは、もうあとはあまり学校の先生を相手にしませんでした。

だけど僕は人恋しいタイプだから、いい先生がいたらちゃんと付き合いたいな。いい先生がいたらいつまでも話したいなとか。この先生のこういうふうな社会の話を聞きたいなとか思っていたけど、いませんでしたね。高校 1 年の時には、授業中に廊下に何回か立たされた経験があります。先生をいろいろと困らせたんだと思う。先生方は、何かいやな生徒やなと、思っていたと思います。

僕は中学校の時から大学は、早稲田大学に行く決めていたんです。早稲田は、きっと僕だったら入れるだろうというふうに思っていたんです。だから、めちゃくちゃ勉強しました。高校 3 年の時には、これだったら、もう入るだろうと思いながら受験に行きました。12 月頃から冬期講習の予備校に行って、そのまま卒業式にもいかず、そのまま東京にいました。僕は、なぜか教師にはなりたかったんですよ。なぜか？嫌な奴ばかりやなと思いながら。なんていうか人の気持ちっていうか、心の中に手を突っ込んでくるとか、ちょっと土足で入り込んでくるとかね、そういう教師がいる。あんたには分からんやろという風な教師が勝手に入り込んでくるっていうのがイヤだったんです。だけど、教師にはなりたかった。

「学校」っていう西田敏行の映画がありました。夜間中学の話なんですけど、山田洋次が作った映画ですが、モデルになった荒川第 2 中学校っていう夜間中学があってね、そこにね、

塚原雄太っていう有名な先生がいて、この人に会いに行こうと思ってね、大学 2 年の時に、サークルの連中を連れて、今年は夜間中学校の研究をしようというんで。夕方から毎日その夜間中学校に 1 ヶ月くらい通いました。その時に塚原雄太が「布袋君よ。教師は面白いよ。これほどいい仕事はめったにないよ。まず、金儲けを考えなくてもいい。出世競争を考えなくてもいい。それから、なにせ、温かい人間を作りあげればいいんだと、こんないい商売はないぞと。」僕に言いました。

これは僕の頭の中に残りましたね。まじめに大学行って、夜間高校の教師になろうと思いましたね。僕はまじめな学生だったんですけどね。なんか 2 年余計に行きました。単位としてはちゃんと 4 年でとってました。あることがあって、僕は無期停学処分っていうのを受けました。何でもか言いませんが、1 年半で解除されました。実質 4 年で単位はとれてたんですが、成績はそれなりで、だけどそういうことがあったんで卒業の時に、教師は無理かなと思いました。無理かなと思って、周囲の者は出版社とかテレビ局とか新聞社とかへ大体行って、あいつら行けるんだったら僕も行けるかとか思いながらね。そろそろテレビ局でもこっそり受けようかなと思っていた。その矢先にね、白浜の親父から電話がかかってきてね。工業校の女の先生が産休に入って、講師を募集している、お前チャンスだと言うわけですね。僕も即、帰ってきました。実は東京にいても仕方ないなと思っていたし、親父も目が悪いし、母親に任せるのもなと思っていたし、5 人兄弟の末っ子で、他の兄弟は大学に行っていないがみんな東京にいた。嫌な町やけど帰ろうと。当時の白浜を皆さんは知らないと思うけど、当時の白浜はほんとにいかがわしい、3 軒歩いたらヌードスタジオがあった。そういうね、いかがわしいキャバレー等、そんなところがいっぱいありました。

だから僕みたいな清らかな者がいるところじゃないと頑なに思っていました。だから絶対に帰るものかと思っていたんですが、帰ってきましたね。その後は、実は田辺も白浜もいいところだなとつくづく思いました。

<私は教師になった>

田辺工業高校で講師 1 年、熊野高校 1 年、田辺商業高校で 11～12 年いて、やっと南紀高校で定時制の先生になりました。

何回か転勤希望を出したんですが、やっとなれたんです。僕は南紀高校っていうのは、この辺の高校のセイフティネットやってことを言っています。今も昔もそうですよ。田辺商業高校や田辺高校にも行きましたけども、その時に担任の教師が、出席番号があるじゃないですか色んな生徒の様子を書いたりするわけですが、実は南紀高校の生徒の様子を書いていると書ききれないわけですよ。それくらい膨大に訳ありなんです。僕の友達の教師なんか毎日、家庭訪問に行っていた。

あるやくざっぽいお父さんの息子がいて、他の先生は怖くて家へは行かなかったんですが、僕はその手の人、あんまり怖くないんで、僕はよく行っていたんですけど、その子がある時に「先生はよく東京に勉強に行くとか何とか言っているけど、今度お袋に会ってくれるか」ってね。彼が小さい時に、お母さんは東京に行ったんですね。彼をおいて妹だけを連れて行ったんです。僕は新宿の三越の前で会ったんですけどね。お母さん、あった時からもう涙顔、喫茶店では最初から最後までお母さんは泣きっぱなし、「私があんな男の所に〇〇を置いてきたからね。〇〇はどんななってるんだろうと心配だった」と言うわけですね。多少は悪いけど、僕はやっぱりええ子やなと思っているよと話した。彼は今、何やってるかな？ たぶん子供さんもいて、奥さんもいて、足場を組む仕事の大將にたぶんなっていると思うけど、よう頑張ったと思う。南紀高校は中退したと思う。とにかく、南紀高校の話をしだすと 3 時間くらいかかるので、これくらいにしておきます。

＜ひきこもりを考える＞

2003年に定年退職して再任用なんか全然やらなくて、その後は、あちこちからオファーがあつてね。シンポジウムのコーディネーターや講演依頼がなぜか色々あつたんです。僕のネタは「人権問題」でしょ。それから「虐待」でしょ、「非行系の話」、「不登校」、「いじめ」でしょ「貧困」、「自殺」の話で「家族論の話」、そういうの色々やりました。

僕は、根が真面目やから、そういうのを受けると勉強をするのが半端でない。最低 30 冊の関連の本を読むんです。今日、頼まれた時も遺言みたいなもんやなと思いながら受けたんやけども、これまで色々関わってきたことといえ 30 冊は一応さっと目を通しましたね。そうするとね、あれこれ見直した学者もいて、たとえば、あんまり評価されていませんが西村英明さん、この人は入門書にいいですよ。『ひきこもりその心理と援助』これは、なかなかおもしろいので、ぜひ読んでみてください。

それから、僕がいつも紹介しますけども、たぶんこの窓口でも言ったと思うけども、“風のすみか”っていう東京の三鷹にあるパン屋さんなんですけど、佐藤洋作さんっていう人がやっているんです。この人、神奈川県に農場を持っています。そこで、その農場で、ひきこもりの青年達を集めて、そこで収穫した物を持って来て三鷹でパン屋をしているんです。これ、ジブリ美術館の前なんでね、場所がいいからけっこう評判になってすぐに売れるんですよ。2 階が文化学習共同ネットワークの勉強する部屋でね。佐藤洋作さん達が主催してやっているんです。ここは周りのハローワークの人とか三鷹の市役所の人とかがね、ネットワークを組んでやっているんです。もし、暇があつたら行ってみてください。こんなこともできるのかって、僕はこれが、ひきこもり支援のひょっとしたら到達できる理想型かもわからないと思っています。ここでパンをこねている若者は生き生きしているし、農場から来た人もたくましい感じがして、ひきこもって鬱々した感じがしなかった。これ、一押しの推薦ですね。

ついでに言いますが、滝川一廣さん、この人も招んだことがあります。この人、レベル的には日本のトップですよ。去年だったか、この本は優しいし誰でも読めます。『子どものための精神医学』を出しました。

それから、付録の方に色んなのを出していますけども、滝川一廣さんの本をいくつか出しています。「精神科医療の問題」、いかに疎外されているかということ。「ゴリラと空間を一緒にできる方法」みたいなとか、「ベトナム戦争」の話。「PTSD」、ひどい目にあって戦争から帰ってきた若い兵士は精神を壊されているっていう話。それだけでなく、その青年たちは鍛える段階で彼らは壊されていくって、その壊し方を、ここに書いています。

資料の③『「こころ」は誰が壊すのか』に書いています。言語は意識の成り立ちに直結していますから、そうやって言語で心の中を組み替えていく。行動療法のテクニックを応用してやらせているということなんですね。アメリカの心理学は、労働者をうまく操るためにが基本であつてね。それと軍事的に転用される。軍事的に兵士を戦闘マシンにしていくためのね。そういうことのために心理学が応用されていくっていうことがあるんです。核兵器などを作るための「科学」っていうことだけでなく、心理学という「科学」で人の心を変えるような、しかも戦闘マシンに変えるようなところまでやっているんですよ。僕らには無縁の世界だと言いたいところですがそういうことまでやっているんです。

それから、少し横道にそれますが、僕が高校2年の時に、60 年の安保闘争がありました。東京で連日 30 万人くらいのデモ隊が国会に集結するのをテレビで見て、俺はやっぱ白浜おったらあかんと思ったんですよ。

早く、東京行かないと思った。なんでかわからないけどね。

今の高校生は考えられないかもしれないけど、当時は、先生に頼んでホームルームで、安保条約についての討論会をさせてもらいました。

結構、そういう意味で僕、まかせてたんだと思います。先生に、たぶん嫌われてたが、政治的にはまかせていたかな。特定の党派に属するということはありませんでしたし、特定の政治勢力に屈することは不思議なことになかった。そういうことについては早かったですね。いい

悪いは別にして。

職業に貴賤はないという言葉があるじゃないですか。しかし、中学校の時にそれはあると思いました。

はっきり。俺ちのような職業はあかんでと思いました。

実は、昔、うちにまだ成人に達していない娘さんが2～3人仲介で働きにきて、年は15～6歳だったかな。大阪からね、今、そういう言葉があるかどうかわからないけど、未解放部落の同和地区の方で2人組で来られたんですね。その人達はある事件があつて、警察沙汰になって、婦人相談室の人が連れに来た。ただ彼女達うちの玄関で行きたくないと泣いていた。俺はその時思った「何でうちみたいなのところにおらんと婦人相談室の人に連れて行ってもらって、全うな職につけばいいのに」と思った。でも、後でわかった。全うな所だったら金儲けにならない。うちが貧乏だから金を送らんとあかんから嫌なことでもこういうところにて仕送りするということだった。

でもその時、僕思った。「あの女の人達と婦人相談室のおばさん達と銀行員の女の人、皆同じだ」と思った。お金稼ぎをすることは同じ。しかし、職業に貴賤はある。同じだったらやってもらいたくない。自分の子どもや妻がそういうことをするとしたら「辞めろ」というと思う。僕はそういうところで育ちました。

<戦後少年事件史について>

さて、付録①②も少し見てください。

嶋崎政男さんの『少年殺人事件その原因と今後の対応』です。

2006年以降は自力で調べて参考にしてください。2015年の川崎市多摩川河川敷上村君殺害事件、これは残酷だったな。2008年6月の秋葉原殺傷事件、これは有名でしょ。彼もメールとかで、何回も、「今から秋葉原行く」、「今から突っ込むよ」、「秋葉原着いたよ」っていうふうにも、彼の友人や知人は、彼に何も応えてない。何の返答もしていない。そこで、彼はそのまま突っ込んで行って、降りて殺しまくるって行為。狂気ですね。彼は、ただ、自分の存在というか、実存というか、その不安でやっている。

これに似た事件が1968年にあった永山則夫さんが青森から出てきた、こんな貧困あるのかなという、貧困の極みの少年ですけど、小柄な少年がピストルで打って、無関係の人を殺した。何人殺したかな？これが永山則夫事件、連続射殺魔事件っていうんですけど、これもそうです。何か欲しいというわけではなくて、自分の存在を確かめたかったという。現代社会特有の事件ですね。

これは、今のような社会の仕組みがずっと続いていく場合、必ず貧困の格差というのは出てきてしまうからどうしても悲惨な事件というのは起こってしまうんですよ。構造的に起こってしまう。

石井光太さんが『本当の貧困の話をしよう』っていう本の中に、「非社会」の子どもの特色を書いているんです。ひきこもりや不登校の子どもたちの傾向によく似ています。それから、孫正義やクリスティアーノ・ロナルドというサッカーの選手や開高健や安室奈美恵の話ですが、彼らはずっと貧困の極みでしたね。孫正義の『あんぼん』なんてものすごい話ですよ。いつもドロドロの道を歩いて家を出る。いわゆるスラム街から出てきた子です。ただ彼は、めちゃくちゃ頭がよかった。早くからアメリカに出て来たというのが彼の成功のチャンスだったんだと思います。現代社会はとにかく極貧であっても才能や努力をすれば、格差の上のしあがれる社会かもしれない。もちろん、ほんのひとにぎりだが。

僕は、教師になった最初の授業の時に、3つのエリートのお話をしました。経済エリートと政治エリートと実務エリートのお話。エリートになるのにはどうしたらいいか。とにかく勉強してうまくその時流にのるというか、その算段をすればいい。大学の時森コンツェルンの邸宅を見た。三木武夫っていう首相の親戚の家が森コンツェルンでね。僕が、赤坂で書生のような

バイトをしていた時、その息子をピアノ教室に連れて行くんです。麻布の何とかっていう、ものすごい家でした。どうしたらいいんかっていうくらい庭はでかいし、中はきれいだし、とにかくばかでかい。金持ちってこれや、ものすごい金持ちやね。ぼくは、赤坂のTBSの前を帰るんですけど、TBSの前に外車に乗った学生のような連中がたむろっているんですね。世の中にはすごいお金を持った奴がいて、すごいお金を持ったやつが絶対いいと思った。これが社会ですよ。

ひきこもりの青年たちを、“炭鉱のカナリア”だと格好つけている人がいますが、じゃ、ひきこもりは、いったい何を警告しているのか？社会の何を告発しているのかというと、こんなにスピードと効率と、そればかりを追及していくその社会の非人間性を告発していると僕は思いたいね。

確かに個人的な問題や特性があると思うが、だけれどもひきこもりは、やっぱりこの世の中がこんなにも非人間的にスピードと効率を追い求めている。いったいどこに行くのかこんなにスピードばかりを重視してっていう風に警告しているのかもしれない。

昔、田中夏子っていう人が来て言ってましたね。彼女は、スローフード・スローライフっていうのをずっと言い続けていて、そろそろ金儲けはいいじゃないか。そろそろ生産力をどんどんあげていくっていうことも、生産性を追い求めていくのも、もういいんじゃないかと、そろそろ立ち止まろうという人がもっと増えてこないといかんと行ってましたね。これは、そのとおりだと思う。

<田辺のひきこもり支援の評価について>

田辺のひきこもり支援システムで、評価されていることについて話します。

みんな知らんと思うので言いますけど、実は、斉藤環さんが褒めまくっているんです。雑誌の座談会やテレビなんかでね。田辺をすごく良く言っているんです。「田辺ってところはすごいよ。顔の見えるネットワークっていうのはこれをいうのだ」ってね。その時にね。昔、斉藤さんが田辺に来たときにね。精神科の宮本聡先生がね、ビッグUでビラ配りなんかをしてくれていたんです。その時にね、斉藤さんが「精神科の先生がもぎりみたいなのをやってくれてるのか」と言うんですね。

もう一つね、どこかの座談会で言っていたんですけどね。真砂市長が、斉藤先生が来たときに、開会のあいさつをしてそのまま残ったんです。「今日は残りますよ」って言って、「先生の話聞いわ」って、先生の話聞いていたんです。それを斉藤先生が「こんなのは初めてだ。首長というのは開会のあいさつを型どおりにして、あとは公務だとか何とか言って出ていくのが筋だと。ところが、田辺市の首長は違った。最後まで残って聞いていた。こういう首長のところだから、田辺のひきこもり支援っていうのはうまくいっているのではないか」という感じの話を言っていた。

もう1つ、内閣府のパンフレットがあるんですけど、最初の頃のパンフレットで、南君や酒井先生、小川さん、松本さんが載っていた。4ページくらいのパンフレットに載って、田辺のことが評判になっていたんです。

それから、伊藤純一郎さんっていう人が、『ひきこもりを呈する青年への地域支援システムに関する研究』っていうのを厚生労働省からの委託でやっていたんですが、和歌山県田辺市モデルが都市型の地域に活用できるかっていう論文を書いていました。結構、高評価です。田辺モデルはやっぱりモデルになると言っていました。

実際、僕は田辺のひきこもり支援や窓口・検討委員会の何がいいのかというと、立ち上げたキャラの立っていた保健師の目良宣子がすごくよく頑張った。それは1つある。もう1つ精神科の宮本聡先生がすごく頑張った。だけどね、本当は米川さんがいるから言うんじゃないけれど、作業所運動の担い手の人たちが設立の中心メンバーだったっていうのが、これがものすごく本当は、このことが1番大きいじゃないかなと、今まで続いているが大きいこと

だと僕は思っている。

ハートツリーもやっぱり作業所をしている人達の支援なくしてはここまで来れていなかったし、だから、なんて言っているのかな、人の1番大事にしないといけないもの、人を見る時に、人に手を差し伸べる時に、大事にしないといけない人を見る見方っていうのかな？角度っていうのかな？感性っていうのかな？そういうのを作業所運動を担っている人達は、はなから持っているというふうに僕はずっと思いながら見ていたんですけども。そういう人達がやっぱりずっと中心になってね。今も担ってくれているっていうことが1番大きいと思っている

それとハートツリーも大きい。それから、窓口のメンバーの人達も、まじめによく頑張ってくれたと思います。

僕は、他のいろんな所にも顔を出していたんですが役所の関わった所は、実はそんなにうまくいっていません。形骸化しています。しかし、ここは形骸化しない。質的なレベルがずっと維持されています。行政に関わる人とか、学校関係の人とか、民生委員の人とか。けっこうまじめに支えるっていうのかな、不思議にちゃんとそういうふうになっているっていうのが、説明しても説明しきれないところです。

2009年に、衆議院の青少年問題の特別委員会に、僕と玄田有史と工藤啓らがよばれて議員たちに、レクチャーしました。僕は、今と同じようなネットワークのことを言いました。分かりにくいかもしれないけども、この人達のこのお互いのフィットする感じというか、顔が見える感じっていうか、困ったらあの人に相談しようという感じだとかそういうのが、僕らの地域にはあるんだと、そういうことがネットワークの一番大事な所じゃないかなと、ただ形を作るだけじゃないという話をしました。

結果として、全国的には珍しい、ひきこもりに特化した相談窓口が今も生きているという風になっているんです。

<あえて田辺の課題というと>

それから、もっとこうあったらいいなと思うことをいくつか言います。

まず、学校の先生と仲良くしよう。これ1番大事なことでね。学校の先生と仲良くすると色々なことを教えてくれる。これね、僕、さっき先生の悪口を言ったけれど、いい先生が多いこともたしか。先生が生徒のことを1番よく知っている。中学校の先生もあんな難しい時期をずっと見ているんだからよく知っている。高等学校の先生もよく知っていると思う。特に高等学校の先生は、クラスで40人くらい持って、10人くらいがちょっと危ないなと、そのまま社会に出たら危ないなと思う子は、必ず頭に残っているんです。ちょっと休みだしたら、関係のところと相談するとかね、そういう風にするとね、水際で止められると僕はそう思っている。だからね、窓口の人達も、なんとか作戦を立てて現役の小学校や中学校、高等学校の先生とベタベタに仲良くなるということが今後の1番の課題です。

また、学びの丘の先生たちと仲良くした方がいい。学びの丘に、学校の先生や保護者が相談に行くんですね。でも、卒業したら終わりじゃないですか。終わったらこっちに振ってきてほしいと思うんですよ。こんな例、僕、いくつも知っているんですよ。今一番困っているのは、統合失調症になっていると思う彼が高校不登校になった時に発症したなと思っているんですけど、学校の先生が困って学びの丘に相談に行ってくれているんです。相談に乗ってくれている。じゃあ、高校の先生はそれでいいと思って、僕が20年経ってから、先生、あの時どうだったか聞くと、あの時、学びの丘の先生に言っただけだったというんですよ。じゃあ、学びの丘の先生が「この子大変やな」と保健所に相談するとか、僕らみたいなことをしている人にね、ちょっとなんか方法ないかなと相談をしてくれたら、彼、今みたいになんか、どうにもこうにもならない状態になってないとかね。だから、僕は、やっぱりすごく連携って大事だと思っている。

学びの丘の先生方はよく勉強しているけれども、自分達の勉強がどう地域の人につなが

っていくのかという視点をもうちよつと持ってもらいたいと思っています。

それから、中学校の卒業生で、ひきこもりの生徒をこれをどうつなげていくかというシステムを作る。それから、高校中退時にひきこもっている生徒、これもきちんとつなげられるようなシステムを作るということが大事だと思います。

それから、高卒一括採用で漏れた、中退になってなくてもね、困った困ったっていう生徒とつながる方法。サポステで、だいたい繋がっていると思うけど。これも大事です。

それから、精神科の先生との繋がりが薄くなってきていることもなんとかしたい。この辺のPSW(精神保健福祉士)みたいな人も、それから児童相談所にも関わってもらったりすることも大事だ。

それから、不登校や引きこもりに関わるデータを少し手間がかかるかもしれないけど、**「田辺版の子ども・若者白書」**みたいなもの作って見たらどうか、田辺の次世代育成支援行動計画がコンパクトでいいなと思っていたので、それを下地にしながら、もう少し色んな要素を加えながら**「田辺の子ども・若者白書」**を作る。これが毎年更新されていくというふうになると、状況がよくわかっていいなと思います。窓口にしろっていうわけではないけど。他の市役所の人と一緒にやってはどうでしょうか。

<最後に>

ひきこもりをめぐる言説で知っておきたい学者たちをレジュメに挙げています。読んでください。

それから、ひきこもり支援の今後について、白書を作ればいいと思うのと、前にも言いましたけど、**「子ども・若者包括支援センター」**構想っていうのがね、僕は田辺では考えられると思っているんです。そうするとこの窓口がなくなります。全体の中のひとつとしては存在するんですけどね。包括支援センターみたいなね。田辺って十分できるって思うんですよ。田辺の子育て支援のモデルみたいなフローチャートを見たんですが、すごいよねこれ、ようやっているって感じします。

最後にいくつか思いつくことをランダムに言いまくると、伊藤亜沙っていう人のこの言葉を覚えておいてください**「排除なき共生を可能にするもの」**という問題の設定です。

「目の見えない人は世界をどう見ているのか」っていう本を書いたんですが、排除なき共生を可能にするテーマの接近につながる話が書かれています。

それから、見田宗介という社会学者の本をどこかで手に入れて読んでみてください。

彼は近代的な民主主義の諸制度を崩さずに平等な未来社会をたぐりよせる夢のような話をどんどん書いているんです。そうか、こんな風になるといいな社会はと思わせます。

最後のところですが、この20年間で僕は、窓口はすごいレベルの高い学者達をよくよんできたなと思っています。この人達をよべる組織ってやっぱりすごいなと思っています。

ひきこもりのイロハ的なことについて語りたいことが、本当はいろいろありました。

ひきこもってもいいじゃないかっていう人がいます。そうです。いいんですよ。確信のある人はひきこもっていいんです。だけでも困っている人とか、迷っている人とか塞ぎこもっている人には何らかの手を差し伸べるということは必要ですね。そういうところで少し具体的な話をしたかったし、不登校の話もしたかったですが、もう時間なので終わります。

ひきこもりを考える

2020.10.24. 田辺市ひきこもり検討委員会

布袋太三

《はじめに》

10年ほど前の東大安田講堂でのシンポジウムのタイトルが
これだった。何の修辞もないシンプルさでこれならボクも
パクリるし、何としゃべっても許されると思った。まずはサリ
と自分史と戦後社会史国の話につきあってもらいたい。

☒ ボク自身の略歴と「附表」1, 2を見ながら戦後社会史を

1943年 ボクが生まれた

45年 戦争が終った。

↳ 新制度が次々とできた。

50年

↳ 小中高生 表面は明るく中身は暗がり

cf. 勤評
アンボ

62年

↳ 超まじめな大学生だったが、卒業まで6年かけさせられた。

cf. ミン校実験競争

バトナム戦争
大学の授業料、学生館問題
いじめ

68年 田エで講師 (初出勤の日、校長が「納はおとなしくしていて

69年 熊高で教諭

「たはいいよ」
と言われた。

70年 田高へ

↑
意味からん!?

82年 南紀へ

93年 田高へ

永山則夫事件
新宿西口反戦集会
暴走族
沖縄返還
中高生自殺増
校内暴力
いじめ自殺増

95年 田エへ

2003年 定年退職 再任用拒否 素浪人生活へ

6種類ほどの会議のコーディネーター

シンポジストと講師とその他で現役の時よりいそがしい日々。

2010年前後がタタヒサピーク

20年 現在 これで終りにしよう。

ボクもここまで皆さんのおかげで
よく生きながらえてきた。

40年ほど前に「死んど」死んでたから
そこから「天」にまかせて生きてきた。
もう十分な気がしてる……。

☒ 付表1, 2 も少し見てほしい

- 出典は嶋崎政男の『少年殺人事件 その原因と今後の対応』。
- 2006年以降は自力で調べてみてほしい。
 - ※ 2015年2月『川崎市多摩川河川敷 上村君殺害事件』
 - 2008年6月『秋葉原殺傷事件』
 - 2011年3月『東日本大震災・原発事故』
 - 2019年5月『川崎事件』
- 社会の耳目を集める事件は次々とおこる。
- 日本の社会は構造的に悲惨な事件の発生も不可避としているのか。
- 貧困や格差を背景とする不条理な事件はまた起りつづける。

☒ 肺道にのめるかもしれない。石井光太郎『本当の貧困の話としよう』の中で 今の日本は「反社会の子供」が減って、新たに「非社会の子供」が増えていると書いている。

→ 「非社会の子供」の特色を以下のように挙げた。

- 学校の人間関係に入っていけず、友人と呼べる相手がない。
- 他人ばかりでなく家族とさえ信頼関係も築くことができない。
- 自分の意志ももてず、コミュニケーション能力が低い。
- ゲーム、ネット、アニメなど二次元空間に居場所を見出す。
- 打たれ弱く、失敗を恐れ、何をやってもつかない。
- 社会や将来に対して希望を抱くことができず、何に対しても投げやり。

☒ 苛酷な貧困状況を脱した例

- 孫正義、クリスティーノ・ロナウド、南高健、安室奈美恵

→ 極貧であっても才能のある人はのしかかれる。

しかし、そうだから 自由で平等なわけでもない。
 はたして、誰もが努力さえすれば格差の上
 のにのしかかれるというのか。

1 田辺のいきなり支援システムが評価される根拠は何か。 (好意的に)

1) エピソード的には

- ① 斎藤環が、あちこちの講演会や座談会で田辺のとりこみ
をホメまわっていることがかなり大きい。ポイントは「フット
ワークのよい顔の見えるネットワーク」ということらしい。
ボクらの立ち話では、宮本聡Drや市長の姿勢などにもふれた。
宮本みち子もかなり感心していた。
- ② 内閣府のパンフの田辺特集
- ③ 伊藤順一郎の『いきなりを呈する青年への地域支援システムに関
する研究』-和歌山県田辺モデルが都市型の地域に活用できるか-
における肯定的評価。

2) 現実的には どうとらえかえすべきか

- ① 開設に奔走したエネルギーでキアラ立った保健師の存在
- ② 熱意ある精神科医が強力にバックアップしたこと。
- ③ 作業所運動の担い手が設立の中心メンバーだったこと。
- ④ 私財投げうって居場所づくりに乗り出していた篤志のある元教師
- ⑤ 窓口(事務局)メンバーのモチベーションが維持されつづけたこと。
- ⑥ 関連する諸機関よりの出向メンバーが一貫して真摯であったこと。
- ⑦ 関係部署 行政マニの献身と市当局のバックアップ

→ 結果として全国的に稀有な「いきなり」に特化した相談窓口」をもつ
自治体となり、しかもネットワークに特長をもつシステムがつくられた。

→ H13年度の活動はやりすぎの感ありではあるが、斎藤環や
近藤直司の講演に加え事例検討会もやってしまう 更に各地
視察に出かけ、小委員会の進め方などの議論もやった。
これでは身体がもたん。

3) 検討委員会としては もっとこうありたいと思うこと。

網の目を もっと柔軟に しなやかに、かつフランクな関係に…。

① 長い間の課題だが 学校の教師たちとちゃんとつきあおう。
小学校の先生は 一人一人の生徒とその親とその地域のことをよく知っている。中学校の先生も思春期の御し難い生徒と日々格闘している。高校の先生はもはや個々に顕在化しつつある とまどいをもかくせない青年に近い生徒と必死につきあっている。これら教師たちと もっと本音で話しあう機会をつくるべきだと思う。うまくいけば 本当に色々な意味で迷いを深めつつある 少年を水際で救える(?) かもしれない。

② 「学びの丘」の先生方とも忌憚のない意見交換をしたい。
教師も保護者も 学びの丘へはよく相談に行く。しかし対象の生徒が卒業したり 学校を離れた場合はどうなるのか。そもそも 学びの丘は ひきこもり支援についてどんな流れを 考えているのか。何の地域資源にもつながら ことなく 途絶えさせてしまっていないか。

③ 中学卒業時点で 不登校(ひきこもり状態)の生徒とつながるシステムを関係者間でつくっておくこと。又高校中退時に ひきこもっている生徒にもアプローチできるシステムも 開発したい。

④ 高卒一括採用にもれた生徒にもつなげられるシステムも必要だ。

⑤ 最近では精神科医療に携わる専門職とのつながりがうすい。
心センの PSW との連携など模索していきたい。

⑥ 児相・家児相との連携も もっとあっていいと思うが。

4) 不登校やひきこもりに関する基礎データも整理しておく。

① 田辺で、中高で不登校になり、その後卒業や中退して就労も進学もせず家にいる青年の概数は。

② 小中高の不登校生の再登校率はどのくらいか

③ 田辺出身の大学生の不登校生の概数は。

④ 田辺のひきこもりヤニードの概数は。

2 ひきこもりをめぐる言説で知っておきたい学者たち

1) 斎藤 環

田辺に最も縁の深い精神科医。文学からサツカルまでありにも守備範囲が広すぎる。ひきこもりに(関)してはまったくブレない。現状分析から支援のありようまで今日もおまー線の論客。

2) 尾木直樹

昔はひきこもりについてよく発言してた。ひきこもる青年の概数をいじめで算出した。

3) 近藤直司

ひきこもりはまずは精神科医の診断をという傾向あり
いわゆる「新ガイドライン」によって発言。診断のつかない
ひきこもりは多数あることは自明なはずなのに。

4) 斎藤 万比古

「新ガイドライン」をまとめた ひきこもりの精神医療化
とでも言う内容。どうもいまちなのだ。

5) 工藤 定次、啓

親子で若者支援にとりくむ。若者支援の産業化も
けろろ割りきってやってる。

6) 高塚雄介

『ひきこもる心理とひきこもる理由』はぜひ一読してほしい。
心理士としてはきわめて行動的。日本精神衛生学会会長だった

7) 二神能基

レンタル婦さんで有名になった。ハチメチャたが筋は通ってる。
千葉の行徳はひきこりの町々ようで色んな試みがいっぱい。

8) 中垣内正和

新潟で手広くデパートにあり場をつくらせている異色の精神科医

9) 佐藤洋作

行動的で実践的な学者。三度で評判のパン屋をやってる
農業実験地をもち、そこの収穫物でパンをつくらせて売ってる。

10) 滝川一廣

現在、最も秀れた精神科医。中井久夫、青木省三、神田橋護、
田中康雄、山登敬之、杉山登志郎など日本の精神医学には
個性的で見事なタレントがいっぱいいる。滝川はその頂点かも

11) 石川良子

この若い社会学者にはデビュー当時から注目していた、飲ムベシで
饒舌だが目付きは隙をみせない。ひきこりのコリルを向う姿勢は
支援の次を見ずよ、としていて今後議論をよぶ人だ。

12) 玄田有史

ニートで注目もあつた。「希望党」とやらも提唱した。若者論
をやるときには必須の論客だが、どうも混沌も呆れる若者
の心情とはへだたりを感じている。

13) 谷口仁史

若者支援のスーパー実践家。タフで人向味もあって着想
も豊か。これからこの業界ではリーダーとして生きつづける。

14) 竹中哲夫

高齢だと思ふが最もバランスのとれた学者。地道に
分けへだてなく資料集めに徹底し業績は大きい。

15) 西村秀明

実はこの西村の著書『ひきこり、その心理と援助』が入門書と
しては最適だと思っている。10年以上前に出したが十分生きている。

16) 境 泉 洋

田辺に来た時も少し話したかあまりよくわからない。クラフトを使った
 なんとかと言っていたがどの程度の実践の集積に基づくものか不明
 KHJのおかかえ学者でもある。

17) 田中 夏子

スローライフ・スローフードの話が尽きない。年令不詳のおもしろい学者。
 ひきこもりだった青年たちがこんな仕事ならやってみよう
 と思うようなメニューをいっぱいもっている。

18) 宮本 みち子

若者のかかえる社会構造上の問題と分析についてはヒカールの論客
 もの静かだが舌峰は鋭い。

19) 青砥 恭

埼玉の困難もかかえる青年たちにさまざまな実践を提供している。
 貧困や格差の分析も先鋭ではある。

20) 池上 正樹

最近 ひきこもり問題にかかわるメディアへの露出がタタ
 8050問題や川崎事件、元官僚の息子殺しなどへの発言

21) 当事者と言われる人たち

泉翔 上山和樹 勝山実 貴戸理恵

3. ひきこもり支援の今後について

1) 田辺市の「子ども 若者白書」を作るかどうか

- ・下地は「次世代育成支援行動計画」だが数字であらう
- ・乳幼児の状態はどうか
- ・小中高生校生の状態はどうか
 - 不登校、発達障害、虐待、非行、貧困 母子父子 他の病気
 - 中卒時就職者、高卒時就職者、大学進学率
- ・若者の状態(どんな働き方)
 - 正規雇用労働者、非正規雇用労働者、フリーター ニート、ひきこもり
- ・現状の分析と課題の整理

2) 「子ども・若者包括支援センター」構想のために

- ・虐待、非行、貧困、不登校、ひきこもり、発達障害 若者の就労などの支援のための相談窓口の設立。
- ・関連する諸機関、民間団体、居場所、訓練システムの連携体制をつくる。
- ・見相、家見相、ひきこもり検討委員会、要対協、青少年センター、学校関係者、経営者団体、精神医療従事者、臨床心理士、民生委員、保健所、ヒーローワーク、ゆめふる、教育委員会、子育て支援課

4. 最後は、いくつか思いつくことをラダムに言いまくって終りたい。

- 今、伊藤亜沙に注目している。『目の見えない人は世界をどう見ているのか』がおもしろい。彼女の「排除なき共生」を可能にするもの、という話の時は利他性にかた。何かをしてあげろというのではない利他を……
- 長谷川俊雄は、「問題のない思春期・青年期は問題である」と「問題を抱えていた家族はないのだ」とまずこけ、と昔講演をはじめになあ。
- 「ひきこもりは誰にでも起こりうる状態」であっても「誰もが起こす状態でもない」不登校も、どうかも。しかし、ものすごくひどい出来事を体験させられたら、たいていのヒトは精神を壊してしまう。(渡川のヤマト戦争の資料参照)
- 見田宗介という老社会学者の本を読んでみてほしい。『現代論はどこに向かう』近代的な民主主義の諸制度を崩さずには平等な未来社会をたぐりよせる夢のような話を豊饒な言葉で延々と綴っている。又、彼の本の中に、秋葉原事件と、おと昔の連続射殺魔、永山則夫が「人間的性の核心の渇きから来る『実存的』な犯罪」として共通している」とした。彼は、自分はだから必要とされている人間だと感じていた。「成熟した人間は必要とされることも必要とする」(カクム)
- この20年間、窓口は本当にすぐれた講演者を招き続けた。おかげでボクもちょっとは勉強できた。その後も、その何人かは時々出会うこともあるが、いずれも、なぜか、田辺の評判がいい。田辺をよくやっているよなあと思ひこんでくれているのだ。
- おそらくもうボクの言葉にも文にもいいはいいにならないう。終わる

(2020.10.24
15時)

付表1 年次別少年殺人検挙者数（10歳～19歳）

■付表1
年次別少年殺人検挙者数（10歳～19歳）

	検挙者数	10万人比		検挙者数	10万人比
昭和21（1946）年	246	1.49	昭和52（1977）年	77	0.47
昭和22（1947）年	216	1.26	昭和53（1978）年	91	0.55
昭和23（1948）年	354	2.06	昭和54（1979）年	97	0.57
昭和24（1949）年	344	2.01	昭和55（1980）年	49	0.28
昭和25（1950）年	369	2.14	昭和56（1981）年	60	0.34
昭和26（1951）年	448	2.55	昭和57（1982）年	86	0.48
昭和27（1952）年	393	2.21	昭和58（1983）年	87	0.47
昭和28（1953）年	383	2.13	昭和59（1984）年	76	0.40
昭和29（1954）年	411	2.25	昭和60（1985）年	100	0.53
昭和30（1955）年	345	1.90	昭和61（1986）年	96	0.49
昭和31（1956）年	324	1.82	昭和62（1987）年	79	0.41
昭和32（1957）年	313	1.70	昭和63（1988）年	82	0.43
昭和33（1958）年	366	1.91	平成1（1989）年	118	0.62
昭和34（1959）年	422	2.11	平成2（1990）年	71	0.38
昭和35（1960）年	438	2.15	平成3（1991）年	77	0.42
昭和36（1961）年	448	2.19	平成4（1992）年	82	0.47
昭和37（1962）年	343	1.68	平成5（1993）年	75	0.44
昭和38（1963）年	393	1.93	平成6（1994）年	77	0.47
昭和39（1964）年	361	1.80	平成7（1995）年	80	0.50
昭和40（1965）年	370	1.85	平成8（1996）年	97	0.62
昭和41（1966）年	368	1.82	平成9（1997）年	75	0.49
昭和42（1967）年	343	1.77	平成10（1998）年	117	0.79
昭和43（1968）年	286	1.54	平成11（1999）年	111	0.77
昭和44（1969）年	265	1.50	平成12（2000）年	105	0.74
昭和45（1970）年	198	1.17	平成13（2001）年	109	0.74
昭和46（1971）年	149	0.90	平成14（2002）年	83	0.61
昭和47（1972）年	149	0.91	平成15（2003）年	96	0.73
昭和48（1973）年	111	0.69	平成16（2004）年	62	0.48
昭和49（1974）年	102	0.63	平成17（2005）年		
昭和50（1975）年	95	0.59	平成18（2006）年		
昭和51（1976）年	80	0.50	平成19（2007）年		

1945~1951

付表2 60年の年表[少年殺人・犯罪／社会情勢／文化・風俗]

年	少年による主な殺人事件	その他の少年事件	主な事件事故／社会及び教育界の動き	首相	文化／風俗／流行等
1945 昭和20 □	・19歳ら37歳の愛人請負殺人 ・隣村対立。19歳が21歳刺殺 ・17歳、鷺谷駅強盗殺人 ・予科練くすの殺傷事件多発	・浮浪者問題 ・校長排斥求め同盟休校 ・13歳パンパン嬢 ・18歳、けんかで5人刺傷	ヒロポン禍／疎開児童戻る／育空教室／戦災孤児等保護対策要綱実施／狩り込み／マッカーサー来日／東条自殺／復員第一船帰港／財閥解体、農地改革／枕崎台風／文部省「新日本建設」の教育方針」発表	小磯／東久邇	「りんごの歌」「お山の杉の子」ヒット／闇市／慰安婦募集／米糞失調が流行語／輪タク登場／パンパンガール／双葉山引退
1946 昭和21 □	・島根高1、転校巡り父親を殺害 ・高2、歯科医宅で強盗殺人 ・18歳らの強盗殺人続発 ・12歳ら兄弟、薪割し強盗殺人 ・19歳ら闇販売もめ大学生射殺 ・19歳ら日本刀強盗殺人	・菜園荒らし ・校内弁当盗み ・DDTの散布 ・17歳ら山陽本線の積荷窃盗 ・13歳、脅迫状悪戯	南海地震1432人死亡／小平10人殺害／引揚者／憲法公布／生活保護法／米よこせデモ／22歳一家5人殺害／22歳財閥令嬢誘拐／児童相談所が性向相談開始／都小学校給食開始／アメリカ教育施設団来日「個人差尊重、発達援助、学生相談等」を紹介	幣原／吉田	「ご名答」「あつ、そう」流行語に／メンコ流行／「サザエさん」連載開始／「はたちの青春」封切／うら物資／「平凡」創刊／「話の泉」開始／「赤線・青線」
1947 昭和22 □	・19歳、タクシー強盗殺人 ・16歳、校内で計画し強盗殺人 ・18歳ら逃走中に警察官射殺 ・17歳、不仲の父親を毒殺 ・2女性殺害の17歳、少年法で減刑 ・「少年小平」名乗る17歳、2女性暴行殺人、主残党	・人身売買問題 ・浮浪者・不良狩り ・佐久、子ども6人心 ・少年少女家出増加 ・19歳、教師詐称	八高線事故／飯田大火／キャサリン台風1529人死亡／浅間山噴火／教育基本法、学校教育法、児童福祉法制定／ベビーブーム／住宅難／犯罪増加／「学習指導要領試案」発行／新学制6・3制実施／日教組結成／ゼネスト中止／「児童心理」創刊	吉田／片山	東京ブギウギ流行／「青い山脈」連載開始／「肉体の門」発表／「少年王者」発売／「鐘の鳴る丘」／「二十の扉」開始／アフレ族／100万円宝くじ発売
1948 昭和23 □	・16歳、3歳幼女殺し背中ナイフ文字。犯罪雑誌頒倒 ・中2女、厳しい母への反抗から家族7人毒殺図り2人死亡 ・中学中退、下駄毒殺 ・16歳、青酸カリで隣人強盗殺人	・恐るべき子供たち ・混血児増加	帝銀事件／関西小平事件／福井地震／寿院事件／太宰治入水／改正少年法公布／ティーン制度、ガイダンス、カウンセラーの導入／文「懲戒権の限界について」／混血児収容施設開設／教育委員会法公布／サマータイム実施	片山／吉田	斜陽族／踊る宗教／美空ひばりデビュー／カストリ酒場、アロハンヤツ流行／「鐘の鳴る丘」放送開始／「老いらくの恋」流行語
1949 昭和24 □	・探偵小説ファン19歳、一家5人撲殺、53年に再犯 ・探偵ファン高1、一家3人殺人 ・17歳ら一家4人強盗殺人 ・高1、厳しい仕打ちの兄刺殺 ・19歳、金目当て青酸カリ殺人	・花売り等街頭児 ・看護婦集団自殺 ・ヒロポン中毒	松川、下山、三鷹の鉄道事件／光クラブ学生社長自殺／能代大火／松山城放火／法隆寺金堂炎上／優生保護法施行／兄弟9人心中／36歳主婦老女殺人／文「長久調査」／体罰禁止の心得／国会「青少年不良化防止」決議	吉田	古橋、フジヤマのトビウオ／トンコ節流行／アジャパーが流行語／「とんち教室」開始／「石中先生行状記」押収／湯川博士ノーベル賞
1950 昭和25 □	・19歳、デート中女性3人を刺殺「倒れる姿に興奮」 ・高2、同級生を校内で刺殺 ・高2、4人、強請られ高2刺殺 ・中2、警察官の拳銃奪い射殺 ・19歳女、叱られ義父母殺害 ・中1スリ、分け前も仲間刺殺 ・高1ら不義迫る姉の舅を絞殺	・競馬場通い問題 ・高校進学率43% ・孤児不良化71万 ・19歳、給料強奪 ・アドルム自殺流行 ・19歳女が煙突娘 ・高1、4校放火 ・共同募金山分問題	支店長一家6人殺害／朝鮮戦争特需／レッドバネジ／ジェーン台風／京都駅焼失／バス物部川転落／金閣寺炎上／財田川事件／熱海大火／池田蔵相「貧乏人は麦を」発言／警察予備隊発足／総評結成／岡山県「エロ雑誌取締り条例」／都教委、受験中心学習に警告	吉田	アルサロ流行／「チャタレイ夫人の恋人」押収／オーミステイク流行語／スピッツブーム／聖徳太子千円札発行／「羅生門」封切／山本富士子がミス日本／アメシオン流行語
1951 昭和26 □	・中2、小5とけんかで刺殺 ・高3、北野高1女子校内殺人 ・19歳、2人、古物商夫妻殺人 ・高1、女性と思った男娼刺殺 ・中2の女性殺人事件2件発生 ・19歳女、母の再婚先で5人に毒 ・中3、母・元と酒乱の父殺害 ・19歳、義姉の婚約者を撲殺 ・18歳ら20歳万引仲間を刺殺 ・19歳、侵入した家の主人を刺殺	・非行第一のピーク ・児童人身売買 ・中高生の中絶問題 ・パチンコ禁止へ ・高校生4人心中 ・桃色グループ問題	桜木町事件107人死／八宝亭事件／大構内31歳残忍な母殺し／パチンコ関連事件が頻発／一家9人青酸カリ心中／バス天竜川転落事故／八海事件／27歳女医愛人の妻を毒殺／警察官無理心中事件／ルース台風／サンフランシスコ条約／財閥解体／覚醒剤取締法／児童憲章制定／文「道徳教育手引書要綱」／各地で教育相談室創設／カウンセラー養成講習会開催	吉田	パチンコブーム／「明星」創刊／力道山が初試合／「少年」にアトム掲載／日米野球で米が優勝／マチス・ピカソ展開催／無着成森：山びこ学校／紅白歌合戦放送開始／ラジオ体操開始／VANジャケツ設立

■付表2 60年の年表「少年殺人・犯罪／社会情勢／文化・風俗」

IV

1952~1959

1952 昭和27	・16歳、遺書書かせ高1絞殺 ・18歳ら銭湯一家4人殺害 ・ヒロポン中毒の殺人続発 ・16歳、いじめ注意の中1刺殺 ・18歳、従兄の妻と子を絞殺 ・16歳、仕事注意の叔母を絞殺 ・19歳、雇い主への不満で毒殺 ・17歳、愛人奪い合いで6歳決闘殺	・夜の少女物売り ・幼児が料理屋放火 ・19歳、医師を恐喝 ・12歳、飛行機家出 ・17歳女、投書村八分 ・高2、校内出産	・メーデー事件/十勝沖地震/鳥取大火/白鳥警部射殺事件/もく星号三原山墜落/女教師荒川放水路バラバラ事件/小作駅事件/富士銀行強盗/早大事件/明神隆爆発/東大ボロボロ事件/体罰問題多発/教育委員会制度発足/PTA全国協議会発足/義務教育国庫負担法公布/破壊活動防止法成立	吉田④	「君の名は」始まり全国を席巻/エッチ、ワンマン流行/「冒険王」に少年ケニヤ、イガグリ君連載/ワルツ曲流行/ナイロン素材着流行/白井フライ級王座
1953 昭和28	・高4「殺してよい場合がある」と小説に書き中3女子を絞殺 ・校内果たし合いで高1が刺殺 ・19歳、一家3人殺人が2件 ・5歳幼児が2歳幼女を射殺 ・19歳、映画館トイレで強盗殺人 ・15歳、嫉妬から16歳女を射殺	・バー・メッカ殺人 ・子供銀行でのスリ ・湯島聖堂屋根刺し ・食料無長欠29万 ・パーマ44人停学 ・修学旅行生吉原へ ・少年次郎一家窃盗	・神戸バラバラ事件/同性愛三角関係殺人/せつぶん殺人/ゼロ号殺人/奄美群島返還/内灘事件/小平米軍機墜落/全国的凶作/バカヤロー解散/西日本豪雨/文「特殊教育の対象等」通達/東大に学生相談所/米田ASCA設立/義務教育国庫負担法施行	吉田⑤ 鳩山①	TV放送開始/街頭テレビ人気/ダンスホール隆盛/性典映画ブーム/ジャズ熱/マンボ流行/ロボトミー/「君の名は」封切り
1954 昭和29	・小1、同級女子を鉄で刺殺? ・中2、叔母を殺殺井戸に遺棄 ・中3、運名いわれ小4を射殺 ・18歳、強盗殺人で死刑囚に ・小4、5歳幼女を映画館で刺殺 ・15歳、小1女児を暴行殺人 ・高3、駅乱闘で別学校生徒殺殺	・キャラメル盗み ・鏡子ちゃん事件 ・久里浜少年院暴動 ・麻布中水難事故 ・ヒロポン禍 ・17歳、女優宅放火 ・鉛筆キャップ死 ・アルサロ女給補導	・参賀庄死/造船疑獄/第五福竜丸事件/茨城一家9人毒殺/洞爺丸転覆/旭丘中事件/島田事件/28歳カービン銃強盗/教頭ら校内女教師暴行/仁保事件/近江絹糸争議/富士山遭難/集団主義生活指導発令/学校給食法成立/へき地教育振興法公布/中教審「教員の中立性維持」答申	鳩山②	プロレスブーム始まる/少年画報に赤胴鈴之助/平凡100万突破/「七人の侍」「ゴジラ」「ローマの休日」封切/暴力カフェ/マリリンモンロー来日/ビニール人形ブーム
1955 昭和30	・17歳、小2女児校内暴行殺人 ・小6、小5をプロレスで致死 ・中2、中2をプロレスで致死 ・16歳、5歳幼女を暴行殺人 ・17歳女、那陰にすると弟毒殺 ・18歳、しつこいと16歳女絞殺 ・16歳らの父親殺害4件続く ・17歳、同僚を絞殺、畑に遺棄	・小学生自殺が多発 ・鹿児島で売春発覚 ・作新学院同盟休校 ・17歳、父の愛人誘拐 ・高校進学率52%	・砂川闘争始/トニー谷長男誘拐/津市海岸36人水死/千葉銀ギャンブル事件/23歳カメラ店主刺殺/松山一家4人殺人/「紫雲丸」事故/森永砒素ミルク事件/悪書追放運動/新潟大火/聖母の園養老院36人焼死/生活綴り方生活指導拡大/社教審「純潔教育の進め方」、児福審「俗悪映画対策要望」	鳩山③ 岸⑤	深夜喫茶店の増加/映画「暴力教室」上映/アルサロ全盛/神武景気/トランジスタラジオ、電気炊飯器発売大人気/20K公団住宅建設/新宿駅に尻押し部/「三種の神器」
1956 昭和31	・18歳、アベックを暴行殺人 ・17歳、小1女児を暴行殺人 ・結婚前19歳女、家族4人殺害 ・小3、チャンバラで同級生致死 ・16歳女、雇主の1歳幼女を殺害 ・15歳、父の愛人の子を絞殺	・愚連隊の非行 ・桃色遊戯が問題化 ・中学浪人問題 ・深夜喫茶問題 ・高校で校長カン詰	・弥彦神社庄死/延暦寺放火/28歳同僚銃殺/政界ジブ恐喝/美空ひばり公演で死傷者/夫の性器切取予告刑/売春防止法成立/日ソ国交回復/参宮線列車転覆/能代・大館大火/国連加盟/全国学力テスト実施/地教育行政公布	石橋①	太閤族ブーム/「チロリン村とくるみの木」「お笑い三人組」「スーパーマン」等人気/ロングヘアー流行/「もはや戦後でない」
1957 昭和32	・小1、同級生を窒息死 ・16歳、ブース夫妻強盗殺人 ・18歳、一家7人殺殺放火 ・5、6歳、8月乳児を強殺 ・19歳、「母急病」と授業中連れ出し、小6女児絞殺 ・中1、盗み見つかり5歳絞殺	・対教師暴力が増加 ・懲戒への報復恐れて ・高校が臨時休校 ・10代の心中続く ・修学旅行集団万引 ・中2、親に50日監禁 ・恐喝グループ問題 ・アロハ族浜辺占拠	・ジェラード事件/28歳が中2を誘拐バラバラにしホルマリン漬け/美空ひばり塩酸事件/19歳天城山心中/第五北川丸事故113人死/ロッカー破り頻発/芝中体罰死/国際連合加盟/桃色退学で高校校長自殺/九州大水害/南極基地建設/文「暴力事件の根絶」/少年法改正論議	石橋② 岸①	エログロ雑誌問題/すし詰め学級/「よるめき」「一億総白痴化」流行語に/ロカビリー流行/流感猛威/なべ底不況/「バナナポート」人気/スポーツニクショック
1958 昭和33	・16歳、人殺したいと殺人 ・高2、注意受け教師を刺殺 ・中3、小2女児暴行転落死 ・小松川高校生暴行殺人 ・中2、いじめ仕返し殺人 ・中3、高2兄とけんかし刺殺 ・19歳、校庭連出し小2女児殺害 ・小3、4歳女児蹴蹴で致死 ・5歳、遊び中に父親を致死	・ダメ肉親殺しが続発 ・越境入学問題化 ・高校生の動評反対 ・フラフラ事件多発 ・芸能人憧れ家出増加	・島秋人強盗殺人/阿蘇山爆発/狩野川台風/南海丸沈没/動評反対闘争/全日空機墜落/関東地方異常洪水/米兵発砲事件/台風22号被害/売春防止法施行/学習指導要領告示/文部省「道徳教育の実施要綱」通達/学校保健法公布/学級編成基準50名/学校恐怖症の言葉使われる	岸②	月光仮面ごっこ、フラフープ流行/ながら族/東京タワー完成/インスタントラーメン/1万円札発行/ゴッホ展/スバル360発売/長島新入王/稲尾大活躍/団地族/若乃花横綱昇進
1959 昭和34	・18歳、拳銃狙い警官刺殺 ・15歳、中学浪人手製銃殺人 ・19歳、一家6人を殺害 ・高2、校内でけんか殺人 ・17歳、友人宅侵入し母殺害 ・中2女、非行注意の叔母刺殺 ・中2ら35歳強盗殺人	・カミナリ族横行 ・進学組と就職組対立 ・簡易旅館で桃色遊戯	・24歳一家7人焼殺/荒川通り魔事件/国会乱入デモ/スチュワーズ殺人事件/伊勢湾台風/三池争議/水俣病/皇太子ご成婚/神風タクシー/キューバ革命/緑のおばさん/岩戸景気/風俗営業取締法、国民年金法/全国生活指導研究会創設	岸③	ミッチーブーム/週刊少年漫画創刊/「黒い花びら」/「性生活の知恵」ヒット/南無4連勝/「少年ジェット」「七色仮面」「ローハイド」放映

■付表2 60年の年表「少年殺人 犯罪/社会情勢/文化・風俗」

77

VT ■付表2

1960-1966

1960 昭和35 	・小5、小4を殴殺 ・小1、2が2歳幼女を溺殺 ・16歳、小2女児誘拐殺人 ・中3、部活争いで中3刺殺 ・中3、送別会で決闘殺人 ・中1、ライバル女生徒殺 ・小5男児、人気妬み小3絞殺	・浅沼社委員長刺殺 ・ナイフ使用事件多発 ・小学生殺人が議論 ・高3、卒業後対教師集団暴力	・チリ津波/夕張炭鉱爆発/安保反対デモ/山谷騒動/日本閣殺人事件/比叡山バス事故/正樹ちゃん誘拐殺人/熊本女性連続殺人/横須賀火薬庫爆発/グアム島で日本兵発見/歌謡ショーで庄死事故/所得倍増政策/少年法改正議論/少年警察活動要綱制定	岸田①	・カラーTV放送開始/だっちゃんブーム/レ大「誰よりも君を愛す」/「怪傑ハリマオ」/「ララミー牧場」放映/新若時代/ローマ五輪/マイカー時代
1961 昭和36 	・中1、いじめ仕返し殺人 ・高2、いじめ仕返し殺人 ・中1、5歳刺殺後井戸へ遺棄 ・中3、校内で同級生を刺殺 ・中2、小1女児を悪戯し殺害 ・19歳、弟分のいじめ仕返し ・高2、校内けんか殺人	・睡眠薬遊び流行 ・中央公論社長宅襲撃 ・「生徒女給」捕縛 ・おそろべき17歳 ・ジャズ喫茶ブーム ・少年殺人過去最多(448件)	・名張ブドウ酒事件/三池争議/釜ヶ崎騒動/手製銃の事件事故多発/森町大火/赤木圭一事故死/酔払い防止法施行/キューバ危機/ベルリンの壁/米機民家墜落/ソ連有人衛星打上げ/全国一斉学力テスト/小学校学習指導要領全面実施	岸田②	・生理用品発売/シャボン玉ホリデー放映開始/レ大「君恋し」/「上を向いて歩こう」/「スーダラ節」ヒット/「若大将」シリーズ開始/柏島時代/東洋の魔女活躍
1962 昭和37 	・18歳、病院に放火7人死亡 ・中2、馬鹿にした中2撲殺 ・中3、小3女児暴行殺人 ・孤独な中2、女性暴行殺人 ・不登校中2、連続暴行 ・中2、告げ口した小4毒殺 ・中3、子分の仕返し校内殺人	・中学生殺人続発 ・中3男女マイト心中 ・18歳、女教室で射殺 ・六本木賑わう ・愚連隊横行	・三河島事故/サリドマイド問題/富士山荘10人怪死/三宅島噴火/ニセ千円札/川崎タンカー衝突/福江市大火/パレ2女性強盗殺人/村民集団リンチ殺人/草加次郎事件/恵庭事件/西日本集中豪雨/教科書無償制発足/中学校学習指導要領全面実施	岸田③	・コーラ発売/ボーリング、ツイスト流行/コレラ騒ぎ/堀江氏太平洋単独横断/レ大「いっつでも夢を」/てなもんや三度笠放映/金田投手専三振世界新
1963 昭和38 	・小4、遊び中に5歳を致死 ・15歳、梅川昭美、強盗殺人 ・引きこもり19歳、強盗殺人 ・18歳、同僚刺殺 ・16歳、口論の末母親刺殺 ・17歳、近所の小3を絞殺 ・17歳、同居の19歳従兄殺 ・19歳、タクシー強盗、遺棄	・高2、陰部切り取り、連続9件 ・睡眠薬流るる流行 ・シンナー遊び ・ピンク映画の影響	・吉原ちゃん誘拐殺人/狭山事件/草加次郎爆破事件/西口影連続殺人/鶴見脱線事故/三井炭鉱爆発/ケネディ暗殺/力道山死亡/日本海側豪雪被害/沖縄「みどり丸」神戸「とさわ丸」沈没/愛知大学薬師岳遭難/教科書無償措置法公布/文部省「学校と警察の連携強化」通達/教課審「道徳教育の充実方策」答申	池田①	・マイホーム主義/鉄腕アトム、鉄人28号(SFアニメ)放映/青春歌謡(高校三年生等)、「上を向いて歩こう」ヒット/私はかもめ/レ大「こんにちば赤ちゃん」/大河「花の生涯」
1964 昭和39 	・高3、高1弟妬み銃で殺害 ・高3、殺人実験と称し刺殺 ・小5、プロレス技で弟致死 ・17歳、中退後いじめ仕返し ・高2、同級生校内決闘殺人 ・17歳女、俳優の愛児殺害 ・高3、勉強促す母親刺殺放火 ・中3、5人ずつ決闘で殺	・非行第二のピーク ・中学校で対教師暴力多発 ・いじめ怖いと集団欠席 ・ワッペンブーム ・かぎっ子問題	・新潟地震/東京砂漠/ライシャワー米大使刺殺/智行ちゃん誘拐殺人/富士空港機着陸失敗/ベトナム戦争開始/町田商店街に米機墜落/スモン病発生/幼稚園教育要領/文部省、養護学校設置を都道府県に要請/文部省「生徒指導担当指導主事」を指名配置/生徒指導主事講座を開催	岸田④佐藤①	・東京オリンピック開催/東海道新幹線開通/TV「赤い殺意」/「三匹の侍」/「ひょっこりひょうたん島」放映始/平凡パンチ創刊/レ大「愛と死を見つめて」/大河「赤穂浪士」
1965 昭和40 	・高3、更衣室で高1暴行殺人 ・18歳、警官射殺市街戦へ ・高2、授業中いじめ仕返し殺人 ・中3、女性暴行殺人「完全犯罪計画」のメモ残す ・小6「普通の子」悪戯殺人 ・高3、高1女校内暴行殺人 ・高3女、自殺偽装祖父絞殺	・下着検査反対で授業放棄 ・高校進学率70%超える ・背伸び器の死	・古谷惣吉10人殺人/筑豊炭田爆発事故/晴れ着汚損事件、狂言強盗多発/吹原産業事件/ワングル部しごき死事件/25歳、女子中学生殺人/伊豆大島大火/東横駅トイレ殺人/団地夫人狂言強盗/ベ平連がデモ/印パ戦争/文部省「生徒指導の手引き」発行/中教審「期待される人間像」発表/同和对策審議会答申	佐藤①	・エレキギターブーム/ミニスカート流行/教「青春とは何だ」/「ハリスの旋風」(番長物)「オバケのQ太郎」(11PM)開始/シンザン5冠馬/レ大「柔」/大河「太閤記」
1966 昭和41 	・高1、自習中いじめ仕返し殺人 ・18歳、同窓会いじめ仕返し ・16歳二世、3女性連続殺人 ・中3、挨拶応じぬ52歳撲殺 ・17歳、銃奪い主婦を射殺 ・17歳女、恋人の愛人を刺殺 ・高3、進学促す母を刺殺 ・高3、25歳女暴行強盗殺人 ・高3ら依頼受け女児突落死	・関西サーキット族 ・原宿族対策	・千葉大チフス事件/全日空機羽田沖墜落/カナダ機羽田着陸失敗/BQAC機富士山上空空中分解/全日空機松山空港着陸失敗/当たり屋夫婦逮捕/女子高生誘拐同棲事件/教育ママ入試問題/題盗事件/袴田事件/台風26号東海に大被害/国会で「黒い霧」追及/三沢大火/登校拒否調査開始/全国学校教育相談研究会創立/中国文化大革命/人口1億突破	佐藤②	・ビートルズ来日/30/フォークソングブーム/「おはなはん」/「ウルトラマン」[奥様は魔女]「おそ松君」開始/教「これが青春だ」/コインランドリー登場/丙午で少産/レ大「霧氷」/大河「源義経」

60年の年表「少年殺人 犯罪/社会情勢/文化・風俗」

VII

VIII

1967～1973

1967 昭和42 □	・15歳2人、連続強盗殺人 ・高1、中2女を暴行殺人 ・17歳、アイドル殺害の練習 ・高2、殴った先輩を校内殺人 ・19歳、20歳暴行し毒殺 ・19歳、22歳暴行し絞殺 ・中3、口うるさいと祖父絞殺 ・17歳、通帳盗み同僚刺殺	・フーテン族横行 ・高3 新幹線爆破未遂 ・シンナー死増加 ・冷蔵庫での死続発 ・西穂高落雷死11人 ・17歳、房総線爆破 ・中3、ガイド嬢悪戯	美濃部革新都政誕生/山陽電鉄爆破/玉川焼殺事件/藤沢女子高生殺人/東京駅爆破/羽田空港爆破/島根の21歳、帰宅中の小2女児刺殺/マダムバラバラ殺人/西日本集中豪雨/バーベキュー殺人事件/バーテン保険金殺人/鈴鹿トンネル事故/都立高等学校群制度/日本相談学会創立/「学校嫌い」調査始	佐藤①②	グループサウンズ全盛/ツイギー来日/アングラ、サイケ流行/リカちゃん人形発売/教「でっかい青春」/ジェットストリーム開始/レ大「ブルーシャトール」/大河「三姉妹」
1968 昭和43 □	・大2、カインとアベル殺人 ・高1、授業中いじめ仕返し殺人 ・19歳、山崎4人連銃射殺 ・19歳、呉服店一家3人刺殺 ・高1、校内でけんか殺人 ・小5女児、5月乳児腹イセ殺害 ・19歳浪人生、中3弟を刺殺 ・中2ら31歳路上強盗殺人	・19歳、車通り魔 ・大学紛争激化 ・少年自衛官溺死 ・高校紛争始まる ・18歳ら支店長監禁	金塘老事件/成田闘争/横須賀線爆破/飛騨川バス転落/新宿騒乱事件/三億円事件/高橋正彦連続殺人/智子ちゃん誘拐殺人/OL暴行惨殺事件/銀行員バット殺人/心臓移植成功/十勝沖地震/有馬温泉火災/イタイイタイ病/タレント議員/霞ヶ関ビル完成/東名高速道路部分開通/「暴走族」正式使用決定	佐藤③	いざなぎ景気/GSシヨウで失神騒ぎ/黒猫のタンゴ大ヒット/ハレンチ流行語/「サインはV」/「巨人の星」/「あしたのジョー」開始/教「進め青春」/レ大「天使の誘惑」/大河「竜馬」
1969 昭和44 □	・高1、いじめ返し首切り取り ・4歳男女、1歳児を窒息死 ・19歳、正寿ちゃん誘拐殺人 ・高2、悪ふざけ校内殺人 ・小6、嘘いじめ訴えに暴力 ・15歳女、三角関係22歳女刺殺 ・優秀な高3、22歳絞殺	・シンナー死多数 ・モータリ遊び流行 ・ヒッピー族 ・ゴーゴー喫茶補導 ・深夜ラジオ全盛 ・永山則夫逮捕	安田公室封鎖解除/磐梯熱海火災/内ゲバ事件多発/プロ野球八百長事件/原子力船むつ進水/暴カタクシー事件多発/アポロ月面着陸/沖縄20歳、小5女児殺害/母殺害逃亡の長崎20歳中2殺害/恵美子ちゃん誘拐殺人/甲府・夫事故死偽装殺人/新宿西口反戦集会事件	佐藤④	ドリフ&コント55/エコノミックアニマル/「男はつらいよ」開始/教「炎の青春」/ドラえもん放映/レ大「いいじゃないの幸せならば」/大河「天と地と」
1970 昭和45 □	・17歳らコンクリート殺人 ・中3、4歳児通せんぼ殺人 ・3歳幼女、母さんごっこで溺殺 ・中1、集団で優秀生を強殺 ・高1、いじめ相手にプロレス ・16歳女、外泊叱られ父絞殺	・高校学園紛争激化 ・少年自殺者増加 ・不幸の手紙流行 ・三無主義、シラケ広がる	よど号ハイジャック/大阪ガス爆発/シージャック事件/三島自決/大阪万博/成田空港開港/兄一家4人惨殺/内ゲバ続発/プロ野球黒い霧問題/スモン病/人工衛星おすみ打ち上げ/光化学スモッグ杉並で発生/富士銀行不正融資事件	佐藤⑤⑥	イージーライダー流行/カ石徹葬儀超満員/ハレンチ漫画/8man創刊/歩行者天国/レ大「今日でお別れ」/大河「桜の木は残った」
1971 昭和46 □	・小2、4歳児放置し凍死 ・中1、馬鹿といわれ5歳児刺殺 ・中2、悪戯騒がれ小1扼殺 ・19歳、ストーリー、父殺害 ・中3、応援依頼の中1絞殺 ・19歳女、男友達と母を絞殺 ・中2女、雙児を川に投げ込む	・小学生の他校襲撃 ・落ちこぼれ問題 ・スケバングループ ・遊び型非行の呼称 ・アンノン族 ・ロマンポルノ影響 ・サンリオ1号店	1億円拾得/大久保8人暴行殺人/ぼんだいの号墜落/全日空機空中衝突/クリスマスツリー爆弾事件/東京ゴミ戦争/成田空港反対闘争/川崎崖崩壊/近畿トンネル衝突事故/ネズミ講捜査/ドルショック/いのちの電話開設/中教審「四答申」/「月刊生徒指導」創刊	佐藤⑦	マクドナルド1号店/カップ麺発売/アメリカンカンクラッカー、ボーリング流行/カード付お菓子/教「おれは男だ」/レ大「また逢う日まで」/大河「春の坂道」
1972 昭和47 □	・中2、悪戯騒がれ小3絞殺 ・小1、4、2歳児を窒息死 ・4歳、5月乳児を溺殺 ・小5、砂かけた2歳児を殴殺 ・4歳、2歳弟をバケツ窒息 ・中3、スキーライバル刺殺 ・小3、同級生を投石で致死 ・中1、2歳弟を折檻致死	・暴走族の暴徒化 ・富山暴走族暴徒化	連合赤軍リンチ殺人/浅間山荘事件/千日前デパート火災/テルアビブ事件/北陸本線トンネル火災/高松塚古墳発見/沖縄返還/日本列島改造論/日中共同声明/札幌五輪開催/第二次ベビーブーム/青森長女保険金殺人/横井さんグアムで発見/異子殺人異様に増加/モデル増加/中ビ連結成	佐藤⑧田中①②	コインロッカーベビー/教「飛び出せ青春」/パンダブーム/「太陽にほえろ」[中学生日記]放映/中3トリオ/川端康成自殺/ペルバラ人気/レ大「喝采」/大河「新平家物語」
1973 昭和48 □	・高2、GF巡り44箇所刺す ・高1、寮内リンチ殺人 ・19歳らアベック襲い惨殺 ・中2、校内でけんか殺人 ・高3ら26歳女暴行殺人 ・中3、同級生をモデルガンで ・48.5歳、幼女窒息死	・サーキット族殺人 ・過激派内ゲバ殺人 ・中高生の自殺多発 ・中3女子同棲生活	順法闘争で騒乱/赤ちゃん輪旋/金大中氏事件/立大助教一家心中/熊本デパート火災/滋賀銀行9億横領/石油ショック/ベトナム和平/タイの人身売買玉本逮捕/38歳TV殺人/日本郵船上司バット殺人/日航機ハイジャック/豊川信金取付け騒ぎ	田中③	超能力ブーム/同棲ブーム/ハイセイコー活躍/巨人V9/「恍惚の人」[日本沈没]がベストセラー/バレンタインデー過熱/レ大「夜空」/大河「国盗物語」

■付表2 60年の年表「少年殺人 犯罪/社会情勢/文化 風俗」

IX

1974~1980

1974 昭和49 □	・中3ら仕返し集団リンチ ・19歳ら、浮浪者殺人 ・中3、悪戯告げ口恐れ5歳児を殺害 ・18歳女、不倫相手の妻刺殺 ・19歳女、再婚邪魔と1歳児殺害 ・18歳2人、6歳児誘拐殺人	・コックリさん流行 ・中3爆発魔 ・学校間乱闘が多発 ・甲山事件	日本赤軍各地でテロ/伊豆地震/光市警官射殺人質事件/平塚ピアノ殺人/川崎ベトナム人殺害/三菱重工業ビル爆破/美弥子ちゃん誘拐殺人/別府3億円保険金殺人/狂乱物価/然別迫撃砲爆発/高校進学率90%超/教頭法制度化/教員人材確保法公布/春闘最大のゼネスト	田中②三木①	長島引退/キティ登場/変体少女文字広がる/教「われら青春」/乙女チック/「愛と誠」開始/北の湖模範/女子大生亡国論/レ大「襟裳岬」/大河「勝海舟」
1975 昭和50 □	・3歳幼女2人、乳児を強殺 ・5歳らTV真似乳児を強殺 ・真面目な高1、不登校詰められ祖母を絞殺 ・小5、盗み見つかりOL刺殺 ・18歳女、男友達と祖母殺害 ・19歳女、47歳同棲相手遺棄	・スケバン非行深刻 ・モーター集団遊び ・暴走族間乱闘多発 ・女高生万引き競争 ・登校拒否1万人超 ・「ジャングル教室」 ・19歳、替玉受験	スキーバス青木湖転落/息子の勉強に邪魔と母が隣家の幼女殺害/勉強遅れ心配と入院中の娘を絞殺/北九州4人殺人/足利銀行女子行員2億円横領/松生丸銃撃事件/沖縄海洋博開催/乱塾時代へ/ベトナム戦争終結/「育児休業法」公布/主任制度化	三木①	「およげ!たいやきくん」ヒット/ピンサロ全盛/百貨化粧品好評/広島カープ初優勝/エリザベス女王来日/レ大「シクラメンのかほり」/大河「元禄太平記」
1976 昭和51 □	・中3、ピンク映画後OL暴行 ・中3、小4女児監禁暴行強殺 ・小1、嫉妬から弟を溺殺 ・高1、東大ライバル殺人 ・中2、タクシー運転手を刺殺 ・中1男、電話注意の養父刺殺 ・19歳、小2暴行殺人	・小6女児の売春発覚 ・シンナー死亡多発 ・神戸まつり事件 ・校内暴力急増 ・二浪生3人惨殺 ・自殺、心中多発 ・高2連続強姦魔	ロッキード疑獄/北海道行爆破/克美茂愛人殺人/25歳バリ留学生一家3人殺害/酒田市大火/天安門事件/自販機ボム/雑誌問題/岡山愛人バラバラ殺人/大学長夫妻遊覧機から投身自殺/20歳腹イセ殺害/29歳一流ホテル連続強姦/文「業者テスト自粛」通達	三木①福田①	5つ子人気/風疹流行/大原みどり2億円事件/「花の応援団」/「限りなく透明に近いブルー」/王715号/レ大「北の国から」/大河「風と雲と虹と」
1977 昭和52 □	・小6、悪戯抵抗され小2絞殺 ・推理小説ファン高3、憧れ無視され同級生刺殺 ・2歳幼女、乳児を切り刻む ・5歳児、乳児に布団被せ窒息死 ・中3、父親刺殺し強盗偽装 ・19歳ら生意気と15歳強殺	・おねだり自殺続発 ・3少女入水自殺 ・開成高の息子殺し ・小5、ホステス補導 ・小4女児リンチ事件 ・小6女児が売春	青酸コーラ事件/クラクション殺人/ゴルフクラブ殺人/ペンフレンド殺人/全日空機ハイジャック/ダッカ空港事件/マルチ商法摘発/愛知医大3億円強奪事件/有田集団コレラ/有珠山爆発/円高新記録/200カイル宣言/長崎バス乗っ取り/学習指導要領改訂でゆとりの時間	福田①	カラオケブーム/窓際族/サラ金問題/ジョギングブーム/ふとん乾燥機ヒット/王「国民栄誉賞」/ピンクレディデビュー/レ大「勝手にしやがれ」/大河「花神」
1978 昭和53 □	・中3、2人、いじめ仕返し殺人 ・中1、注意した祖母を殴殺 ・中3、小のいじめ相手刺殺 ・高2、同級生ストーカー殺人 ・小4女児、乳児を強殺 ・3歳ら、2歳児を窒息死 ・小6、バカと言われ小1殺害 ・高1、小2女児イタズラ刺殺	・少女暴走族リンチ ・小4女児、教室自殺	制服警官女子大生殺し/暴力団組長狙撃/グナムで2保母殺害/KO強盗/妻蒸発男娘殺害後爆死/栃木県議8人道連れ心中/ガイアナ人民寺院集団自殺/猛暑/宮城沖地震/伊豆大島近海地震/日中平和友好条約調印/江川ドラフト問題/成田空港開港/高校学習指導要領告示	福田①大平①	キャンデーズ引退/モラトリアム人間/教「熱中時代」/「ゆうひが丘の総理大臣」/デイスコブーム/インベーダーゲームヒット/レ大「UFO」/大河「黄金の日々」
1979 昭和54 □	・高1、世話焼き祖母を殺害 ・中2、注意の同級生を刺殺 ・高2、女友達一家5人殺傷 ・17歳女、覚せい剤通り魔殺人 ・中3女、同級生を校内刺殺 ・中3男、女医暴行殺人 ・小4女児、小2女児を突き落とす死 ・小6、悪戯告げ口恐れ6歳を ・中2、2人、同級生強殺	・いじめ自殺多発 ・竹の子族 ・上福岡中1自殺	三菱銀行監禁事件/連続保険金殺人/女性銀行強盗/日本坂トンネル火災/神野寺トラ騒動/祥裕君誘拐殺人/内申書裁判始/阿蘇山・木曾御岳爆発/台風20号日本縦断/元号法公布/夕暮族問題/第二次石油ショックで省エネルギー/文部省「自殺防止対策」通達/総理府「自殺防止対策」提言/東京サミット開催/ハプニング解散	大平①②	「口裂け女」の噂全国を席捲/ウォークマン発売/「ガンダム」放映/教「3年日組金八先生」/占いブーム/「関白宣言」歌詞論争/じゃばゆきさん/広島C日本一/レ大「魅せられて」/大河「草燃える」
1980 昭和55 □	・小6、5歳児を射殺・致死 ・小6、母助けようと父刺殺 ・小1、3歳児悪戯し井戸投棄 ・中1、母代りの中2姉射殺 ・15歳、酔って同級生を強殺 ・中3、仲の悪い中1弟刺殺 ・中2女、同居の叔父を刺殺 ・シンナー16歳、2女性死傷 ・16歳、検問中警察官殺害 ・19歳、小1を刺殺	・各地の中学校で校内暴力多発 ・多額恐喝で自殺 ・小2、首つり自殺 ・熱中女教師処分 ・教師を傘で刺傷 ・祖母、自閉症児殺害 ・中3、連続暴行 ・釣ブームで万引き	三浪少年両親バット殺人/富山、長野連続誘拐殺人/イエスの方舟事件/静岡地下街ガス爆発事故/新宿バス放火/川治ホテル全焼/ソ連のアフガン侵攻/イイ戦争勃発/総理府:家庭内暴力調査発表/自衛隊スパイ事件/花柳幻舟家元刺傷/富士見産院事件/韓国光州事件/1億円取得/富士山落石事故/小学校新教育課程全面実施(ゆとりの時間新設)/文部省通達「非行防止について」	大平②鈴木①	漫才ブーム始まる/ルービックキューブ・チヨロQ等発売/山口百恵、王貞治引退/「タッチ」連載始/「とらばーゆ」創刊/アラレ話流行/ホテル等の新風俗登場/レ大「雨の慕情」/大河「獅子の時代」

■付表2 60年の年表「少年殺人 犯罪/社会情勢/文化 風俗」

XII

1981 昭和56 □	・中1、授業中に同級生を蹴る ・高2、体育祭の仮装でけんか ・中3、みどりちゃん殺人 ・18歳、ピアノ殺人で2人死 ・高3、幼馴染絞殺暴行殺人 ・高1、教室内けんか殺人 ・高1、4人、シンナーリンチ死 ・高2女、同級男子校内刺殺 ・中3、嫉妬から1歳妹溺殺 ・19歳、金無心断る祖母殺害	・ムシャクシャ事件が多発 ・警官立入卒業式 ・ナイフ事件続発 ・校則で高校混乱 ・教師へ強制猥褻 ・小学生通り魔 ・中3、硫酸通り魔 ・高石中恐喝訴訟 ・家庭内暴力増加	元トルコ娘殺人事件／バリ留学生猥褻事件／深川通り魔事件／三和銀行詐欺事件／夕張炭鉱ガス突出事故／ローマ法王ヨセフ・アキラカ来日／替え玉保険金殺人／神戸ポートピア開催／日本海側豪雪被害／バイオリン偽鑑定／中国残留孤児初来日／文部省「校内暴力等の非行の防止」通達／中教審答申「生涯教育」／校内暴力国会で審議	鈴木①	ピンクレディー解散／キャプテン翼、D「スランブ人気」／「窓際のトットちゃん」／「何となくクリスタル」／漫オブーム続く／「オレたちひょうきん族」／ノーバン喫茶ブーム／レ大「ルビーの指環」／大河「おんな太閤記」
1982 昭和57 □	・高1、家庭内暴力で父を殺害 ・中2二校18人校庭で決闘 ・中3が24人に制裁中2死亡 ・高3、不登校詰る兄を刺殺 ・中3、4人、酔って2人絞殺 ・17歳、婚約者と母を殺害 ・18歳、元GFの母を刺殺 ・高2、親に乱暴の兄を殺害 ・19歳、伯母夫婦を刺殺 ・16歳、母と対立の祖母を殺害	・校内暴力ピーク ・ガスボンベ遊び ・中3女3人心中 ・教室内傷害多発 ・混信電話遊び増 ・小6、連続通り魔 ・小3、母に毒盛る ・中3、カギツ子脅 ・高2、父に殺害	ニュージャパン火災／日航機羽田で墜落／教科書問題／大学生隣家母子5人殺害／父親が家庭内暴力の高2刺殺／さるびあ丸乱闘／中3少女ティス自殺／21歳交際断った高2ら5人殺害／67歳ゲートボール殺人／フォークランド紛争／ブルーインパルス墜落／27歳東大教授の祖父惨殺／長崎集中豪雨／総理府「暴力に関する研究調査」／文部省「豊かな心を育てる施策推進会議」	鈴木①中曽根①	オリブ少女／混線電話遊び／ビタミンブーム／「心身症」流行語／「笑っていいとも」放映／500円硬貨発行／ゲートボール、エアロビクスがブーム／愛人バンク「夕暮れ族」／レ大「北酒場」／大河「峠の群像」
1983 昭和58 □	・中2ら「浮浪者連続殺人」 ・中3、いじめ仕返し同級生刺 ・15歳、両親惨殺 ・高1、からかわれ小1絞殺 ・19歳、女子大生暴行殺人 ・中3、同級生を校内で強殺 ・高2、同級女生徒を扼殺 ・高2、交際の女生徒絞殺 ・18歳ら飲み仲間強盗殺人 ・19歳、別れ話で高3女絞殺 ・二浪、高2妹絞殺後に自殺	・忠生中教師事件 ・高2教室で猟銃 ・ボケベル売春 ・小学校学級崩壊 ・少年非行第三ピーク ・荒川河川敷殺人 ・中3、女教師に悪戯 ・小3女児、狂言強盗 ・中1、1600万豪遊 ・中3、元担任へ爆弾 ・中1女、覚醒剤で死亡	日本海中部地震／大韓航空機撃墜／三宅島大噴火／つま恋プロパンガス爆発事故／千葉医大研究生殺人／戸塚ヨットスクール問題／練馬5人殺し／サラ金規制2法／いじめ症候群・いじめ社会等の記事増加／小校長親の抗議で自殺／サラ金苦主婦老人殺害／「学級崩壊」新聞に／3歳隣家預け死亡で隣人訴訟／国土館大理事殺人／レーガン大統領来日／山陰地方集中豪雨／教養審答申「免許制度の改善」／文部省「出席停止措置」通知	中曽根①②	ファミコン発売／おしんブーム／デート喫茶／「軽薄短小」に人気／東京ディズニーランド／「スケバン刑事」完結／T V「金妻」積木くずし／思春期挫折症候群／CA T V初開局／レ大「矢切の渡し」／大河「徳川家康」
1984 昭和59 □	・小5、同級生窒息死 ・中2、高2姉と口論し絞殺 ・高1、2人、いじめ仕返し殺人 ・中3、泥酔し乱暴教師死亡 ・高3、同級生校内殺人 ・中2、部活遅れの後輩を致死 ・高1、女性を強盗殺人 ・中2、4歳児をしゃもで致死 ・高3女、仲良し中3女を絞殺 ・19歳、恐喝相手の母を刺殺 ・16歳、主婦暴行転落死 ・19歳、小6暴行殺人 ・高1ら高1に因縁付け強殺 ・高3ら海に転落2女性死亡	・小中兄妹の誘拐犯 ・17歳、小包爆弾 ・少女雑誌問題 ・キン肉マン人形盗 ・女子非行が急増 ・中3、白昼包丁強盗 ・高校中退10万超 ・プロ並中1窃盗犯	グリコ森永事件／勝田清孝10人殺人／自衛官小銃乱射／三井有明鉱火災事故／長野県西部地震／ロス疑惑報道／山中湖ポート転覆事故／サラ金禍／札幌小4男児誘拐殺人／18歳飲み仲間殺人／新居浜小6女児通り魔（99.1逮捕）／警察官銀行強盗／元巡査長連続殺人／山陽本線脱線事故／樺村直己不明／酷暑各地で猛威／からし蓮根11人死亡／投資ジャーナル摘発／男女雇用均等法成立／文部省「出席停止指導基準」／臨時教育審議会発足／文部省「登校拒否」と「いじめ」の指導書作成	中曽根②	女子プロレス／キャバツ細人形とエリマキトカゲ人気／ドラゴンボール連載開始／キャバクラ、テレクラ流行／カラオケボックス／少女雑誌の性記事国会論議／「おたく」使われる／「風の谷のナウシカ」／教「スクールウォーズ」／衛星テレビ放映開始／ロス五輪で山下選手ら金メダル／語「金・ピ」／オシンドローム／レ大「長良川艶歌」／大河「山河、燃ゆ」
1985 昭和60 □	・小4、遊び邪魔と5歳児絞殺 ・15歳、激しい父母斧で殺害 ・中3、暴行殺人？草加事件 ・中3、教室内けんか殺人 ・高2、無灯火注意の警官刺殺 ・中2、長電話注意の祖父絞殺 ・中2、泥棒と言われ17歳絞殺 ・高2、値引き口論女店員殺害 ・高2らGF問題からリンチ	・小川中いじめ自殺 ・高校生体罰死事件 ・陸上女子選手自殺 ・輸血拒否小5死亡 ・いじめ事件多発 ・優秀高2、警官襲撃 ・デートクラブ売春 ・担任叱責小5自殺 ・いじめ仕返し多発	車内暴力続発／豊田商事事件／日航機御巣高山墜落／国電同時ゲリラ／三菱夕張鉱爆発／下関日本刀男11人殺傷／T Vやらせ事件／スキーバス転落／長野地滑り／自販機農薬ドリンク／有毒ワイン騒動／N T T、J R発足／つくば科学博開催／熊本お礼参り殺人／丸刈校則合憲判決／初のエイズ患者認定／文部省等「非行防止対策推進会議」開催／「いじめに関する指導の徹底」通達／臨教審一次答申：個性重視	中曽根②	バブル経済／財テク／ بانکルック／ブルセラショップ／金妻ドラマ／ビックリマンチョコ発売／おニャン子クラブ／「スーパーマリオブラザーズ」500万ヒット／新風営法施行／「8時だよ全員集合」終了／阪神優勝／やおい本／語「イッキイッキ」／分衆／レ大「中森明菜」大河「春の浪濤」

1986-1990

1986 昭和61 □	・高1 姉、妹姤から中1 妹姤殺 ・中3 弟、口論から高3 兄刺殺 ・小4 女児、遊び断られ5 歳溺殺 ・中3、3 人、因縁つけ中3 殺殺 ・中2、3 人、中1 リンチ殺人 ・小中ら施設内でリンチ殺人 ・中3、5 人因縁つけ中3 強殺 ・中3 女、非行注意の母姤殺 ・高2、退部巡り同級生殺殺 ・18歳、下校中の小1 拉姤 ・高1、7 人、高1 リンチ殺人	・ユッコ後追い多発 ・テレクラ売春 ・中野富士見中事件 ・いじめ自殺続々 ・高1、導水路で水死 ・新宿野宿者襲撃 ・小5、校門事故死 ・体罰で中2 死亡 ・車中シンナー 6 人死 ・高3、交番襲撃	岡田有希子飛降り自殺/チエル/フイリ事故/三原山爆発/余部鉄橋列車転落事故/7 女性集団焼身/裕士ちゃん誘拐殺人/東京サミット/熱川温泉火災/チャレンジャー爆発/トリカブト殺人/マニラ保険金殺人/英でBSSE 発生/下瀬谷中体罰問題/エイズ問題世界的に広がる/文部省が塾調査/臨教審二次答申(生涯学習体系)/警察庁「いじめ白書」・法務省「いじめ実態調査」発表	中 曽根根②③	伝言ダイヤル/ドラクエ発売/家庭内離婚/乱塾列島/「ちびまるこちゃん」りぼん連載開始/ビートたけしらFRIDAY 殴り込み/「変体少女文字の研究」/ダイアナ妃F/語「新人類」「究極」/レ大「中森明菜」/大河「いのち」
1987 昭和62 □	・高3、同級生を校内で撲殺 ・18歳、スカー殺人 ・リンチ殺人、中・高で数件 ・高3、教室内で仕返し刺殺 ・高3、盗み見られ叔母撲殺 ・高2の父親殺人3 件続発 ・高2、4 人、高2 リンチ殺人 ・15歳女、陰口の同僚を絞殺 ・中1、恐喝仕返し中2 殺殺 ・16歳ら7 人高2 リンチ殺人 ・高1、交際もつれ中3 女刺殺	・女高生宅配売春 ・給食農薬混入事件 ・エホバ証人退学問題 ・プタンガスでの死 ・野宿者襲撃が増加 ・不動塾で15歳死亡 ・中3 女、給食に農薬 ・体罰で小2 死亡 ・フリーター増加	エイズ初の死/2 歳幼女誘拐殺人/朝日新聞阪神支局襲撃/功明ちゃん誘拐殺人/校長から二千万恐喝/不登校私塾リンチ死/大韓航空機爆発/第一次アスベスト問題/米ブラックマンデー/都「淫行処罰」否定/「月刊学校教育相談」創刊/教養審答申(初任者研修制度)/教課審答申:生活科・家庭科男女必修/臨教審三、四次答申(個性重視・生涯学習体系への移行・変化への対応)	中 曽根根③ 竹下①	地上屋/マドンナ旋風/ビックリマンチョコブーム/新人類マナー問題/エイズ問題/「ファイナルファンタジー」発売/お見合いバブ/「1. 5 の時代」/「サラダ記念日」/「ルウエイの森」ヒット/語「懲りない」/「マルサ女」/レ大「近藤真彦」/大河「独眼竜正宗」
1988 昭和63 □	・中3 賭博借金から15歳殺害 ・「名古屋カップル惨殺事件」 ・中2 帰化生徒、担任刺殺 ・中2、両親祖母惨殺事件 ・中3 兄、2 歳妹を折檻死 ・中2、からかう同級生を殺殺 ・16歳、文化祭で因縁高3 殺害 ・中3、タイマンで中3 刺殺 ・中2、集団抗争で中2 殺殺 ・16歳ら犬鳴峠殺人事件	・中3 逆さつり暴行 ・9 月に自殺が多発 ・綾瀬母子殺人事件 ・日型肝炎に偏見 ・小6 ピンサロ勤務 ・バーマ退学で提訴 ・いちご族 ・中3、14 人丸刈体罰 ・馬ケーション問題 ・男女高校生心中	上海列車事故で修学旅行生徒27 人死亡/内申書裁判最高裁判決/青函トンネル区瀬戸大橋完成/ふるさと創生資金1 億円/机文字9 /妊婦惨殺事件/潜水艦衝突事故/卒業アルバム問題/新任中校長自殺/電車衝突百余人死傷/平塚29 歳斧鎚で教室乱入/リクルート疑惑/文部省白書「我が国の文教施策」発表/文部省「校則見直しの見解」/手足口病/「死の教育」提唱	竹下①	ドラクエIII 騒動/ハイレグ/カウチボット/カワフ族におたく話題/教「教師びんびん物語」/語「ベレストロイカ」/「今宵はこまで」/レ大「光GENJI」/大河「武田信玄」
1989 平成 1 □	・16歳ら女高生監禁惨殺事件 ・中3 男、告げ口した中1 殺害 ・高1 男「今日は母殺す日」 ・中3、集団乱闘で相手を殺殺 ・高3、ガンつけたと校内殺人 ・中2、3 兄弟、祖母を絞殺 ・暴走族関係の殺人多発 ・16歳、GFトラブルで親友殺害 ・18歳女、駆逐ち相手を絞殺 ・高1、からかう同級生を殺殺	・女高生AV 出演 ・伝言ダイヤル売春 ・中3、カラオケボックスでの死 ・サバイバルゲーム ・停学苦に高1 自殺 ・ガスパン死続発 ・クレジット破産増 ・中3、盗900 万豪遊	昭和天皇崩御/リクルート事件/宮崎勤助幼女連続誘拐殺人/坂本弁護士一家失踪事件/消費税導入/ベルリンの壁崩壊/天安門事件/神戸市バスジャック/元自衛官2 警察官刺殺/妻子5 人刺殺/輸血拒否の高2 死亡/世田谷女子大生殺人/有害図書規定合憲判決/「運合」誕生/美空死去/学校不適応対策に関する調査協力者会議発足/児相「児童虐待調査」/学習指導要領「新学力観」	竹下① 宇野① 海部①	ダイヤルQ 2 /声変わり風船、カードダス、エアガン流行/ほたる族話題/アバシー/エアガン/トリップ(幻覚)遊び/「M の時代」/「おたくの本」/教「はいすくーる落書」/語「セクシャルハラスメント」/「オバタリアン」/レ大「Wink」/大河「春日局」
1990 平成 2 □	・17歳、小1 誘拐悪姤殺人 ・中2 仲間を校内でリンチ ・高2、交際相手姤殺焼却炉へ ・中3 小2 をプロレス技で致死 ・高2、文化祭で因縁高1 刺殺 ・16歳、喫煙注意されて殺殺 ・中3、同級生を校内殺人 ・通院中17歳、小6 妹刺殺	・二浪生、両親刺殺 ・ダイヤルQ 2 問題 ・高3 通り魔強盗 ・高2、ヘッドホン死 ・徳島自殺ごっこ ・子供の低体温問題 ・高1 小4 誘拐 ・中3、6 人教師重傷	小教諭教え子殺人/女生徒校門圧死事件/国立で男女混合名簿/新潟不明高3 女保護/長崎市長銃撃/信大生3 女性殺害/21 歳3 女性撲殺/クウェート侵攻/東西ドイツ統一/短大生拉致に警官発砲/L 〇児親の会結成/砂浜生き埋め体罰/伝習館高事件判決/生涯学習振興法公布/中教審答申(生涯学習の基盤整備)	海部①②	コミック本有害指定/スーパーファミコン発売/サイレントベビー話題/馬ケーション/語「ちびまる子ちゃん」結婚しないかもしれない症候群/レ大「堀内孝雄」/大河「翔ぶがごとく」

年表「少年殺人 犯罪/社会情勢/文化・風俗」

XV

XVI

1991 ~ 1996

1991 平成 3	・高3、中学の同級生を刺殺 ・小1兄、3歳妹メッタ刺し ・高1、渋谷族、大2強殺 ・高3、注意受けた教師を蹴殺 ・中3、らいじめ高じ校内殺人 ・小6、らいじめ高じ4歳児致死 ・中3、プロレスで同級生致死 ・高2、悪戯抵抗受け中1扼殺 ・高3、憂さ晴らしと高1殴殺	・複数犯の殺人増加 ・渋谷族犯罪増加 ・少女Q2摘発 ・母が拒食症高2殺害 ・高1猥褻20件 ・高校生ネズミ講 ・性コミック影響のイタズラ事件多発	湾岸戦争に自衛隊派遣／雲仙普賢岳爆発／バブル崩壊／トリカブト裁判／風の子学園事件／いじめ仕返し大量殺人計画発覚／ソ連解体／ダイヤルQ2料金訴訟／都庁舎完成／通級学級制度化提言／ヤマギシ会で女児脱水死／都「単位制高校」／不正入試続発／自己破産急増／文「登校拒否への対応」通達／中教審答申（豊かな人間性・入試改善）	海部②宮沢①	「ちゃん」「ファジィ」／馬券ショーン流行／ブルセラショップ誕生／「まじめの崩壊」／野菜急騰給食直撃／語「火砕流」「じゃあーりませんか」／SMA Pデビュー／レ大「北島三郎」／大河「太平記」
1992 平成 4	・中2ら石垣島リンチ殺人 ・高3、高2を校内で刺殺 ・高1姉、中1妹妬み刺殺 ・19歳、市川一家4人殺人 ・中3、いじめ報復校内殺人 ・中3、離婚恨み両親刺殺 ・高3、いじめ仕返し刺殺 ・中3、喧嘩の決着中3刺殺 ・高1、伯母を鉈で殺殺	・19歳、父母殺害遺棄 ・集団リンチ多発 ・水戸中3、5人飛降 ・ルーレット族 ・米留学生射殺事件 ・誘拐未遂多発 ・小1女児2人殺害 ・高2、教師宅に爆弾 ・中1、担任刺傷	・カード破産／エイズ問題／PKO法成立／尾崎豊自殺／高教師23歳息子刺殺／戸塚コトスクール事件判決／高校校長自殺／39歳中2女生徒2人殺害／国立主婦暴行強盗殺人／業者テスト問題／資通市指導要録開示／教員初任者研修全校種で実施／生涯学習答申（リカレント教育）	宮沢①	セーラームーン、クレヨンしんちゃん放映／ツーショットダイヤル／だぼだぼルック流行／毛利さん初の宇宙飛行士／語「きんさん・ぎんさん」「ほめ殺し」「冬彦さん」／レ大「大月みやこ」／大河「信長」
1993 平成 5	・中2、マッド巻き死に事姪 ・中3、いじめ高じ強殺 ・暴走族関係の殺人事件 ・中1、棋士の父親刺殺 ・高2、不登校注意の父親殺 ・中3、8人、同級生リンチ ・18歳ら難癖つけてリンチ ・小6、バイクで61歳機殺 ・17歳、口論から26歳刺殺	・テートクラブ売春 ・中3女5人、飛降り ・草加事件民事無罪 ・小6、主婦ひき逃げ ・ポケベル売春 ・パーティー券問題 ・18歳、タクシードラッグ	北海道南西沖地震／65体制崩壊／ゼネコン汚職／皇太子御成婚／日野不倫口し放火殺人／不倫女教師自殺／中頭妻3人殺害後激突死／英10歳少年2歳惨殺／小学校長自殺／教科書訴訟敗訴／業者テスト全面禁止／「教員の心の健康等に関する問題」公表／通級指導開始／川崎市指導要録開示	宮沢①細川①	コギャル／子ども用化粧品／カップル喫茶誕生／ダンク人気／語「リーグ」「規制緩和」「サポーター」／帰国子女問題／自殺映画「ザザンボ」／クラミジア急増／レ大「香西かおり」／大河「琉球の風」「炎立つ」
1994 平成 6	・高1、暴力仕返しに友人殺害 ・中3弟、兄に日頃の復讐 ・中3、交際相手の父親殺 ・19歳、長良川等リンチ殺人 ・中3、放火で6人死なせる ・高2ら8人、高3リンチ ・高1、ストーリー殺人 ・小2、消火器投下小3致死 ・長野、高2リンチ殺人	・大河内君いじめ自殺 ・小5、ナイフ強盗 ・小5、アル中母致死 ・バイク事故多発 ・テレクラ強盗増加 ・草加事件民事有罪 ・15歳、放火8人死 ・チマチョゴリ切断	松本サリン事件／水不足／米不足／井の頭公園バラバラ殺人／つくば母子殺人／20歳男女隣人殺人／葛飾無理心中／20歳小2女児絞殺／鹿川君訴訟勝訴／29歳中2女生徒バラバラ殺人／愛犬家5人連続失踪事件／文「いじめ緊急アピール」／児童の権利に関する条約発効	細川①羽田①村山①	「悪魔」命名論争／エスコートクラブ／教「人間・失格」／ピエス流行／語「すったもんだがありました」「同情するならカネをくれ」「イチロー効果」／レ大「Mr. children」／大河「花の乱」
1995 平成 7	・ホームレス殺人続発 ・暴走族リンチ殺人続発 ・中2、スケボー仲間リンチ ・高2姉、口論し弟を刺殺 ・中3、6人、同級生リンチ ・中3、7人、47歳を強殺 ・17歳、中3少女惨殺 ・高2、成績注意の母刺殺 ・高2女、自宅放火母焼死 ・中3、5人、15歳リンチ殺人	・大多数が複数殺人 ・恐栗症PTSD ・中3、いじめ仕返し ・中3、暴行監禁 ・いじめ自殺続発 ・大島南高水死事故 ・高2女生徒体罰死 ・17歳、連続通り魔 ・チーマー非行激化 ・学校週5日制実施	阪神淡路大震災／地下鉄サリン事件／麻原逮捕／愛犬家5人殺害／道頓堀川投落し事件／主婦首なし殺人事件／女性バラバラ殺人5件目自供／小教頭親仲裁に疲れ自殺／小校長いじめ解決金／精神薄弱を知的障害に／ナイロビ日本人学校長射殺／文「いじめ対策緊急会議報告」／27歳、中1女ら殺害／スクールカウンセラー始まる／八王子スーパー拳銃強盗／日教組路線転換	村山①	ココアブーム／麻薬エクスタシー／ウィンドウズ95加熱／スノーボードブーム／ら抜き言葉に批判／へそ出しルック／無党派知事誕生／教「高校教師」／語「無党派」「NOM O」／レ大「trf」／大河「吉宗」
1996 平成 8	・高1、けちら狩り殺人 ・17歳、カラオケボックス殺人 ・高2ら石垣島リンチ殺人 ・高2、GF絞殺、母と遺棄 ・高2、GF争い同級生惨殺 ・18歳、高1女撲殺 ・中3、4人、仲間をリンチ ・16歳ら誰でもいいと殺人 ・17歳、交際の中3女殴殺 ・中3、8人、高1リンチ殺人 ・中3、盗み見られ69歳殴殺	・ガス／パン遊びで死 ・ゼロヨン族 ・1200万恐喝 ・援助交際売春 ・いじめ自殺多発 ・高校中退1万人 ・17歳、おやじ狩り ・小6、覚醒剤捕縛 ・小5女、テレクラ遊 ・父、中3バット殺人	豊浜トンネル崩落事故／薬害エイズ問題／英で狂牛病／父親息子バット殺人／自殺予告「学校テロ」／テレクラ規制条例／O157発生／柴又女子大生殺人放火事件／タクシードラッグ4人連続殺人／尼崎中3虐待事件／27歳テレクラ2女性殺／教材費督促問題／行田中2自殺でいじめ1億2千万訴訟／文「いじめ専門会議報告」／文相「いじめ緊急アピール」／中教審一次（ゆとり生きる力 変化への対応）	村山①橋本①	ジベタリアン／プリクラ、タマゴッチ、ポケモン、ルーズソックス流行／アムラー現象／ヘタウマ文字が流行る／教師制販論争／だらしない系に批判／語「メークドラマ」「自分で自分をほめたい」／レ大「安室奈美恵」／大河「秀吉」

付表2 60年の年表「少年殺人 犯罪／社会情勢／文化・風俗」

XVII

XVIII

1997~2001

1997 平成9 □	・高3、シューズ殺人事件 ・中2、「酒鬼薔薇」殺人 ・高2、不登校注意の祖母殺害 ・15歳、長野山形リンチ殺 ・中3、恐喝相手バット撲殺 ・高2ら8人、19歳リンチ ・中3ら10人、高1リンチ ・中2、主婦を強盗殺人 ・中3、因縁つけ27歳強殺 ・高2、通学中に同級生刺殺	・須坂でいじめ自殺 ・テレクラおやじ狩り ・各地で学級崩壊 ・中3、大学生狩り ・AV刺激中3猥褻 ・16歳、血見たさ刺傷 ・高1女、銀行強盗 ・19歳ら女大生誘拐 ・2女生徒感電死	奈良25歳中2女殺害/福岡24歳小2女児殺害/20歳50件通り魔/ダイアナ妃事故死/46歳三重女高生誘拐/暴行犯逆恨み殺人/保健室登校1万超/不登校10万人超/消費税5%/京都議定書/自己破産10万超/夫殺害冷蔵庫遺棄/都「買春処罰条例」/文「教育課程実施状況調査」/教育改革プログラム策定/教養書一次答申(教育相談3つの責務)/中教審審二次答申/学校図書館法改正	橋本②	たまごっち流行/失楽園ブーム/「もののけ姫」ヒット/ポケモンパニック/格闘技ゲーム人気/教「職員室」/語「失楽園」「パララッチ」/「援助交際」一般化/レ大「安室奈美恵」/大河「毛利元就」	19表2 60年の年表「少年殺人 犯罪/社会情勢/文化 風俗」
1998 平成10 □	・堺19歳、シンナー通り魔 ・黒磯中1、女教師刺殺事件 ・中3女2人、69歳強殺 ・中1、いじめ返し殺人 ・中3、寝屋川老女強盗殺人 ・中3、受験巡り母親刺殺 ・中3、4人、同級生リンチ ・高1女9人、族内リンチ ・中3、友人と父親を殺殺	・ナイフ事件多発 ・体育会系女性乱暴 ・中3、警察官襲撃 ・中3、偽やせ薬郵送 ・中高生に覚せい剤 ・中2ら老人宅強盗 ・中3強盗続発 ・マルチ商法広がる ・中3、ネット詐欺 ・中3、校内で女子刺殺	カレー毒殺事件/チマチゴリへ嫌がらせ事件/毒物混入事件続発/銀行員顧客老婦殺害/北九州7人監禁殺人始/環境ホルモン/精神保健福祉法施行/心の教室相談員配置/都:指導力不足教員、進学校指定/少年法改正論議/教課審3割削減/小中学習指導要領告示/中教審答申「幼児期からの心の教育の在り方」/今後の地方教育行政の在り方」	橋本②小測①	モーニング娘デビュー/長野五輪/少女のホストクラブ通い/厚底靴流行/美白ブームで化粧品人気/教「GTO」/横浜ベイスターズ優勝/語「ハマの大魔神」「だっちゃん」の「ショムニ」/レ大「globe」/大河「徳川慶喜」	
1999 平成11 □	・16歳、暴行目的母子殺人 ・中3男、母親に反抗、刺殺 ・17歳、ストーカー殺人 ・栃木拉致強盗殺害事件 ・17歳、誰でもいいと71歳殺害 ・高3女、修学旅行ホテル放火 ・中3ら19人、高2強殺 ・中3、養父を刺殺 ・小3、筆箱投げ同級生致死 ・定高3、71歳校内殺人 ・高2ら恐喝の報復殺人	・小2、校庭で殺害 ・集団リンチ殺人 ・テレコミ犯罪多発 ・16歳、台場入質 ・決闘罪で9人逮捕 ・スケボー問題 ・男女高校生飛行機 ・カラーギャング ・高1女、教師刺傷 ・脱法ドラッグ流行 ・高2、校舎に放火	21歳「てるるほのる」殺人/桶川ストーカー事件/池袋通り魔10人殺傷/下関通り魔15人殺傷/香羽主婦女児殺害/母親息子保険金殺人/親のネット攻撃で校長辞職/23歳伝言ダイヤル昏睡強盗/松戸QOL殺人無期/世羅校長自殺/三田高爆弾事件/子連去り多発/全日空ハイジャック/甲山事件無罪/法の華問題/国旗国歌法/学力低下論議/地方分権推進関連連法/青少年問題:青少年の自立と大人の責任	小測①	ハリーポッター発売/パラサイトシングル/だんご3兄弟ヒット/遊戯王カード発売/厚底靴&顔黒/ドリフト族、ゼロヨン族/ネグレクト/生活保護100万突破/児童買春ポルノ/法/語「フッチホン」「リベンジ」「カリスマ」/レ大「GLAY」/大河「元祿繚乱」	IX
2000 平成12 □	・高2、豊川主婦殺人事件 ・佐賀バスジャック事件 ・15歳、放火で老夫婦焼死 ・高3、母親バット殴殺事件 ・高1、3人6人殺傷事件 ・16歳、タクシー強盗殺人 ・16歳、バイト店長刺殺 ・16歳、母親バット殺人 ・16歳、老女宅強盗殺人 ・中3ら「夢の島」殺人 ・入間、高2リンチ殺人 ・15歳らいじめ相手強殺	・6000万円恐喝 ・高2、ビデオ店爆破 ・高2、バット通り魔 ・高2、ハンマー魔 ・17歳、教師を刺傷 ・17歳父、娘殺害 ・中3、金鎚通り魔 ・教室侵入男が傷害 ・小6、連続わいせつ ・リンチ殺人多発	柏崎女性監禁事件/有珠山&三宅島噴火/本庄保険金殺人/オーストリアケーブルカー事故/恵庭QOL殺人/准看護婦の母が高1長女保険金毒殺未遂/27歳高3女生徒刺殺/松阪商校長自殺/世田谷一家惨殺事件/鳥取西部地震/IEA調査で学力低下論議/地方分権一括法/都教委人事考課実施/学法施行規則改正一民間人校長&職員会議&学校評議員/ストーカー規正法/教育国民会議17の提案/児童虐待防止法施行/ひきこもり調査	小測①森②③	「バトルロワイアル」放映/恋愛シュミレーションゲーム/子連れゲーセン族/サッカーくじ開始/期待族/ミニニウム/介護保険スタート/教「伝説の教師」/語「おっはー」「丁革命」「Qちゃん」/レ大「サザンオールスターズ」/大河「英徳川三代」	
2001 平成13 □	・17歳、弟不憫と兄を刺殺 ・小6、自殺を叱られ母刺殺 ・19歳、老女強盗殺人 ・姫路17歳母、1歳児虐待死 ・三軒茶屋暴行死事件 ・17歳女、自宅放火母焼死 ・小6の放火で86歳焼死 ・17歳、副住職暴行死 ・中3、ホームレス暴行死 ・16歳、別居の父を殺殺 ・17歳、16歳女強盗殺人 ・19歳、出会い系主婦殺害 ・小4、小2池へ入水強要	・えひめ丸事故 ・出会系サイト事件 ・メール興奮 ・期待族問題化 ・小6らメル友輪姦 ・高2、メル友刺傷 ・小6、中3刺傷 ・17歳、警官襲撃 ・メル友2少女飛降 ・中1女、同級生刺傷	8児童刺殺池田小事件/ニューヨーク同時多発テロ/明石歩道橋事故/筋弛緩剤事件/中教諭の中2手錠監禁致死事件/24歳3幼児殺傷事件/25歳メル友2女性殺/レザザンバジラ事件/えひめ丸事故/尼崎虐待死/諒早女児誘拐殺人23歳逮捕/伊勢崎主婦監禁殺死/教育改革三法/文「21世紀教育新生プラン」/家裁「重大少年事件の実証的研究」/国研「キレる子どもの生育歴研究」/虐待死事件続発/教科書問題/厚生省「ひきこもり」調査発表/読書活動推進法成立	森①小泉①	セリクラ初摘発/遊戯王オフィシャルカード流行/荒れる成人式/狂牛病パニック/教「さよなら小津先生」/語「米百表」「DV」「狂牛病」/レ大「浜崎あゆみ」/大河「北条時宗」	IX

2002-2006

2002 平成14 □	・東村山市ホームレス殺人 ・19歳、密着の母を刺殺 ・熊谷市ホームレス殺人 ・千葉ホームレス殺人 ・中3、支援施設内殺人 ・高3女ら温泉宿強盗殺人 ・高2、交際同級生絞殺遺棄 ・立川・16歳リンチ死 ・市原・高1リンチ死 ・春日部・定高1リンチ死 ・沖縄・中2、高3兄刺殺 ・塩山・19歳リンチ死 ・名古屋・20歳リンチ死 ・名古屋ホームレス殺人 ・新潟・高1リンチ殺人	・集団リンチ殺続発 ・新潟15歳、リンチ ・高2、爆発事件 ・15歳、自販機爆破 ・中3、暴行教師重傷 ・中3、バット強盗 ・出会系サイト督促 ・15歳、暴行監禁 ・高1、祖母襲撃	ワールドカップ日韓共同開催／北朝鮮拉致被害者一部帰国／神戸大学院生リンチ殺人／精神科医事務員殺人／36歳高1女誘拐殺人／37歳横浜一家3人殺害／世田谷一家4人殺人／31歳三島短大生焼殺／岡崎女子大生刺殺（05.8高3逮捕）／塩尻AV嬢心中事件／宇都宮散弾銃主婦殺人／改正少年法施行／学校完全週5日制／文「心のノート」／「学びのすすめ」／「教育特区」／「人間力戦略ビジョン」／「小中設置基準」／文「学力テスト」結果発表／文「サポートチーム推進事業」	小泉①	タマちゃん人気／プチ整形／ムネオ・キヨミ騒動／「千と千尋の神隠し」ヒット／三位一体改革の方針／語「タマちゃん」／「貸し剥し」／レ大「浜崎あゆみ」／大河「利家とまつ」
2003 平成15 □	・ホームレス暴行殺人続発 ・中1、幼児突き落とし殺人 ・沖縄・中2、リンチ殺人遺棄 ・高1ら一家3人殺傷事件 ・世田谷・15歳、男性刺殺 ・水戸市ホームレス殺人 ・名古屋ホームレス殺人 ・三和町・15歳、リンチ殺人 ・16歳万引き犯店主殺害 ・宇都宮16歳、リンチ死 ・高3、交際女性の子虐待死 ・大阪18歳、一家3人殺傷 ・熊谷16歳女ら2人殺人	・いじめ8年再増加 ・小6、ホームレス襲撃 ・女児4名監禁事件 ・中3、授業中に飲酒 ・中3、リネージュに不正アクセス ・中3、教室大床売買 ・「ねこ狩り」強盗 ・高1、交番を襲撃 ・中3、妹殴り重傷 ・9歳、自宅放火 ・中3、路上強盗	ネット集団自殺多発／33歳いじめ返し爆弾製造／熊谷4人殺傷／中3女拉致監禁／自殺3万人超／自己破産20万超／出会系サイト事件多発／16歳撲殺焼却事件／横浜恋人一家惨殺事件／ハ王子路上暴行死／21歳バスジャック／26歳中3女監禁／23歳小3女児略取／45歳宇治小侵入／民間人校長自殺／内閣府「青少年育成施策大綱」／人間力戦略会議報告／次世代育成支援対策法／健康増進法／東京都一斉導入・新異動要綱決定・高校学区撤廃	小泉①	甲虫王者ムシキング／教「ヤンキー母校に帰る」／「マニフェスト」／語「毒まんじゅう」／「なんでだろー」／レ大「浜崎あゆみ」／大河「MUSASHI」
2004 平成16 □	・小6女児、同級生を殺害 ・高1、いじめ相手の母殺害 ・19歳、教師の両親を殺害 ・金沢17歳、老夫婦刺殺 ・高1、姉妹を金槌で殴打 ・19歳、父親刺殺し放火 ・熊谷・中2ら強盗殺人 ・振り込め詐欺仲間を殺害 ・木更津・中3、母親刺殺 ・高1ら高2女拉致絞殺 ・高1、GF巡り同級生強殺 ・19歳、高1女絞殺後遺棄 ・19歳女ら24歳女監禁虐待 ・中1、小2重過失致死	・小6、百万強請恐喝 ・小6、教室で包丁 ・中2女、5歳児突き落とし ・中3、斧で母親襲撃 ・小6女児、カツアゲ ・高1女、祭客刺傷 ・小6、小1女児猥褻 ・高校生の大麻乱用 ・小の校内暴力最多 ・中3、爆弾製造 ・中3、オレオレ詐欺 ・高1、父と妹刺傷	新潟中越地震／インド洋大津波／振込オレオレ詐欺／岸和田中3虐待／ロシア学校テロ／ソウル日本人学校襲撃／28歳三子父母姉殺人／奈良女児殺人／校長自殺続発／枚方32歳家族3人殺害／女子高生コンクリート詰りと大宰府男児殺害犯再犯／27歳4人連続殺人／鳥インフルエンザ発生／地域運営学校／少年法改正／改正虐待防止法／文「甦れ日本」／「キャリア教育推進」／「三位一体改革」／「脳科学と教育の研究」／OECD学力調査結果発表／国民保護法成立／犯罪被害基本法制定	小泉②	「冬のソナタ」ヒット、韓流ブーム／「バカの壁」ベストセラー／ストーリーカーとDV過去最高／ニート問題／オシヤレ魔女ラブベリー流行／栄養教諭誕生／教「ごくせん」／語「チョー気持ちいい」／「気合だ」／「自己責任」／レ大「Mr.childoren」／大河「新撰組」
2005 平成17 □	・17歳、母校侵入教師刺殺 ・高1、両親殺害後爆破図る ・中3、3人、先輩の父強殺 ・高3、母の内縁夫を強殺 ・小2、スツーカーズ致死 ・中1、勉強会じり母殺害 ・富田林・19歳、母を刺殺 ・中3、奴隷扱いの兄を刺殺 ・高3ら3人、37歳殺害 ・19歳バイクに追突死傷 ・高1男、同級女生徒刺殺	・17歳、ハンマー魔 ・高3、教室に爆発物 ・高3、同級生を刺傷 ・中1、妹殴打事件 ・中3、警察官刺傷 ・中3、校内で日本刀 ・中3女、消火剤噴射 ・94連続リンチ死刑 ・高1女、母毒殺未遂 ・広島小1女児殺害 ・栃木小1女児殺害	福知山線脱線事故／愛知万博開催／悪質リフォーム／偽1万円札／ネット監禁事件／自殺サイト利用3人殺害／塾講師小6女児殺害／26歳包丁男高校侵入／26歳小学校侵入／米ハリケーン被害／パキスタン地震死者4万／郵政民営化法成立／内閣府発表「ニート85万人」／耐震強度偽装問題／第二アベスト問題／個人情報保護法施行／文字活字文化振興法制定／高校生の不登校調査／紀宮さま御結婚	小泉③	刺殺、GPS、ICタグ等の防犯グッズ／朝青龍全場所制覇／「電車男」ヒット、「萌え」流行語に／野口さん宇宙へ／鳥インフルエンザ／教「女王の教室」／語「小泉劇場」／「想定内（外）」／レ大「Butterfly」／大河「義経」
2006 平成18 □	・高1男、母親殺害 ・中2の放火で義妹死亡 ・高1、交際のもつれで中2女殺害	・高2、友人に火をつける ・中3、校内で衝突死	日本海側豪雪被害／64歳新生児誘拐／ライブドア事件／園児の母、同級生の幼児2名刺殺／41歳、小3男児突き落とし	小泉④	大河「功名が辻」WBCで日本優勝

* 「社会状況・風俗・流行等」欄：「大河」＝NHK大河ドラマ、「語」＝流行語大賞、「教」＝教師主役のドラマ、「レ大」＝レコード大賞（85～は受賞者名）
* 太字は本文中で扱った事件、網掛けは事例検討したもの

■付表2 60年の年表（少年殺人 犯罪／社会情勢／文化・風俗）

XXI

XXII

私は青年の「問題」はできるかぎり精神医療ではなく、社会の中で解決されたほうがよいと考えている。しかし、もし社会の持つ解決能力があまりにも乏しくなっているとしたら、それはある種の問題のたらい回しにすぎなくなる。問題が診察室に持ち込まれたとき、まずそれが社会の中で時間とともに解決される可能性はないかを含めて、十分に検討する必要がある。（『思春期の心の臨床』金剛出版、二〇〇一）

わたしも同感です。これはもちろん医療の責任放棄ということとは違いますよ。青木さんは続けてこう述べます。「それが、難しいようなら第二に、青年の相談を受けている人を援助することによって青年が元気になるだろうか、ということを考える必要がある。青年と家族を支えるのに、ある程度、知識と経験をもった人の援助が必要だとしても、それを精神医療者が直接に引き受けるのではなく、できる限り、青年の身近にいる『専門家』（たとえば教師）を援助することによって間接的に支える方がよい。」

（5）反精神医学：五番目の背景は、六〇年代に「反精神医学」の運動が大きく盛り上がったことでした。これは精神障害を、生物学的にであれ心理学的にであれ、患者個人の脳内もしくはその内に在する異常性・病理性に帰して疑わなかった従来の精神医学への異議申し立ての運動でした。

神経伝達回路の異常といった正統精神医学における生物学的なとらえ方にせよ、自我の葛藤といった力動精神医学における心理学的なとらえ方にせよ、あくまでも問題を個体のもつ障害性、個人のもつ病理性として扱うのですね。

しかし、それでは一面的に過ぎまいか。人間は社会環境のなかを相互的に生きる存在で、その環境がはらむ非合理や矛盾が個人を失調へと追いやる側面が不当に無視されている。家族、社会、国家など人間の共同性が強いる矛盾のしわ寄せをひきうけた個人が精神障害者というべきで、かつまた、その結果である障害ゆえにさらに共同体から排除や差別を受けるのが精神障害者である。こうして共同体から二重に疎外された存在であるのに、精神医学はそれを患者個人の病理性に帰して社会環境側の問題に目をつむり、結果的に患者の社会からの疎外に荷担してしまいが。精神医学はほんとうに病者の側に立っているのか。これが反精神医学の異議申し立てでした。

この反精神医学は、この時代の精神医療の一般的な粗末さや障害者差別の実態とあいまって、統合失調症の問題を中心に精神医学者、精神医療関係者に大きなインパクトをもたらしました。医療改革運動や反差別運動、一部では政治的な反体制運動にまで燃えひろがり、そこまでゆかなくても精神障害における社会的負荷要因、環境的負荷要因にあらためて目が注がれたのです。メンタルな失調現象をできるだけ社会的・環境的な文脈でとらえたいとする志向が、統合失調症だけではなく、さまざまな方向へ向けられました。

不登校の例がわかりやすいでしょう。不登校とは子どもの病理ではない。現代日本の高学歴志向、知育偏重教育、受験競争がもたらすストレスこそが不登校の原因である。歪んだ教育体制や学歴信仰に囚われた親たち、さらにそれらの根底に横たわる学歴・学校歴社会こそが問題であって、不登校児はその犠牲者、告発者とみななければならない。治療すべきは不登校ではなく、病んだ現代社会の教育環境なのである、云々。

不登校の児童精神医学的なとらえ方の変遷をたどってみますと、ある時期から右の見解が強く主張されてひろまったことがわかります。類型化した不登校理解のひとつで、皆さんも耳にされたことがおありでしょう。これは反精神医学的な理念の不登校バージョンで、わが国の児童精神医学が反精神医学の波に洗われて生まれた見解でした。

現代社会では、自己中心性に対する否定的な契機としての「現実」を厳然として、しかしやがて受け入れ可能なものとして子どもの前に示しうる存在がはつきりしなくなりました。前著の引きこもりのところで、もはや父親はモデルにされないと話に出ましたが、それともつながっているでしょうね。「大勢のなかの自分」という感覚を、社会的な現実感覚や社会的な倫理感覚、つまり従来の文化においては「父性的なもの」とされてきた感覚ともども、うまく身につけにくくなってきたのではないかと。「なぜ人を殺してはいけないのか」というぬけぬけとした問いの背後に、佐藤さんが感じられたのは、こうしたことでしょうか。

—そう思います。

★ヴェトナム戦争の帰還兵士たちに起こったこと

—つまり通常であれば、自分の中のなにかが壊れないうえに「殺せない」ようになっていくわけですね。スタンリー・キューブリックのフィルムに『フルメタル・ジャケット』というものがあります。ヴェトナム戦争を描いた映画だったのですが、前半が新兵の教育です。「人間的なるもの」を一つずつ剥がしていき、戦闘マシーンとして教育していく、そういうプロセスが描かれているのです。耐えきれず、自殺してしまう若者も出てくるほど過酷なわけですね。

キューブリックはそこで、身体的な訓練以上に、「言語」に着眼しているのです。「ふだんは人前では口にできない卑猥な言葉、罵詈雑言、最凶最悪の言葉をたえず大声で言わせる。起きているあいだじゅう、言わせているわけですね。言語は意識のなりたちに直結していますから、そうやってこのころのなにかを組み替えていくのですね。ですからそこで描かれる過酷さは、身体的な鍛錬のキツさというより、自分の中のなにかが壊されていくことの過酷さです。そして「かけがえのない自分」も「大勢のなかの自分」も持たない殺人マシーンができていくわけですね。本来はそういうものはずなんです……」

滝川 まったくそのとおりで、人間とはめったに「人を殺せない」のです。これは中井久夫先生からの受け売りなんですけれども、軍事心理学の研究によれば、敵味方の兵士が対峙していざ銃撃戦になっても、実際に敵兵に照準を向けて、撃てる兵士は一部を出ないそうです。大多数は発砲しないか、狙いを外して撃っているのです。戦争という殺人が承認された状況で、しかも殺らねば殺られるかもしれぬ戦場面でさえ、ふつう人間はそうなのですから、なんだか救いのある話でしょう。人間って本来はそういうものなのですね。殺人やテロの報道ばかりに囲まれて、それが見えなくなっているのではないのでしょうか。

ただ、これには救いのない続きがあつて、気づかねばよかったものを、戦後、米軍官脳部がこの事実気づいたのです。相手のうち一割しか撃たぬなら、こちらは五割六割が撃てる兵士を養成すれば、これは勝てる理屈ですね。アメリカはよくも悪くも徹底性のある国ですから、ちゃんと相手を撃てる兵士の訓練に取り組んだわけですね。行動療法のテクニックを応用（悪用）したゾツとするような心理学的な訓練です。その一端が佐藤さんのこらんなった映画にも描かれていたのかもしれないですね。

おっしゃるとおり、人間の中のなにかを徹底的に壊す訓練です。そうやって特訓した若い兵士たちをヴェトナムに送り込み、やがてその兵士たちが帰還してきたあと、米国は大きなつけを払う羽目になったわけですね。帰還兵たちの深刻な社会不適応と凶悪犯罪、精神失調の問題です。この兵士たちのケアという重い社会問題が背景にあつて、DSMに「PTSD（心的外傷後ストレス障害）」という診断概念が盛り込まれたのです。いちおう「過酷なヴェトナム体験によるこころの傷」ということにはされていますけれども、すでにそれ以前に、きわめて人為的にこころを、「自分」というものを壊された人たちがたつた可能性が色濃いですね。——うーん、なるほど。戦争そのものが壊したのではなく、有能な兵士となる訓練が壊したのだ。これはかなり重要な意見だと思います。いま、こうした時代にあるからこそ、このことはもともと多くの人に共有されてよい、また共有されなくてはならない事実ですね。」

コストへの責任を、だれが背負ってくれるのだろうか

滝川 このような問題点はあっても、個々の子どもの側から捉えたとき、精神医療に委ねられることによって、よりよい解決や援助が得られるなら、それはそれでその子にとってメリットと申せますね。また、そうでなければ委ねられる意味がありません。その社会動向をよしとするかは別として、委ねられた以上、その個々のケースに対して医療はベストを尽くしたいものです。けれども、消費社会の論理に則って言えば、コストの問題があるでしょう。前著で児童思春期病棟の経営はどこも大赤字だと申しあげましたよね。子どもを病院に預かって生活や教養面もふくめてケアするには、その物的・人的環境を確保するのにとてもコストがかかります。さらに薬を出して終わりではなく、精神療法やカウンセリングをとおしてメンタルな面からも個別的なケアを進めるには、人的にも時間的にもコストがかかります。さらに家族関係を調整したり、地域との関係を調整したりにもとても手間ひまがかかりますね。

現在、そういうコストや手間ひまをかけられる条件が精神医療に与えられているかと言え、まったくありません。前回の本の続きで言えば、九州のバスジャック事件はこの問題を浮き彫りにしました。少年の親御さんが病院を非難しておられましたね、入院中、主治医の診察が少なかったとか。でも現在の精神病院の体制で、主治医の診察が週一回というのは良心的なペースなのですよ。

——そうなんですか。

滝川 そうです。精神科以外の病院では入院患者一六人につき医者一名がいなければいけない法的な規定になっています。ところが精神科だけは、なんと入院患者四八人に医者一名と抑えられているのです。土台無理な話でしょう。大勢の入院患者さんを抱え、そのうえ外来診察もやっているわけですよ。

ですからあの事件でなにかを批判したいなら、病院や主治医ではなくて、こうした医療体制をよしとしている自分たちの社会を批判すべきでしょう。なぜ精神科だけが医者の数が三分の一とされているかと言え、要するに「精神障害者差別」ですね。わたしは「差別、差別」と言い立てるのは好まないんですけど、これにはそう言わざるをえません。これを公認しているのはわたしたちの社会です。精神科の病気の多くは本当にケアしようと思つたら、ちよつと診て、あとは検査でというわけにはゆかず、ゆつくり話を聴いたり時間をかけたかわりをしたりする必要があるのに……。その意味で親御さんの不満にはもつともなところがあります。でも、矛先が違いますよね。精神科は、医師数だけでなく患者あたりの医療費も抑えられ、全診療科平均の半分くらいではないでしょうか。こういう状況ですから、仮にどんどん医療で受け入れるにも、その条件はとうてい用意されていないわけですね。

もう一つ、医者数が極端に低く抑えられているわけは、じつにパラドキシカルな話ですけども、患者さんがとても多いからですね。他科とおなじ患者比で医師を置いたら、コストがかかりすぎるというわけでしょう。なぜそんなに多いかと言え、精神障害はありふれたあなたにもわたしにも起きる身近な失調だからです。それに治療に日時を要する失調が多いですね。ここでの回復にはときがいきますから。医療の手薄さが、さらに患者のままでいる人を増やしている悪循環も考えねばなりませんし……。だれしも家族から親類縁者、知人を見わたせば、おそらく一人か二人、精神科的な病気を経験したり、いま病気だつたりの方がいらつしやいませんか。なにも特別なものではなく、だれにとつても身近なことなのです。でも、わたしたちの社会はこれに蓋をしています。いろいろなかたちで噴き出す精神障害をめぐる社会問題は、どんな問題であれ、掘り下げてゆくと結局この「蓋」の「つけ」ではないでしょうか。

——「弱者」に優しい社会を、と言いながら、肝心のところには「蓋」をしてきましたから。

滝川 こうした精神医療のおかれた状況をふまえて、もつと深く考えなくてはいけないと思いますね。子どもの諸問題を、いまや医学化せざるをえない、精神医療に委ねざるをえないのであれば、それだけのコストを払つてその条件を整備しなくてはいけないですね。すでにいる患者さんのケアだけでも手が回らないのが現状なのですから。それ抜きで、精神医療でやってくださいとして、そして失敗が起きれば批判するというのでは、都合がよすぎましよう。

「不登校」問題から「ひきこもり」問題へ

現在の不登校は、どんな負荷要因でも、登校を持続する動機や意欲をたやすくそこなってしまうほど勉学や学校の意義が子どもたちの間で薄れているという現象です。その負荷要因は、まさに勉強がつまらないというものでも、集団生活が疲れるというものでも、規律が窮屈というものでも、教員と合わないというものでも、いじめでも、友だち関係の悩みでも、親子関係の悩みでも、(古典的な不登校のような)神経症的な葛藤でも、若年性の鬱病など精神疾患でも、そのほかなんでもありになっています。昔ならこんなことでは休まなかったのに、といったことから不登校が起きます。

勉学や学校の値打ちや意義が低下したのは、ここまで述べてきたように理由あってのことです。そして、値打ちや意義を感じないことから努力を傾けるのはだれしも困難なことですね。みなさんだって、この講義が自分にはまったく意味がないと感じられたなら座っておられないでしょう。ですから、不登校の増加も、それそのものだけとれば自然のながれで、「病的」な異常現象ではありません。

ただ、子どもの成長という視点からとらえれば、次の問題が残ります。子どもは一般に家族の「エロスの関係」における交流をとおして、こころという共同性の世界を育んでゆきます。それだけで大人になれば、それでよいのですが、社会的なインパーソナルな共同世界を大人(社会人)として生きてゆくためには、家族の外の関係世界「社会的関係」における交流をとおして、さらに複雑な共同性を育んでゆかねばなりません。

現代社会で「子どもたちの社会的関係」の場をほとんど一手に引き受けているのが学校です。近代化の達成は隣保的な地域共同体を解体させずにおきませんでしたし、そこにおける自然発生的な子ども集団、年長児から年少児まで路地や空き地につどって遊び戯れるような子どもの社会集団も消滅させたからです。子どもの社会的な共同体験は「学校生活」にほとんどゆだねられるようになっていきます。学校を価値として支える社会的な思い入れは下がるいっぽうなのに、学校への社会の依存は増しているという面がありますね。これも現在の学校が強いられる矛盾です。

このような状況下では長期の不登校は、社会的な共同体験それによって育まれる社会的な関係世界をともにするところ(ひきこもりの習得)を遅らせることになります。「関係の発達」を連続的な相対差とみれば、その足どりがいくらか遅い子、対人関係を不得手とする子はかならずいて、それが負荷要因となって不登校になる子も少なくないでしょう。登校が自明だった時代には、そうした子も登校を続けるうちに関係の力を伸ばせていったのですが、いまはたやすく不登校となって苦手の部分がますます遅れるわけで、このようなケースでは社会的な関係において大きな力不足や自信欠如を残す結果となります。

不登校の問題が、現在では「ひきこもり」の問題へとシフトしてきた背景にはこれがあるでしょう。学校へ行かないだけなら今やさほどの社会問題とはならなくなり、それよりも家にこもっていることのほうが大問題になってきたわけですね。労働をもふくめ私たちが日々共有し享受している社会的な共同世界の参入が、これまで知っていた精神障害とはまったく別の事情から困難な人たちがいる。これをどう考え、どう対処したらよいのか。これが「ひきこもり」という問題です。

「ひきこもり」はたんに子どもの関係能力の問題ではなく、アスペルガー症候群のところでも触れましたように、私たちの同世界のありかたがきわめて複雑化し、また人と人の関係がデリケートに繊細化したため、だれにとっても社会的に生きることがむずかしくなっていることの現われとも見なければなりません。

そのうえ、私たち自身、自分たちのこの共同世界になにを求めるべきなのか、どのような共同性をつくりあげてゆけばよいのか、この複雑さとむずかしさのなかで混乱と閉塞の状態にあります。私たちは近代的人間観における「自立した個人」を生きるにせよ、共同性なくしては「個人」もありえませんから、なにものかを社会的に深く共有しなければならぬでしょう。でも、なにを共有すべきかの社会的な合意は、おいそれとはなりたちそうにありません。

ふれいど訪問活動

青木 誤解がないように言っておきたいんですが、基本的にはひきこもりというのは、ある種の休養や充電というようなポジティブなイメージも十分持っているものであるし、いいとか悪いとかという価値判断でとらえるものではないですよ。ひきこもっている時間を少しでもその人にとっていい時間にしていくというが、少しでもひきこもりの質を向上させることから、まず始めていくというアプローチが安全でもありますよね。

この座談会の前に斎藤先生の『社会的ひきこもり』（PHP新書、一九九八）と、中井先生の『分裂病の回復と養生』（星和書店、二〇〇〇）をもう一度読んでみたのですが、斎藤先生があの本で提起されている重要なポイントのひとつは、ひきこもりを結果として見るんじゃなくて、ひきこもりの結果、二次的にいろいろな問題行動が起こってくるということに注意しなければならないということだろうと思うのです。

続いて中井先生の本を読んでいると、ひきこも
りからの回復過程と、分裂病からの回復過程とい
うものが重なってくる部分が非常に多いと感じた
んですね。たとえば、積極的に何かをするという
よりも、何か回復を妨げているものを除いていく
ような発想というのでしょうか、そういう回復過
程の考え方がかなり重なって、いろいろおもしろ
いなと思いながら読んだんです。

そして、ほく自身はどうしているかなと思つたときに、結局ひきこもっている人に外に出るといつてもなかなか無理なんですけれども、でも少しでも動いて経験しながら考えるということところにもつていくにはどうしたらいいか。中井先生の受け売りになるんですが、先生は分裂病の回復過程で、生産よりも消費を先にするようにと言われていますね。実際はほくも、働くよりも遊びが先だど。お金を使うようなことができるようになって、初めて稼げるようになる。あるいはひきこもる人たちの場合「何かしなければいけない」と思っている人が多いので、何かするよりも、まわりの人をじつくりと見る観察者になること、見ることの方が先じゃないかと。まず見るようになるようになって、次にすることができるようになる。だからまず、よく観察者になることが大切なのではないかと。

中井 分裂病の人は、一室にこもつていても、少なくともある時期までは心理的にはまったくひきこもつていない、寒風にさらされて荒野に立っているのと同じなんだね。そこが違ふと思う。

田嶋誠一さんという九州大学の心理の教授に去年、甲南大学と合宿したときに来てもらつてね。心理の人というのは四〇分のカウンセリングでお

金一万円とか何とかいうのを夢見ていたのではな
め、とにかく泥まみれにならなければいけない
という話をしてた。自分も学生相談室にいたと
きに、九大の学生が家で二階の一室にこもって暴
れていると。その学生の体重が一〇〇キロあると
いうのだね。九州人は実践派だから、彼は行くん
ですよ、その家に。そして階段をのぼりながら、
なんて言おうかと思うわけ、相手は一〇〇キロだ
しね。階段を上るときに頭をよぎったのが、電話
の一回分が三分である、最低料金がね。三分たつ
たら相手にしてくれるだろうと。だからドアを開
けて、自分は九大のかくかくの者であつて、怪し
い人間ではない。で、三分だけきみと話をしたい
と。三分たつたらもう話が途中で**もほくはやめて**
帰る。三、**かい**いかと言つたら、三分ならいいと言つ
たそうだ。それで三分たつたらばつとやめて下り
ていつて、そうしてその翌日また行つて、三分、
三分とやつて、それで解決していつた。これは
ね、九大の非常にプログラマティックないところ
が現れてると思つたよね。

青木　そうですね。この三分と五分のところがすく
くいいですね。

中井「産イメージ療法」を發明した人だけであつて、階級をあげるあいだに、一種の窮地の中で、三分というところを思ひつくあたりが、なかなか斎藤 その瞬間に浮かんだ言葉だから説得力があつたんじゃないかと思ひますね。青木先生も書いておられましたけれど、しかるべき時期というかタイムイングをいかにとらえるかが重要なんですね。ひきこもつてしまつと、時間がのつべりと平坦化してしまつて、そういう偶然が起こりにくくなつてしまふという印象があります。

中井 そういつとき、家に行つて離れにでもしばらく座つて帰るとかね。なにかホメオスタシスをちよつと変える。

青木 風通しをよくする。

中井 空の地へ行ってわけて。

齋藤 直にあれこれ説得するよりも、それとなく治療者の存在をアピールするだけでいい。

中井 これは分裂病の例なんですけれど、私が東大病院におったころだから三〇年以上前になりますが、ある精神科医が神奈川県精神保健センターにいて、通つてこない分裂病の人のところに薬を持っていく。患者の家のドアを開けて、敷居においておくわけね。一週間たつてみると薬飲んでいない。で、それを新しい袋に変える。今度はちよつと入って、かまちに置くと。それを繰り返すうちに、薬が減つていくようになるという話があった。この男が、自分はこんな医者以前の情けない、つまらないことをしているんですよと言うもんだから、何言つているんだ、それは非常に

う最高のことをやっているんだということを言ったんですけれどね。

青木 家庭の中に他人が入って来る、しかもおつと侵入的に入るわけではなくて、少し風通しがよくなるような入り方というのでしょうか、脅かさないような配慮的な入り方という、そこら辺の判断がケースケースで大切になるんだと思います。

中井 家系を見てみて、いとこがそういう人に頼むこともある。母方の叔父さんというのはいわりといいんだと書いたこともあるんですけど、父方はどうもまずい。家の名誉にこだわっているからね。

斎藤 そういうおじさんやおばさん、あるいはいとこ関係が、交流が乏しいせいであって利用できない場合が増えてくる気がします。これから少子化でさらに減りそうですね。

いま民間でひきこもり事例の訪問支援活動が非常に盛んになっています。ただみんな無手勝流でやっているものですから、さすがにすかさず中に入り込んだりまではしないまでも、外からお説教だけするような人もいたりとか、非常に玉石混交のような状況なんですね。今のようになちよと行って帰るだけでいいという部分というののもけっこうあるんじゃないかと思うんですけど、そのあたりが、なにしろサービス精神が旺盛な人が多いので、来た以上は何時間かいなきやいかんと思ってしまう。

中井 それに関して思い出すのは、よくが精神科に行こうと思った時に読んだのは精神科の本じゃないんですね。『ワイリアム・シャラーのゴリラの森』という本です。シャラーというのはゴリラ研究者。日本隊というのはゴリラにアプローチしようとして失敗してチンパンジーに転ずるんですね。なぜ失敗したかというゴリラはタケノコしか食べないんだ。だから日本の餌付け法というのはだめ。それから集団で行ったらだめらしい。ゴリラは一種の家族に近い形で移動するけれども、非常に集団に対して警戒するわけね。

シャラーはゴリラにアプローチした最初の一人でしょうね。彼がゴリラの森に入っていくと、ゴリラが全然いないんだけど、フンがいつばいあるんだ。だからゴリラはいる。森を歩いていると、なにかゴリラにしきりに見られているような気がする。まなざしを感じる。それで彼は、人間だからいかなのだらうと。で、森の一部になつたらゴリラは出てくるんじゃないかというわけで、森の中で立っているんですね。ほーっと。だいたい森の一部になつたかなと思えたころ、ゴリラが出てくるわけですよ（笑）。

ゴリラはひきこもっているわけじゃなくて、その性として騒がしいのが嫌いで、また一種類のものしか食べないのだけれど、シャラーは最後には

ね、ゴリラと一緒に壮大な夕日を見たり、背中合わせでうたた寝するところまでいくわけだ。だけれど、彼は能動的に動かない、ゴリラの方がそうしてくるわけ。それまでじっと待つ。

それではくは、「うん、病棟の一部になつたら、分裂病の人にもそんなに私は脅威にならんぞう」と思つたんだね。これで精神科にいけると思つた。

斎藤 非常に示唆的なお話ですね。訪問はどうしても善意の押しつけになつてしまうんです、訪問してあげているみたいな感じに。まあ金を取るのには当然だからいいとしても、ちよつと出そうという圧力をかけなければ金を出してくれている親に申し訳ない、みたいなところが出てくるわけです。

中井 ひきこもっている人は全アンテナを集中している。

斎藤 部屋の外で起こっていることはすべて聞き耳を立てています。

青木 学校の担任の先生の家庭訪問にしても、あまり侵入的でなければ、たとえば来てなにかプリントを渡すとか、ちよつと話して帰るとか、来たというサインを送つて帰つてくみふうなことを続けるというのは、やはり大事なことはないかと思ひます。

中井 さっきの薬の袋を置いていくとかね、三分と言ふとか。

青木 ある子どもが言つたんですけれど、先生が半年ぐらい一週間に一回来ていたけれど、自分は全然会わなくて、あるときはたつと来なくなつたと。そのときに自分は学校から捨てられたんだというふうに感じたと言つた子がいました。なるほど、会わなくてもなにかのあとがある、あるいは来たということとはすこく支えになつていふことがあるんだなと思ひました。定期的になにかやり始めたこととは、あまり不用意にやめないということも大事なことだなと思ひます。

斎藤 ばくもそう思ひます。親もそうなんですよ。親が働きかけを始めると子どもはうるさがるんですけど、やめるとやつぱりがつきりしてしまふというか。結局、ひきこもっている人の考えていることというのは、いつ見捨てられて家から追い出されるかという危機感ですから。親から定期的に見捨てていないというサインを出し続ける必要がありますね。

青木 学校の先生の家庭訪問でも、最初から無理な計画で毎日行くとかじゃなくて、仕事の合間で、自分でできる間隔で計画を立てるというか、それを続けていくということが大事なことになるんじゃないかと思ひます。

斎藤 そうですね。間があいても、とにかく定期的に来るという。

中井 関西弁でいう、アホにならんあかんね。賢く、小ざかしく動いたら全然だめだね。

「子ども・若者ビジョン」 子ども・若者の成長を応援し、一人ひとりを包みこむ社会を目指して～概要～

子ども・若者等に対する施策の基本的方向

(1) 困難な状況に直面する子ども・若者等に対する支援

- ① ニート、ひきこもり、不登校の子ども・若者への支援等
子ども・若者支援協議会の設置促進（ネットワークの形成）
／支援に携わる人材養成／地域若者サポートステーション事業の実施等
- ② 障害のある子ども・若者の支援
教育・就労支援等／発達障害のある者の支援
- ③ 非行・犯罪に陥った子ども・若者の支援等
非行防止活動、相談活動の推進／薬物乱用防止（再発防止等）
／少年院における矯正教育等の充実／しよく罪指導等処遇の充実等
- ④ 子どもへの貧困問題への対応
子ども手当、高校の奨学金無償化、奨学金の充実／ひとり親家庭への支援
／貧困の連鎖の防止／状況把握等
- ⑤ 困難を有する子ども・若者の居場所づくり
要保護児童の居場所づくり／グループホーム等の居場所づくり
／外国人等特に配慮が必要な子ども・若者の支援
- ⑥ 外国人等特に配慮が必要な子ども・若者の支援
外国人の子どもの教育充実／定住外国人の若者の就労促進
／性同一性障害者等／十代の親への支援／適出ない子
- ⑦ 子ども・若者の被害防止・保護
児童虐待防止対策／里親の拡充など社会的養護の充実
／児童養育、児童ポルノ等の犯罪被害にあった者等への対応
／いじめ被害、自殺対策
／被害防止教育（メディアリテラシー）の習得、情報モラルの涵養等）等

困難を有する子ども・若者やその家族を支援

- (1) 自己形成支援
・日常生活能力の習得 — 生活習慣の形成、規範意識等の育成等
・多様な活動機会の提供 — 自然体験、芸術・伝統文化体験等
・学力の向上 — 基礎学力の保障等／高校教育の質の保証等
・大学教育等の充実 — 質の高い教育の展開支援等
・経済的支援の充実 — 子ども手当、高校の実質無償化等
- (2) 社会形成・社会参加支援
・社会形成への参加支援 — 社会形成・社会参加に関する教育（シニア・シニア教育）の推進
／子ども・若者の意見表明機会の確保
・社会参加の促進 — ボランティア活動、国際交流活動等
・健康と安心の確保
(3) 健康と安心の確保 — 思春期特有の課題（喫煙、性感染症等）への対応
／健康教育の推進等
- (4) 若者の職業的自立、就労等支援
・職業能力・意欲の習得 — キャリア教育、職業教育の体系的な充実
／ジョブ・カード制度の推進等
- ・就労等支援の充実 — 高校生、大学生等に対する就職支援等

すべての子ども・若者の健やかな成長を支援

- #### 位置づけ
- 子ども・若者育成支援推進法に基づく「大綱」として、子ども・若者ビジョンを作成
子ども・若者育成支援推進法に関する基本的な方針等について定めるもの
- #### 状況認識
- ・グローバル化の進展
多様な価値観をもつ人々との共生が必要
 - ・情報化の進展
視野等を広げる一方、被害等の負の影響の懸念
 - ・雇用環境の大きな変化
非正規雇用の増大、フリーター・ニートの数の高止まり
 - ・経済的格差の拡大と世代をまたがる固定化
「子どもの貧困」問題としてクローズアップ
 - ・家庭や地域の養育力の低下、児童虐待被害

- #### 策定の考え方
- ・社会を構成する重要な「主体」として尊重
 - ・子ども・若者を中心に据え、地域ネットワークの中での成長を支援
 - ・「すべて」の子ども・若者と、「困難を抱えている」子ども・若者の両方を支援
 - ・「今」を生きる子ども・若者を支えるとともに、「将来」をよりよく生きるための成長も支援
 - ・大人がその役割の重要性を認識し、積極的によりよい社会づくりを推進

- #### 基本的な方針
- (1) 憲法及び児童の権利条約に基づき子ども・若者の最善の利益を尊重
 - (2) 子ども・若者は、大人と共に生きるパートナー
 - (3) 自己を確立し社会の能動的形成員となるための支援
 - (4) 一人一人の状況に応じた総合的な支援を、社会全体で重層的に実施
 - (5) 大人社会の在り方の見直し
- #### 理念
- (1) すべての子ども・若者が生き生きと、幸せに生きていく力を身につけるための取組
 - (2) 困難を有する子ども・若者やその家族を支援するための取組
 - (3) 地域における多様な担い手の育成
- #### 重点課題

(1) 環境整備

- ① 家庭、学校及び地域の相互の関係の再構築
・保護者等への支援を行う「家庭を閉じこもり」取組 — 家庭教育に関する人材養成、相談体制の充実等
・外部の力も活用した「開かれた学校」づくり — 学校支援地域本部やコミュニティ・スクールの設置促進
／スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等
- ② 放課後の居場所やさまざまな活動の場づくり — 放課後子どもプランの推進等
・犯罪等の被害に遭いにくいまちづくり
・相談体制の充実 — 子ども・若者総合相談センターの体制確保支援
／オンブズマン・センター等子どもの相談体制の普及
- ③ 民間団体等の取組の推進 — 国民運動等の取組の推進／新しい公共による活動等の支援
・関係機関の機能強化、地域における多様な担い手の育成
・専門職の養成・確保
・地域における多様な担い手の育成 — 青少年リーダー等の育成／ピア・カウンセリングの普及等
- ④ 子ども・若者を取り巻く育環境等への対応
・フィルタリングの性能向上、利用普及／インターネット上の違法情報の取締り
／ゲームや携帯電話をめぐる問題への取組等

(2) 大人社会の在り方の見直し — 雇用・労働の在り方の見直し等

今後の施策の推進体制等

- ・子ども・若者に関する関係等の把握等
- ・広報啓発等
- ・国際的な連携・協力
- ・国の関係機関等の連携・協力の促進
- ・関係施策の実施状況の点検・評価
- ・子ども・若者の意見聴取等
- ・ビジョンの見直し（5年を目途）等

＊「子ども・若者ビジョン」は、主として学童期以降の施策に重点を、「子ども・子育てビジョン」は、乳幼児期を中心とした子どもや子育て家庭に関する施策に重点を



IV. 参考資料



家から **こども** が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか

ほっこり会
(ひきこもり家族の会)





ハートツリーは
生きづらさを抱える人たちの未来への一歩を応援しています。

生きづらさや課題を抱える人の相談や、安心して過ごせる「居場所」づくりから、
就労支援まで、社会へと飛び立っていくための緩やかな歩みを私たちは全力でサポートします。



ひきこもりサポート事業

「外へ一歩踏み出したい」「誰かと話をしたい」
そんなときに気軽に立ち寄れる『居場所』がここにあります。
相談・訪問支援・社会体験活動・レクリエーションなどを行っています。



ひきこもりサポート事業

ひなたの森

認定
NPO法人 ハートツリー
Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



ひきこもりサポート事業

あづまプラッツ

認定
NPO法人 ハートツリー
Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



【ご利用日時】月～金曜 /9:00～18:00
(居場所は 13:00～17:00 まで) (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号
【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org



【ご利用日時】月～金曜 /9:00～18:00
(居場所は 13:00～17:00 まで) (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒647-0073 新宮市木ノ川 169-3
【TEL・FAX】0735-31-7740 【E-mail】platz@heart-tree.org



就労準備支援事業 「働く」ことの自信へと繋げる訓練の「場」

ハートツリー菓子工房

〒646-0028 田辺市高雄一丁目 23 番 1 号
田辺市民総合センター北館
【定休日】土曜・日曜・祝日 【TEL・FAX】0739-33-7850

OnlyOneProduct
手作り雑貨

tete テテ

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号
【TEL・FAX】0739-33-7850



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org



学習支援事業

ひとり親家庭の子どもや不登校生の学力向上と、様々な課題に寄り添います



田辺市子どもの学習支援事業

「ひなた塾」

■小学生（4年生～）、
中学生、高校生（定時制・通信制）
【時 間】学年によって時間が異なります
【受講料】無料



子ども食堂

「ひなた食堂」

■月1回 第4火曜日
■ひなた塾受講生
【時 間】18:00～
【料 金】1回100円

就職支援プログラム



「就労」に向けたそれぞれのステップアップを応援します。



南紀若者サポートステーション

（和歌山県・厚生労働省受託事業・和歌山県若者サポートステーション withyou 事業）



写真はイメージです

15歳から39歳までの若者への就労支援

「働きたいけど働く自信がない若者への支援」

「働いていない期間が長いので就職できるか心配」

「どんな仕事が自分に合っているのかわからない」

「対人関係が苦手で就職活動が難しい」など

職業的な自立のためのご相談を受け付けています。

相談の他にも、就職に役立つセミナーなどを開催しております。



【ご利用日時】月～金曜/10:00～18:00（土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み）

〒646-0028 田辺市高雄一丁目23番1号 田辺市民総合センター北館

【TEL】0739-25-2111 【FAX】0739-25-0085

【E-mail】nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp 【HP】http://www.nanki-saposute.jp



串本サテライト

【ご利用日時】水・木・金/13:00～16:00

（土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み）

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27

（旧）養春小学校2階 5・6年生教室

【TEL】0735-67-7172 【FAX】0735-67-7173



新宮サテライト

【ご利用日時】水・金曜/11:00～16:00

（土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み）

〒647-0073 新宮市木ノ川169-3

【TEL・FAX】0735-31-7740

【E-mail】platz@heart-tree.org



認定

NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org





若者サポートステーション With You 南紀

ご利用日時: 月～金曜/10:00～18:00
(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館

TEL.0739-25-2111
FAX.0739-25-0085

[Eメール] nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
[ホームページ] <http://www.nanki-saposute.jp/>
[携帯サイト] <http://www.nanki-saposute.jp/ktai/>

携帯サイトへアクセス!



南紀をくるとサポート!

利用
料
無
料

若者サポ ステーシ ョン With You 南紀

悩みや不安を抱えている
15歳～39歳までの若者をサポートします。



予約制

相談は予約制になりますので、
お問い合わせください



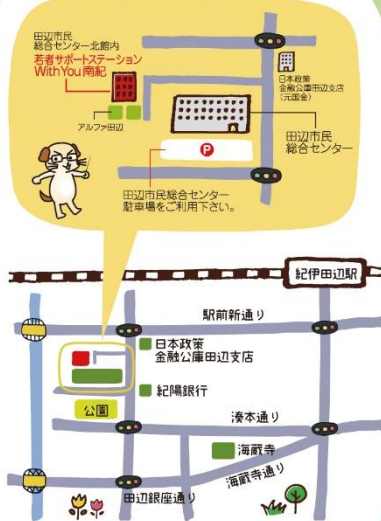
新宮サテライト

ご利用日時: 第2・第4水曜日 11:00～16:00

〒647-0073 和歌山県新宮市木ノ川169-3

TEL.0735-31-7740 FAX.0735-31-7730

[Eメール]: shingu@nanki-saposute.jp



串本 新宮

予約制

相談は予約制になりますので、
お問い合わせください



串本サテライト

ご利用日時: 火曜日・木曜日 13:00～16:00

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27(旧)養春小学校 2階 5・6年生教室

TEL.0735-67-7172 FAX.0735-67-7173



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006

認定特定非営利活動法人ハートツリー

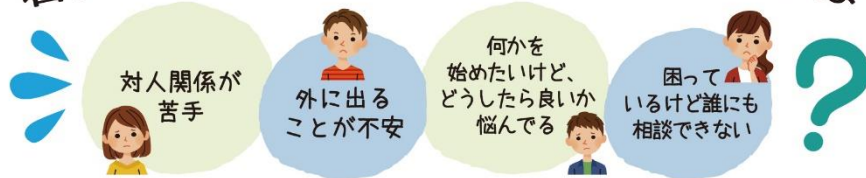
【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】<https://heart-tree.org>



若者サポートステーション With You は



そんなあなたの **はじめての一步** を応援します！

若者サポートステーションWithYou南紀とは？



県内3カ所の「若者サポートステーション」(働くことに不安のある若者の就業的自立を支援する施設)に和歌山県若者総合相談WithYouを併設し、「若者サポートステーション With You」として、一体的に支援を展開しています。おおむね15歳から39歳までの若者が抱える様々な悩みや問題について支援機関と連携しながら対応しています。



★その他の相談として…公認心理士(臨床心理士)によるこころの相談(完全予約制)

好評！
**出張
サテライト相談**
串本・新宮サテライトで出張相談を行っています。詳しくはお問い合わせ下さい。



安心の **ネットワーク** で 応援します！

若者サポートステーション WithYou 南紀は、各関係支援機関と緊密なネットワークを構築していますので、安心して継続的・発展的なサポートを受けることができます。

さあ！まずは相談してみませんか！
ご家族からのご相談も、もちろんお受け致します。



認定

NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org



NPO法人かたつむりの会

設立趣旨

「まちづくり」や「環境保護」の問題を障害を持った人や社会に出ることに支援が必要な人たちの就労、生活、発達支援につなげて取り組んでいきたいと考え、この法人の設立に至りました。

問題を個々に捉えるのではなく関連した問題、課題として捉え、活動していくことで、関わった全ての人や地域社会が安全で豊かなものになっていくことを願います。

まったく微力ではありますが、出来る所から少しずつ取り組んでいければと思っています。

沿革

2007年度

任意団体かたつむりの会として、社会生活を送る上で支援を求める人たちと共に活動を開始。

2008年2月29日

NPO法人かたつむりの会、設立

2009年2月

「町家カフェ上屋敷二丁目」をオープン。

2009年8月

障害者就労継続支援A型事業所として、県の指定を受ける。

2011年4月

町家カフェ多機能型として、障害者就労移行支援事業所「ワークサポートいこう」を銀座通りに開所。一般就労に向けて、二年間の支援プログラムを実施する。

2012年9月

町家カフェ2号店として、元中部公民館を改修し「ララ・ロカレ」オープン。

2013年4月

「ワークサポートいこう」を障害者就労継続支援B型事業所に変更。

2014年8月

指定特定相談支援事業所「町家カフェ上屋敷二丁目」を開所。

2016年11月

法人本部・指定特定相談支援事業所・就労継続支援B型事業所「ワークサポートいこう」を移転。

2019年4月

「町家カフェ上屋敷二丁目」を障害者就労継続支援B型事業所に変更。

町家カフェ上屋敷二丁目 (障害者就労継続支援B型事業所)



古民家を改修したカフェです。
ランチや手作り石窯で
焼くピザが好評です。



田辺市上屋敷2-6-31

営業時間

9:00~14:30 (月曜定休日)

TEL 0739-20-5595



RaRaLocale

(障害者就労継続支援A型事業所)

パスタとパンのお店です。
レトロな建物なので
ライブなどのイベントも開かれます。
週20時間以上働ける人は
雇用保険など社会保険に加入します。

「ララロカレ」
イタリア語で「地元の」
という意味です。



田辺市上屋敷2-6-7

営業時間

土・日・祝 9:00~17:30
平日 10:00~17:30 (火曜定休日)

TEL 0739-34-2146

ワークサポートいこう (障害者就労継続支援B型事業所)



より広い層の利用者さんに通っていただけるよう
施設等を整備し、平成28年11月に移転しました。
働くことの土台作りを目指すとともに
少しずつ工賃も得ていきます。



田辺市上屋敷1-7-28

開所時間

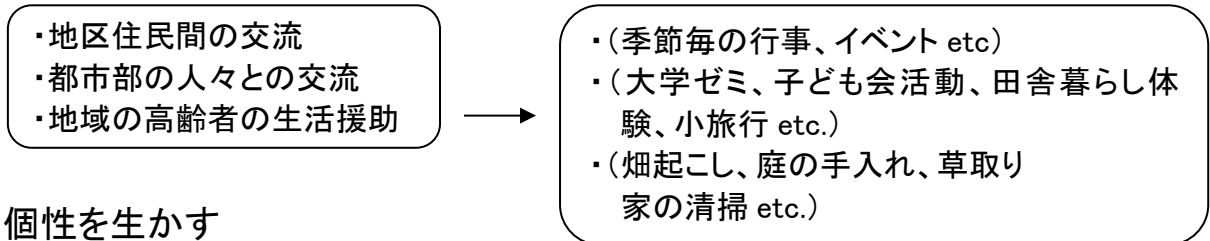
月~金 9:30~16:00

TEL 0739-25-3888

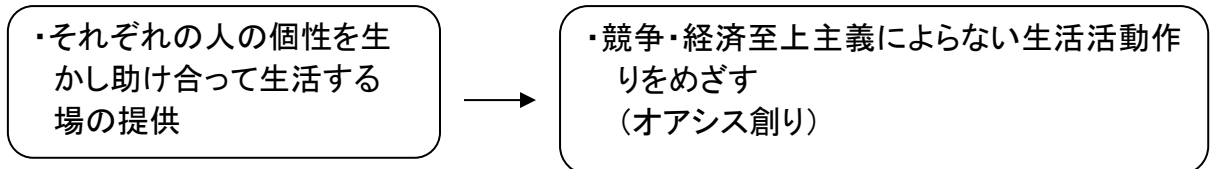
私共 NPO 法人共生舎は社会福祉法の制度に依らずそれぞれの立場の者がその個性を認め生かし、お互いに助け合って生活していくという理念の下に活動しております。

主な活動

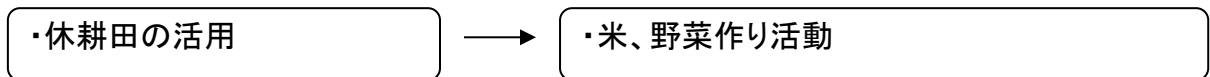
・助け合い



・個性を生かす



・自給自足をめざす



活動の場

・山あい拠点

田辺市(旧大塔村)五味 240-10 共生舎 古民家 定員 10 名

ただいま活動に共鳴していただける方を求めています

1. 正会員になる。(年会費 5,000 円)
2. 共生舎のPRをしていただける方
3. 上記行事などへのボランティアに参加していただける方
4. 財政的援助をしてくださる方(金額は問わず)

連絡先 NPO 法人共生舎 田辺市五味 240-10
(Tel) 0739-62-0400

田辺市「ひきこもり」検討委員会設置要綱

（設置）

第1条 思春期・青年期にある者（以下「青少年」という。）にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- （1）「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- （2）前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- （3）「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- （4）「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- （5）前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

（組織）

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者、民間支援団体、医療・保健・福祉・教育関係機関、市職員等の中から、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする

（委員会）

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

（事務局）

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年4月1日から施行する。

		選 出 区 分	備 考 (選 出 団 体 ・ 役 職 名)
委 員 長	1	福祉関係団体・機関	社会福祉法人やおき福祉会
副 委 員 長	2	民間支援団体	認定NPO法人ハートツリー 若者サポートステーション With You南紀
副 委 員 長	3	学識経験者	臨床心理士／公認心理師
小 委 員	4	学識経験者	
小 委 員	5	民間支援団体	認定NPO法人ハートツリー ひなたの森
小 委 員	6	福祉関係団体・機関	社会福祉法人ふたば福祉会
小 委 員	7	福祉関係団体・機関	田辺市障害児・者相談支援センター ゆめふる
小 委 員	8	保健機関	田辺保健所(精神保健福祉相談員)
小 委 員	9	田辺市役所	教育委員会学校教育課
小 委 員	10	田辺市役所	教育委員会生涯学習課
小 委 員	11	田辺市役所	やすらぎ対策課(障害福祉室)
小 委 員	12	田辺市役所	健康増進課
	13	民間支援団体	共生舎
	14	青年会議所	白浜・田辺青年会議所
	15	民間支援団体	NPO法人 かたつむりの会
	16	福祉関係団体・機関	紀南児童相談所
	17	医療関係者・団体・機関	精神科医師
	18	医療関係者・団体・機関	精神科医師
	19	医療関係者・団体・機関	紀南こころの医療センター(臨床心理士/公認心理師)
	20	教育関係機関	田辺市教育研究所
	21	教育関係機関	田辺市養護教諭研究会
	22	教育関係機関	和歌山県教育庁 紀南教育事務所
	23	教育関係機関	紀南六高校代表
	24	教育関係機関	西牟婁養護教諭研究協議会高校ブロック代表
	25	学識経験者	文京学院大学(准教授/臨床心理学博士/公認心理師)
	26	学識経験者	主任児童委員
	27	学識経験者	龍神地区
	28	学識経験者	大塔地区
	29	学識経験者	中辺路地区
	30	学識経験者	本宮地区
	31	田辺市役所	保健福祉部長
	32	田辺市役所	子育て推進課
	33	田辺市役所	商工振興課